

平成 17 年度国土施策創発調査

「地域プライド創発による地域づくりのあり方に関する調査」

～ 地域固有の歴史的・精神的・文化的価値を軸とした地域プライドの創発～

【要約版】

平成 18 年 3 月

文部科学省	生涯学習政策局
文化庁	文化 部
文化庁	文化 財 部
国土交通省	都市・地域整備局

- 目 次 -

第1章 地域プライドと地域プライドによる地域づくりについて

- 1 - 1 本調査における地域プライドの定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 1 - 2 歴史的地域プライドによる地域づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第2章 全国の歴史・文化を活かした地域づくりの現状に関する調査

- 2 - 1 都道府県アンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 2 - 2 歴史的地域プライドによる地域づくりの全国事例調査・・・・・・・・8
- 2 - 3 歴史的地域プライドによる地域づくりの海外事例調査・・・・・・11

第3章 モデル地域における歴史・文化を活かした地域づくりの現状に関する調査

- 3 - 1 モデル地域調査の目的とモデル地域の設定・・・・・・・・・・・・16
- 3 - 2 モデル地域ヒアリング調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
- 3 - 3 市民アンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 3 - 4 モデル地域における歴史的地域プライドによる地域づくりの実態・・・・27

第4章 歴史的地域プライドによる地域づくりの推進方策

- 4 - 1 歴史的地域プライド事例分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
- 4 - 2 歴史的地域プライドによる地域づくりの視点整理・・・・・・・・・・35
- 4 - 3 歴史的地域プライドによる地域づくりの推進方策・・・・・・・・・・37

第1章 地域プライドと地域プライドによる地域づくりについて

1 - 1 本調査における地域プライドの定義

(1) 地域プライドとは

人に個性があり、プライドがあるように、地域にも個性があり、プライドがある。しかし、これまでのインフラ整備や産業振興等といった、いわば成果が見える地域づくりが中心に進められてきた時代において、これら地域が本来持っていたはずのプライドが消滅しつつある。

一方で、その中でも地域のプライドを守り、育てている地域が存在する。地域プライドを守り、育てていくことは、地域づくりの大きなエネルギーとなり、個性ある人づくり、地域づくりにつながっているといえる。

(2) 本調査での地域プライドとは

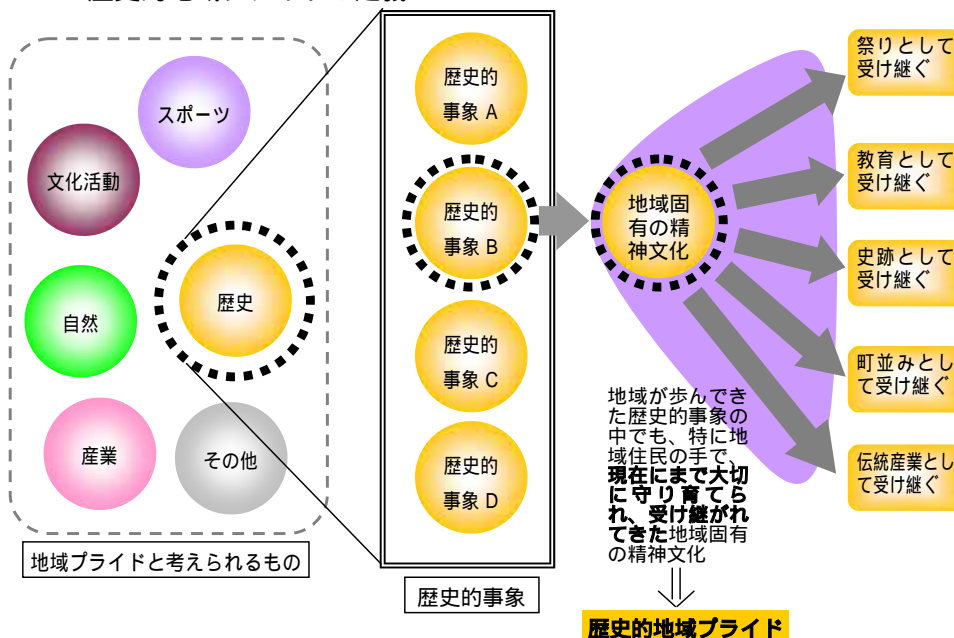
サッカーや野球、音楽や劇などといったスポーツ文化活動を起こし、人々がこれらを誇り(プライド)に思い、これを地域づくり、地域振興につなげている地域が多く見られる。また、地域を形づくる山や川、水などの自然そのものを敬い、これを誇り(プライド)として地域づくり、地域振興につなげている地域も多く見られる。

一方で、各々の地域では、有史以来、経験し、蓄積してきた多くの歴史的事象が存在する。その中でも、地域の人々により、時には労力を出し、資金を出し、精神を発揮して、これら歴史的事象を、祭りをはじめ、民俗芸能、遺構、伝承、あるいは町並みなどとして、大切に守り育て、受け継いできているものがある。

このように数ある地域の歴史的事象の中で、地域の人々によって受け継ぎ、守り育てられてきた「地域固有の精神文化」こそ「地域プライド」である。

本調査では、様々な地域プライドのうち、(主に明治期以前から)長い年月を経て、守り受け継がれてきている「地域固有の精神文化」に着目し、これを「歴史的地域プライド」と定義する。

図 1-1-1：歴史的地域プライドの定義



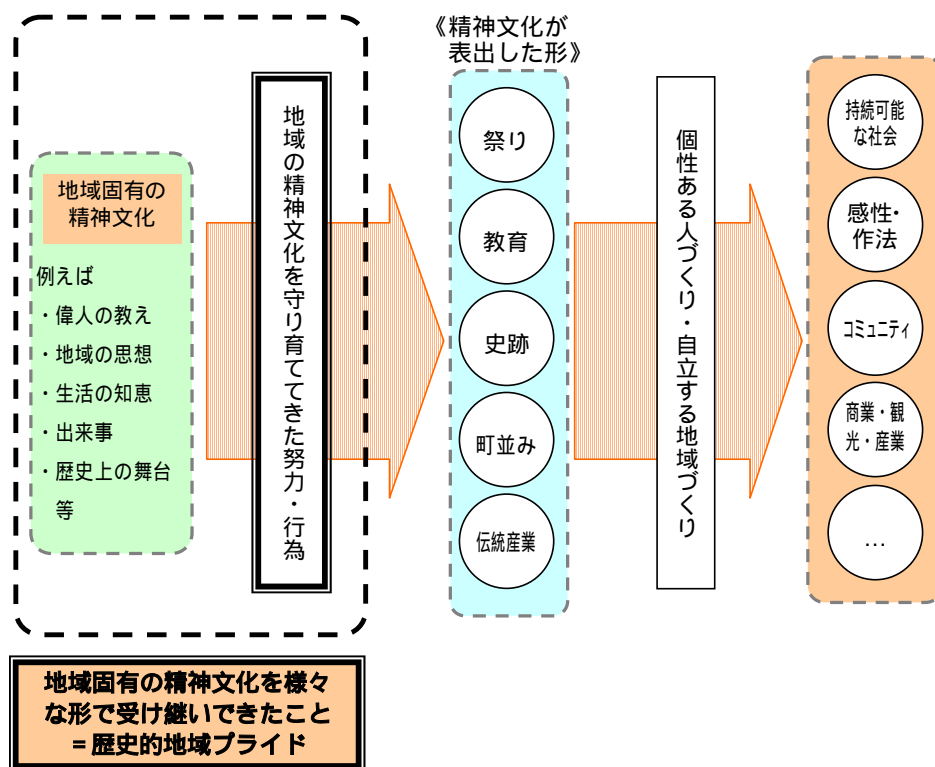
1 - 2 歴史的地域プライドによる地域づくり

(1) 歴史的地域プライドによる地域づくりの意義

これら歴史・祭り・文化資源等が現在にまで残り、受け継がれているのには理由があり、受け継ぎ、守り育てるために様々な努力（取り組み）がなされている。

このように「歴史的地域プライド」が地域住民の中で共有できている地域においては、時代が変わり、社会システムが変貌しようとも、今後とも個性ある人づくり、地域づくりが継続できるものであると考えられる。更には、地域プライドを持った人々により地域づくりが行われていくことは、これからの持続可能な社会の形成、豊かな人の感性や作法を生み出すばかりではなく、地域コミュニティの再生・活性化、観光や新産業といった地域振興にも大きく寄与できるものである。

図 1-2-1：歴史的地域プライドによる地域づくりの意義



第2章 全国の歴史・文化を活かした地域づくりの現状に関する調査

2 - 1 都道府県アンケート調査

(1) アンケート調査実施概要

- ・ 全国 47 都道府県における「文化振興」、「生涯学習」、「文化財」、「地域振興」、「NPO」、「観光」を担当する6つの部署に郵送によりアンケートを配布、インターネットメール及びFAXによる回収。
- ・ 配布数 289 件のうち、180 件から回答（回収率：62.3%）

(2) 歴史的地域プライドの抽出

- ・ 全国都道府県から寄せられた地域の誇りとして考えられる歴史的な資源を、以下の8つのテーマに分類すると、最も多かったのが「伝統芸能・祭り」であり、全体の約30.6%を占めている。次いで「町並み・史跡」であり、全体の約27.4%を占める。
- ・ これら上位2つは、文化財保護法でいわれる『文化財』として定義されているものであり、地域の誇りとして挙げることができる代表的なテーマとなっている。その他、「産業・伝統工芸」についてもこの部類に入ると考えられる。
- ・ これらの次に多いのは、「先人・教え」であり、地域が輩出した偉人や地域ゆかりの人が地域の誇りとして数多く位置づけられている。

先人・教え

- ・ 地域ゆかりの偉人の業績や教えを地域の誇りとしている。
- ・ 歴史上の人物のゆかりの地であることを地域の誇りとしている。
- ・ 地域ゆかりの組織（例えば水軍や地域の歴史文化を継承する技術者など）を地域の誇りとしている。
- ・ 歴史上の人物個人ではなく、これら人物を多数輩出してきた地であることを地域の誇りとしている。

出来事・発祥

- ・ 歴史のターニングポイントとなるような出来事（戦争など）が起こった地であること、またはその出来事に由来する史跡等が存在することを地域の誇りとしている。
- ・ 文化的な事項（音楽など）の発祥の地であることを地域の誇りとしている。

拠点・要衝

- ・ 各時代における地域の中心・拠点として繁栄した地であったことを地域の誇りとしている。
- ・ 交通や物流の要衝として繁栄した地であったことを地域の誇りとしている。

町並み・史跡

- ・ 歴史的な建造物や構造物、町並みが残っている、またはこれら資源を守り受け継

いでいることを地域の誇りとしている。

- ・歴史上価値の高い史跡を有している、またはこれら史跡を多く有していることを地域の誇りとしている。

伝統芸能・祭り

- ・風俗慣習や祭礼行事、民俗芸能を現代まで継承していることを地域の誇りとしている。

神話・伝説

- ・日本創生の神話や諸伝説にかかわる地であること、またはその神話・伝説に係わる史跡等が存在することを地域の誇りとしている。

独自文化

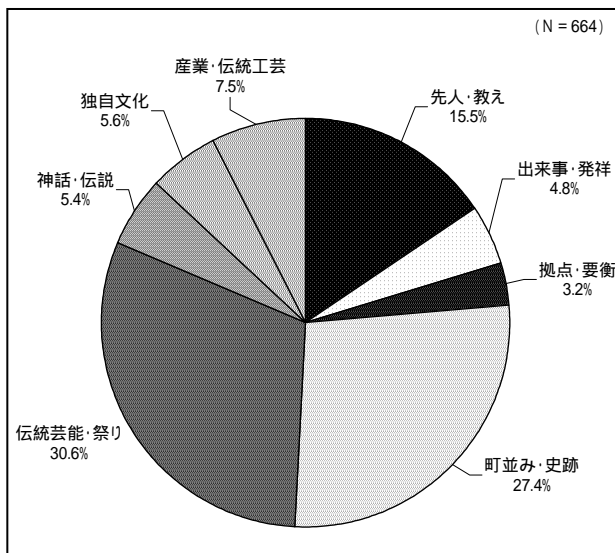
- ・地域独自の生活文化を現在まで受け継いでいることを地域の誇りとしている。
- ・地域の長い間受け継がれてきた教え（例えば、江戸時代の藩校の教え）を現在まで受け継いでいることを地域の誇りとしている。
- ・歌（和歌や俳句、連歌など）が多数読まれた地であることや、これら文化に関連の深い地であることを地域の誇りとしている。

産業・伝統工芸

- ・日本を代表する産業や伝統工芸が興った地であることを地域の誇りとしている。
- ・近代産業の中心地であることを地域の誇りとしている。

全国アンケート調査では、その他、「自然」「食文化」「天然記念物」などに関する誇りも挙げられたが、これら事項については、以下の集計・分析の対象外とする。

図 2-1-1：歴史的地域プライドのテーマ別分類



(3) 地域の誇りとして考えられる理由

- ・ (2)に挙げられた歴史的地域プライドが地域の誇りとなっている理由として、「地域の住民が熟知していること」が最も多く、約41.5%を占めている。これは、8つのどのテーマをみても最も多く、『地域住民が知っている』ことが、誇りと考えられる一因であるといえる。
- ・ 次いで、「地域住民の心の支えとなっている。または生活の一部となっている」が約23.9%と高くなっており、「神話・伝説」を除く全てのテーマで「地域の住民が熟知していること」に次いで高くなっている。特に有形、無形文化財などの“形態”として日常触れることができるテーマについては、これを誇りとする理由として挙げる傾向が高い。
- ・ 一方で、「伝統芸能」、「神話・伝説」、「独自文化」及び「拠点・要衝」といった文化財などの形としてだけでなく、“伝承による言い伝え”などを主たる継承の形とするテーマについては、「地域独自の考え方・信念が息づいている」ことを誇りとなっている理由として挙げる傾向が高くなっている。

(4) 歴史的地域プライドを活かした地域づくりに向けた取り組み

【取り組み内容について】

- ・ 「歴史的地域プライド」を活かした地域づくりへの取り組みとしては、「祭りやイベント」として取り組んでいる事例が最も多く、全体の約24.4%を占めている。次いで、「施設整備」、「パンフレット等の作成」に取り組んでいる事例が多い。
- ・ 次いで、「文化資源等の保護」、「公開講座、市民講座」、「地域教育」と続き、歴史的な資源のそのものを継承したり、保護したりする取り組みに加え、「広報」、「学習」、「教育」といったソフト的な取り組みも比較的多く実施されている。
- ・ 歴史的地域プライドのテーマ別に見ると、「先人・教え」についての取り組みとして、顕彰活動（偉人に関連する団体や市町村が参加し、交流を図るサミット）や誕生祭などの「祭りやイベント」が比較的多く実施されているとともに、顕彰記念館など、先人ゆかりの遺品等を保存展示する施設整備も比較的多く実施されている。
- ・ また、「拠点・要衝」や「町並み・史跡」では「町並み・回遊ルートの整備」に取り組む事例が多く、「独自文化」では「公開講座、市民講座」、「伝統芸能・祭り」及び「神話・伝説」では「地域教育（地域の中における通過儀礼や民族行事、礼、語り部等を通じて、地域の年長者から年少者へ伝えられること）」に取り組む事例が他のテーマに比べて多く実施されている。

【取り組み主体について】

- ・ これら取り組み内容について、取り組み主体を見ると、行政機関が取り組み主体となっている活動が全体の約45%を占める。次いで、「町会、自治会、地域住民」が約15.6%、「NPOや市民活動団体などの非営利団体」が約12.0%となっており、取り組みの主体が行政機関であるものと、地域住民やNPO等の市民団体である場合とに大きく二分される。

- ・ テーマ別に見ると、ほとんどのテーマで、行政機関が取り組み主体となっているケースが多い。特に、「市町村」による取り組み事例が最も多く、「伝統芸能・祭り」を除く全てのテーマで3割を超える取り組みを行っており、その中でも「拠点・要衝」、「産業・伝統工芸」、「先人・教え」に対する取り組み事例が多くなっている。
- ・ 「伝統芸能・祭り」、「町並み・史跡」については「町会、自治会、地域住民」が、「独自文化」については「NPOや市民活動団体などの非営利団体」が主体となって取り組んでいる事例が多い。

(5) 地域の誇りとして考えられる歴史的な資源を伝えるコンテンツ

- ・ 「歴史的地域プライド」を地域住民等に伝えるために、これまで“伝承”という形が中心であったが、現在は、より幅広く、より分かりやすく伝えるため、様々なコンテンツが作成され、公開されている。
- ・ コンテンツとして最も多いのが、「書籍」であり、学校教材における副読本や行政機関のホームページなどとして公開されている。次いで、「調査研究」が多く、「拠点・要衝」や「町並み・史跡」のテーマは、史跡等そのものに対する調査研究報告書として公開されている。
- ・ その他、「伝統・祭り」については、踊りや祭りそのものがコンテンツであり、これを実演することはもちろんのこと、記録としてビデオやCD、DVDなどの映像記録や音声記録として残すことが行われている。また、「先人・教え」については、「文学」や「映画・アニメなどの映像」などが創作されているほか、イメージソングをつくるなど、「音楽」として伝える取り組みも比較的多く実施されている。
- ・ 全体的には数は多くないものの、「先人・教え」、「拠点・要衝」、「神話・伝説」及び「出来事・発祥」において、ミュージカルやオペラなどの創作の材料となっている事例も見られる。

(6) 地域の誇りとして考えられる歴史的な資源を活かした地域づくりへの行政支援の実態

- ・ 都道府県において、地域の誇りとして考えられる「歴史的地域プライド」を活かした地域づくりに対する支援を行っている部署は、全体の約半数である。部署別にみると、「文化財保護・活用」部署での支援割合が最も高く、約77.8%が何らかの行政支援を行っている。次いで、「観光」、「文化振興」、「地域振興」の部署の支援割合が高く、約半数となっている。
- ・ なお、「生涯学習」及び「NPO」の部署では、「歴史的地域プライド」に限定したような取り組みではなく、これらを含めた幅広い取り組みに対する支援を行っていることから、支援割合は他の部署に比べて、低くなっている。

(7) 地域の誇りとして考えられる歴史的な資源に関する教育・学習活動

- ・ 地域の誇りとして考えられる歴史的な資源を地域の人々に伝え、受け継いでいくための教育・学習活動の実態をみると、取り組み主体では「都道府県」や「市町村」とい

った行政機関が最も多く、両者で約半数を占める。次いで「非営利団体」、「教育機関」となっている。

- ・ 教育・学習活動の対象者として、「地域住民(地域の児童・学生を除く)」が最も多く、約半数を占める。次いで、「地域の児童・学生」を対象としたものが多い。
- ・ 取り組み方法では、「研修会、講座形式(シンポジウム等含む)」が最も多く、約半数を占める。次いで、「ワークショップ形式」が多くなっている。

(8)「地域の誇り」を活かした地域づくりの課題

- ・ 担当部署別に課題を整理する。

担当部署	課題
文化振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の理解と気運づくりが重要。そのための情報提供や周知機会の確保や支援が必要。 ・ 財源の確保。
NPO	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民(NPOやボランティア含む)の自主的な活動。 ・ 地域住民(NPOやボランティア含む)と行政との協働と役割分担。
生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民が自らの地域の歴史・文化への理解を深めることが必要。そのためには学習機会・情報発信機会等を増やすことが重要。 ・ 人材育成や組織の継続の困難性。 ・ 財源の確保。
文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財に対する理解を得るのが困難...価値観の多様化、開発との整合。 ・ 後継者の不足、リーダーとなる人材の不足。 ・ 本物を地域に残すことの必要性。 ・ 財政上の課題...文化財保護。
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客・行政・事業者・住民の価値観の違い。これら立場の異なるもの同士の連携の必要性。 ・ 人口減少、少子高齢化に伴う地域の資源を守り育てる環境の弱体化。 ・ 行政の枠組みの変化による独自の地域文化が喪失するおそれ。
地域振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーや後継者の不足。 ・ 知る、触れる機会の減少。 ・ 地域の資源(遺産)に対する理解度。 ・ 他の地域資源との組み合わせによる地域振興や他部署との連携(観光分野など)。 ・ 価値観の差異。 ・ 財源の確保。

2 - 2 歴史的地域プライドによる地域づくりの全国事例調査

都道府県アンケート調査から寄せられた歴史的地域プライド及び文献やインターネットにおける情報から、全国で歴史的地域プライドによる地域づくりを実践している地域を抽出し、電話等でのヒアリング調査等を実施した。

(1) 岐阜県郡上市 (旧八幡町)

【宝暦の義民・凌霜 (りょうそう) の精神を受け継ぐ郡上踊りの継承】

- ・ 宝暦期の重税に対する大一揆で、幕府に命を賭けて上訴した義民を誇りとしている。また、維新時に新政府支配下でありながら会津支援のため「凌霜隊」を結成し、派遣している。
- ・ 宝暦の義民は郡上踊りとして受け継がれ、維新の義考は、凌霜の精神として語り継がれている。
- ・ 宝暦一揆の映画、児童向けの漫画「ふるさとをゆく」、劇団による上演、その他多くの社会教育のための本が作られている。
- ・ 凌霜は満州開拓団の精神的支柱となり、また合併新市の教育方針の根幹に、「凌霜の心」として取り上げられ、地域の人づくりに資している。

(2) 福島県会津若松市

【藩校日新館の教えによる会津人づくり】

- ・ 保科正之以降の会津若松の歴史について、小学校・中学校用に副読本を作成し、全校で使用している。
- ・ 日新館を再建し、小学校の校外学習に使ったり、4年生 (10 歳) の時に「1/2 成人式」として、学童を集め、日新館の教えを勉強したりしている。
- ・ 会津出身の偉人を上演する市民団体や「会津偉人たち展」を常設展示、また多くの地域住民による社会教育活動も盛んである。
- ・ 市長自ら中学校に出向き会津の歴史を講和している。また、日新館の教えを「あいづっこ宣言」として策定し、家庭に配り、街角の各所に高札を立てるなど、日新館の教えによる会津人づくりを推進している。

(3) 滋賀県高島市 (旧安曇川町)

【近江聖人中江藤樹の教え「致良知 (ちりょうち)」によるまちづくり】

- ・ 江戸時代初期の安曇川出身の儒学者で、日本における陽明学の開祖。数多くの徳行・感化によって、没後も 近江聖人 として敬われ慕われている。
- ・ 「致良知 (ちりょうち)」とは「人間は本来誰もが美しい心を備えている」ということを意味し、人や自分の善い面を引き出す生活をするための大切さ、この「致良知」を村の人々に説き続けた中江藤樹及び藤樹の教えを地域の誇りとして、現代にまで耐えることなく受け継がれてきている。

- ・ 小学校3～6年生を対象とした副読本があり、それ以下の児童向けに藤樹カルタや紙芝居を作成している。
- ・ 藤樹書院や中江藤樹記念館で、フォーラムやシンポジウム、生誕日に「立志祭」を行い、社会教育が盛んである。また、中江藤樹というビデオを作成し、社会教育にあてている。
- ・ 合併新市も「藤樹の教えによるまちづくり」を標榜している。

(4) 栃木県二宮町他

【二宮尊徳の報徳精神と報徳仕法による地域づくり】

- ・ 二宮尊徳については、貧乏ゆえに懸命に働き、親に孝行したという二宮金次郎像に見られる幼少期の姿が有名である。この二宮尊徳ゆかりの町としては、誕生地である神奈川県小田原市からその後移り住んだ栃木県二宮町に至るまで様々な市町村がある。
- ・ 二宮尊徳については、この幼少期の勤勉の姿よりも、江戸時代に「至誠」「勤勉」「分度」「推譲」という4つの精神（報徳精神といわれる）をもとに、財政再建や農村復興に大きな成果を挙げた取り組み（報徳仕法といわれる）によって現在の地域が成り立っていることを誇りにしている地域が多く存在する。
- ・ これら地域では、報徳仕法をまちづくりに活かすために、資料館やゆかりの史跡の整備・保存のみでなく、生涯学習やまちづくり講座における「報徳仕法」に対する学習機会の提供をはじめ、報徳に関する理解を深めるために、劇や太鼓、オペラの創作など、様々な取り組みを行っている。
- ・ また、二宮尊徳にゆかりの深い市町村が持ち回りで「報徳サミット」を開催している。本サミットでは、報徳の教えを通して地方分権社会における住民と行政とのあり方の研究や、各自治体における「今日まで報徳思想・司法を活かしてどのようなまちづくりを進めてきたのか」「尊徳の教えや仕法をこれらかのひとつづくり・まちづくりにどう生かすか」ということを主題とする意見交換、広域的な地域間の連携・交流が行われている。

(5) 宮城県加美町

【「火伏せの虎舞」と防火啓発による地域づくり】

- ・ 加美町中新田地区（旧中新田町）は、西方部に高い山がない地形により、早春から初夏にかけて西北の強風が吹き荒れ、たびたび大火事を引き起こしてきた。
- ・ 中新田地区に伝わる伝統行事「火伏せの虎舞」の起源については、約650年前に中新田の城主斯波家兼公が住民を火難から守るため、「雲は龍に従い、風は虎に従う」の故事にならって火伏せを祈願する祭礼を行ったことが起源とされている。
- ・ また、後には領主がこの祭礼行事を経済対策として活用し、城下の繁栄策として火消組に山車と虎舞を練り歩かせることで、商売繁盛と風化火難防止の意識啓発を行った。
- ・ 明治35年に町は再度大火に見舞われ、城下473戸のうち6割が消失するという甚大な被害を受け、この大火によって祭礼道具のほとんどは焼失し、虎舞の行事も久しく中止されることとなったが、祭りに対する町民の思い入れは強く、昭和2年に復活した。
- ・ 火消組は戦時中においては警防団となり、現在では消防団と称されている。その後町村合

併により広域での消防組織の再編はあったが、中新田消防団独特の「火伏せの虎舞」は防火意識啓発のシンボルとなっており、明治 35 年の大火以来、大きな火事を出していないことは同消防団の誇りとなっている。

- ・ 現在では、毎年 4 月 29 日に商店街を会場として行われており、お囃子は地元消防団が、虎舞は男子中学生が担うなど、幅広い世代を巻き込んだ行事となっている。地元からはもちろんのこと、各地から多くの観光客が訪れ、町は大いに賑わいを見せる。
- ・ 各家庭を訪れる虎舞の虎に「頭をかぶづいて（かみついて）もらうと、頭が良くなる」との言い伝えがあり、小さな子供たちは怖くて泣きながらも虎の口に頭をくわえてもらう。そして、自分の親、兄弟、先輩たちの姿にあこがれを持って見ながら、小学校高学年になると虎舞が踊れることに胸をはずませ、練習に励む。このように、地域の子供たちは幼い頃から虎舞に親しみ、育っていく。
- ・ また、虎舞に親しむ機会は祭りのときだけにとどまらず、小中学校の授業に取り入れられたり、保育所や中学生の子供たちが虎の面作りをして各種行事の際に披露したりしている。

(6) 鹿児島県南さつま市 (旧加世田市)

【「いろは歌」による地域づくり】

- ・ 戦国武将島津忠良（日新公）は、すさんだ時代に人としての生き方を「いろは歌」として唱えた。以来 460 年間に渡り、地域住民に歌い継がれ、地域住民の確かな精神的支柱となっている。また、更に他地域への広めるために「薩摩琵琶」「妙音十二楽」を作り奨励し、いろは歌に基づく多くの琵琶歌がつくられた。
- ・ 教育委員会においても「いろは歌を活用した心の教育」を大方針とし、いろは歌カルタとり大会、歴史講座、講演会、いろは歌プロジェクト、妙音十二楽、薩摩琵琶弾奏会等広く社会教育活動を展開している。
- ・ 日新公を祭る竹田神社では N P O がいろは歌灯籠フェスタ、また、県民俗文化財に指定されている土(さむらい)踊り等を伝え、合併新市であっても平成 14 年をいろは歌元年とし、その精神による地域づくりを標榜している。

(7) 和歌山県広川町

【先人の精神を受け継ぐ津波防災まちづくりの実践】

- ・ 安政期の 1857 年、高台にあった自宅から大津波の予兆を察した浜口梧陵は、自宅に火をつけ、消火のために高台に村民を集め、襲ってきた大津波から村民の命を救った。また、津波が堤防を乗り越えてきたので、事業家（カマサ醤油の創業者）でもあった梧陵は、私財を投じて大規模な津波防災の堤防を作った。その後、梧陵は「耐久舎」をつくり、郷土を守り育てる人材育成にも努めた。
- ・ 絵本「稲むらの火」「浜口梧陵小伝」等で学校教育に取り入れている。地元「耐久大学」と称して社会教育として梧陵の人物像を学んでいる。
- ・ かつての梧陵の敷地の一部に津波防災教育センターを作り、梧陵の教えと津波教育を展開しており、梧陵を顕彰し、その教えを町民に受け継ぐべく行政展開がなされている。

(8) 宮城県大崎市 (旧鹿島台町)

【地域を災害から救った偉人を郷土の誇りとして受け継ぐ】

- ・ 常襲的な鴨田川の水害から郷土を守るため、村人の強い願いのもとに村長となった鎌田三之助は、品井沼の干拓と堤防、明治排水路を計画した。費用がかかりすぎたことから度々なる反対に会うも自らの私財を全て投じて防災事業を成し遂げた。
- ・ この村長にあること 38 年間、無給で全精力を傾け、明治天皇の励ましの言葉もいただき、事業を成功に導いた。
- ・ 現在も地域を水害から守る精神は受け継がれ、開拓・防災事業の背骨となっている。
- ・ 小学 4 年生の副読本「私たちの宮城県」に、“私たちの郷土を開いた偉人”として全県の誇りとされている。また、映画「鎌田三之助ものがたり」を町で編纂し、鎌田三之助展示室で社会教育教材としている。
- ・ わらじ村長の仇名から、町では「わらじ祭」を毎年開催し、DONDONかじまだい運営委員会などで鎌田精神の振興に取り組んでいる。

(9) 福岡県うきは市

【五庄屋伝説とその遺構を守り育てる地域づくり】

- ・ うきは市は、国の指定史跡となっている古墳や文化財、無形民俗芸能など様々な歴史・文化資源が残っている一方で、この地は広大な水田地帯を潤している地域でもある。
- ・ この肥沃な大地が昔からこの地にあったわけではなく、江戸時代の初期に 5 人の庄屋と農民の協力による灌漑事業で生み出されたものであり、先人達の苦労や努力を現在まで顕彰し、地域の誇りとして受け継いでいくために、5 人の庄屋を祭る神社を建て、小学校の副読本で地域の子どもたちに教え、その灌漑事業によりつくられた堰を代々に渡って護っている。
- ・ また、歴史的な地域プライドを地域づくりに活かすために、同市では、先代達の苦労や努力を伝えるために副読本を作成し、学校教育の中で地域のプライドを学んでいる。
- ・ また、この話は、県の教科書における副読本にも掲載され、灌漑開拓の事例として小学生をはじめ多くの見学者が訪れており、地域への経済的な効果はさておき、このような地域のプライドを守り育てていく活動、地域づくりが、観光などを含めた地域振興にも寄与できている。

2 - 3 歴史的な地域プライドによる地域づくりの海外事例調査

地域の歴史や文化を大切にし、その地域固有の精神を守り受け継いでいく取り組みについては、国内だけでなく、海外でも積極的に実践されている。

本節では、海外における歴史的な地域プライドによる地域づくりについて、文献やインターネットから情報を収集し、整理を行った。

(1) オーストリア共和国、ザルツブルグ

【モーツァルトの音楽や精神が市民の生活と密接に係わり合いをもつまち - 先人・教え】

- ・ オーストリアの西部に位置するザルツブルグは、町の名前の由来が「塩の城」と称すように、紀元前 1000 年の昔から岩塩の交易で栄えてきた歴史的に由緒ある町である。古代ローマ時代の殖民都市として栄え、7世紀にはカトリックの大司教座がおかれ、カトリックの都としても栄えてきた。山頂にそびえたつホーエンザルツブルグ城をはじめ、美しい街並みの保存により、まちの旧市街地は 1996 年に世界文化遺産に登録された。
- ・ ザルツブルグというと、「モーツァルト誕生の町」、そして映画「サウンド・オブ・ミュージック」の舞台として、音楽の町として有名であり、6月から9月まで行われる「ザルツブルグ音楽祭」をはじめ、オーストリア国立ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽大学などに世界中から多くの音楽家たちが集まってくる。
- ・ また、市民は、モーツァルトゆかりの地として、モーツァルトを称えるのみではなく、市民自らも音楽を嗜んでいる。モーツァルト自身が、世界中に多くの人々に愛されている人物であるが、市内には 12 団体もの吹奏楽団があり、彼らは市内だけでなく、国内、そして日本を始め海外での多数演奏公演を実施しており、地域交流、国際交流の一翼を担っている。また、町の至るところで、毎晩のようにモーツァルトの曲を中心にしたコンサートが行われるなど、市民の生活や文化とモーツァルトとは切り離して考えることができないものとなっている。
- ・ ザルツブルグは、モーツァルトと音楽という地域が誇りとするものが、現在においても、地域の人々の生活・文化と密接に関わっていることが地域プライドとなっているといえる。

(2) チェコ共和国、プラハ

【チェコ人のためのチェコ人による国民劇場を守るまち - 出来事・発祥】

- ・ チェコはかつて、オーストリア帝国の支配下であり、チェコ人はオーストリア人（ドイツ民族）に支配されていた。その当時、プラハの全ての劇場ではドイツ語による上演が行われていたが、19世紀になると各国で民族意識が高まり、チェコでもオーストリア人の支配に対するチェコ人の民族運動がはじまった。
- ・ このような情勢の中、チェコ語による演劇やオペラが上演できる劇場をつくらうとする動きが起こった。1849年に国民劇場建設委員会が発足し、国民からの寄付により、1868年から建設が始まり、1881年に完成した。しかし、完成まもなく、突然の火災で劇場が焼け落ちてしまう。しかし、人々の誇りは失われることなく、直ちに寄付をはじめ、再建に乗り出す。再建に必要な費用はわずか2ヶ月で集まったほど、この劇場に対するチェコ人の思いが込められている。こうして、もう一度「国民劇場」の建設が始まり、国民総出の寄付運動によって建てられたといういきさつから、舞台の真上には「国民が己のために」という金の文字が大きく刻まれる。この劇場はその後、「黄金の礼拝堂」という別名も得て、未永くプラハの人々の心の支えなって現代に至っている。
- ・ この国民劇場の建造物としての文化的価値もさることながら、幾度の危機を乗り越え、現在に至るまで国民自らが守り育てていることが、地域の誇りとして受けつがれてきている

大きな要因であるといえる。

(3) ペルー共和国、クスコ旧市街地

【「世界のへそ」として、独自文化を守るまち - 拠点・要衝】

- ・ 約500年前ペルーで栄えたインカ帝国の首都クスコ。「クスコ」とはインカの言葉(ケチュア語)で「へそ」を意味しており、古代インカ人は自分たちの都を宇宙の中心と考えていた。
- ・ やがてクスコはスペイン人による征服を受けるが、現代まで古代インカの名残が残っている。その一つがインカ時代から都市の中心地であったアルマス広場である。インカを征服したスペイン人もインカ帝国と同様にこの広場を中心としたまちづくりを行っている。同様に、インカから続く儀式として、太陽の踊り「インティラミ」が南米3大祭として毎年6月23日に開催されている。
- ・ 近年ではスペイン語だった通りの名前がケチュア語に変更されるなど、ペルー人は自分の文化に高い誇りを持っている。

(4) イタリア共和国、ボローニャ市

【「保存は革命」を軸に、古い都心の保存・再生と文化的都市をアイデンティティとした地域づくり - 町並み・史跡】

- ・ ボローニャは人口約37万人のイタリアの都市で、エミリア・ロマーニャ州の行政と経済の中心地である。また、エミリア・ロマーニャ州は高度に専門化された中小企業が多く集積し、欧州で最も生産活動の盛んな州の一つでもある。また、ボローニャには、ヨーロッパ最古の大学であるボローニャ大学法学部があるなど、大学都市として著名である町である。
- ・ 産業とともにボローニャは、歴史的市街地の保存と再生の取り組みの先駆としても世界的に有名であり、公的資金の投資をニュータウン建設から古都心の老朽化住宅への修復再生へ移行するなど、都市ストックを活用していく取り組みをいち早く実践したことが現在の「欧州文化都市」としてのまちのステータスにつながっている。
- ・ また、2000年には、「ボローニャ2000」と題する文化事業を実践し、延べ2000時間におよぶ300のコンサート、230の展覧会、260のコンベンション等を、これら都市ストックを改修することで実践した。この「ボローニャ2000」の取り組みは、行政、商工会議所、大学そして市民が芸術家や芸術団体と協力して成功させ、公式報告書によると、観光客は23%増加し、GNPで2000億リラ(約140億円)、雇用で1600人の増加があったとされる。
- ・ 町並み等に関する歴史的なストックが既にあったとしても、「保存は革命」とあるという発想の転換を思い切って実践できたことが、町の「歴史的な町並みと文化都市」イメージの定着とこれを誇りとする市民による様々な活動につながっていることがいえる。

(5) スペイン、アンダルシア州セビリア市

【春祭り(La Feria de Abril)が地域の誇りの発信の場となる - 伝統芸能・祭り】

- ・ “闘牛”や“フランメンコ”は、セビリアを州都とするこの地方が発祥といわれているが、

そのスペイン的なイメージを代表する祭りとして「春祭り」がある。

- ・ 「春祭り」の歴史は 150 年余り続いている。もともと、家畜や農機具の見本市であったのが、近郊の村からこの市のために集まった商人のために、キオスク、食べ物や飲み物の屋台、小間物売り、銀行商などの露店ができ、そして宿泊とビジネスの場としてテント小屋ができた。こうして数日間宿泊しながら商談し、仕事の後に仲間内で打ち上げをしたりするうちに、「飲んで、歌って、踊って」というお祭り騒ぎが自然発生し、祭りがメインとなり、春の恒例行事となった。
- ・ 欧州で見られる教会を中心とした厳かな儀式としての祭礼と異なり、庶民の祭りであり、また、本来の祭りの意味を変えて、自分たちが一番楽しむことができる形として、そして、自分達の文化を発信できる場として祭りが存在している。

(6) ネパール王国、カトマンドゥー

【ネワール族の集落 「ヒンドゥの伝説と教え」をまちづくりとして受け継ぐ - 神話・伝説】

- ・ ネワール族はネパールのカトマンドゥー平野一帯に居住する民族で、ネパールでは6番目に多い民族であるといわれ、ヒンドゥの伝説をまちづくりとしても守り受け継いでいる。
- ・ ヒンドゥの伝説によると、現在のカトマンズの谷は巨大な湖であり、そこにヴィシュヌ神が現れ、円盤で山を切り開き、湖水を流し去ったという。現在でもヴィシュヌ神はカトマンズ谷の守護神として崇められ、谷に至る4本の道の入り口にはこれを祀る祠がある。まちのレイアウトは16世紀に大規模な改修を受けた際に、従来の交易路ではなく格子状の道路パターンに造り替えられている。
- ・ このように、地域の伝説と教えが、地域の町づくりに大きな影響を与えている例として挙げるができる。

(7) インドネシア、バリ島ウブド地区

【「芸術の街」としての誇りを受け継ぐ - 独自文化】

- ・ バリ島の山間部に位置するウブドは、芸術の村として広く知られている。バリ絵画をはじめ、ガムランにのせて演じられる幻想的なバリ舞踊は伝統的なバリ文化を今に伝えるものとして観光客に絶大な人気があるだけでなく、他所から芸術家を呼びこむ要因になっている。レストランやホテルの多くのは、バリ風の伝統的な造りや装飾が施されており、恵まれた自然環境の中で旅の疲れを癒すことも出来るので、バリ島観光の拠点とする人も多い。
- ・ このまちが「芸術の村」といわれるようになったのは、ウブドの王家が、バリ島の芸術と絵画を愛し、それを外国に向けたことで世界的に知られることになった。このため、ウブドは芸術の中心地として数々の外国人芸術家、ボネットやスピース、ブランコ、スネルなど多くの外国人画家を魅了した。現在のウブドもその頃とあまり変わらず、ウブドで外国人作家がウブドに何ヶ月も滞在したり、多くの美術館、ネカ美術館やルダナ美術館などでは世界的にも有名なバリや外国人画家の作品を数々発見したりすることが出来る。
- ・ 独自の文化を外へ発信したことが、現在の「芸術の村」としてのイメージを定着し、これがもとに、観光などの産業に結びついた例として挙げるができる。

(8) アメリカ合衆国、ニューメキシコ州サンタフェ

【アメリカ最古のまちとして、インディアン文化を守るまち - 独自文化】

- ・ ニューメキシコ州は、アメリカ 50 の州のうち、47 番目と州としての独立は遅いが、インディアンの手により、早くから文化的にも経済的にも発達した土地であった。1600 年代、北東部でようやく植民地ができ始めた時代よりもさらに 100 年も前に、メキシコから進んできたスペイン人によって、インディアンの都市が発見されている。
- ・ ニューメキシコ州の代表的なまちとして、サンタフェというまちを挙げるができる。このまちはアメリカ大陸の開拓者によって作られたまちではなく、先住インディアンと、メキシコからやってきたスペイン人達によって、確固たる文化が築かれていたまちである。このことから、地域の住民は、アメリカ最古のまちとして、また、合衆国内の他の都市とは違う独特なまちであることを誇りとしている。
- ・ 特に、インディアンの伝統を大切にしており、「アドベ」というレンガを使った集合住宅で生活を営んでいる。インディアンが祭りごとを行うための「キバ」という集会場のデザインを州議事堂の設計に取りいれたり、インディアン文化を伝える建築様式を取り入れたものにしなければならないよう法律で定めたりしている。また、教育面などで、自分達の言語や文化を重要視する教育を実施するため、インディアンの家庭教育を道徳教材に用いた書籍等も作成されている。
- ・ このように、地域独自の文化を守り育てようとする思いを誇りとしていることが挙げられる一方で、現在のアメリカの文化・思想とインディアンの文化・思想との乖離から、特に合衆国全土から見るとマイノリティであるインディアンに対する風当たりが強まってきている。その理由の一つとして、英語と地域の言葉のバイリンガル教育などが 1990 年代を中心に行われていたが、バイリンガル教育にともなうコスト高などからその継続的な実施が難しくなっていることなどが挙げられる。

(9) イタリア共和国、ベネチア市

【産業としてのムラーノガラスの技術の継承と誇り - 産業・伝統工芸】

- ・ ムラーノガラスはベネチアングラスの代名詞であり、世界のガラス工芸のメッカ「ムラーノ島」に由来する。ムラーノガラスの歴史は古く、12 世紀頃まで遡ることができ、当時、非常に高価なガラスの製造技術秘匿のため、ベネチア共和国がガラス職人をムラーノ島に隔離したため独自の発展を遂げる。ガラス職人達はとても優遇されたが、島抜けは厳罰に処せられていたほど、ムラーノガラスだけでなく、その職人達が大切にされた。
- ・ 現在ではイタリア観光の一名所になり島内にはギャラリーやみやげ物店が散在し、イタリアの主要輸出産業であり、「水の都」の名称と共に住民の誇りとなっている。
- ・ 品質維持の法律も存在するとともに、職人自身がまちの人々から一目を置かれる存在であることが、伝統工芸をまちの誇りとして受け継いでいく大きな要因となっている。

第3章 モデル地域における歴史・文化を活かした地域づくりの現状に関する調査

3 - 1 モデル地域調査の目的とモデル地域の設定

(1) モデル地域調査の目的とモデル地域の設定

モデル調査の目的

第2章の全国調査では、地域の誇りとして考えられる歴史的資源の抽出と、これら歴史的資源を活用した地域づくりの取り組み実態、及び課題の抽出等を行った。また、地域プライドによる地域づくりを実践している市町村等の事例整理を行った。

第3章では、全国からモデル地域として3地域を抽出し、歴史的地域プライドによる地域づくりを実践している市町村及びNPO等の団体へのヒアリングを通じて、それぞれの地域における歴史的地域プライドの共有範囲や拡がり具合、歴史的地域プライドによる地域づくりのメカニズムの分析を行う。

モデル地域の選定と仮説設定

モデル地域として、「ア．東中国地域（岡山県及び鳥取県・島根県の一部）」、「イ．東九州地域（大分県東部、宮崎県のひむか神話街道沿い市町村及び鹿児島県霧島地方）」、「ウ．北上川流域地域（岩手県及び宮城県の北上川流域の市町村）」の3地域とする。

以下のように、各々の地域の歴史的地域プライドの仮説を設定し、これら地域のいくつかの市町村を対象に歴史的地域プライドの実態に関するヒアリング調査を実施する。

ア．東中国地域

仮説：「吉備地方」「出雲地方」各々の地域で、歴史的地域プライドによる地域づくりが実践されている。

岡山県を中心とする「吉備地方」は、吉備津彦命・温羅伝説に始まる古代吉備文化の発祥の地として栄え、また、九州・大和・四国など西日本の交通の要所として、各地域の様々な歴史・文化がこの地域を通じて往来し、現在に至るまで多様な産業、経済、文化の振興に大きく寄与してきた。一方で、鳥取県、島根県を中心とする「出雲地方」では、「国引き」、「八岐の大蛇」、「国譲り」など多くの神話が残り、また、出雲の鉄など、大和や吉備の勢力に匹敵するほどの先進地域でもあった。

これら地域固有の歴史・文化資源を地域住民が地域のプライドとして再認識し、地域プライドによる「自立した地域づくり」「自立した人づくり」を行っていることが考えられる。

仮説：「吉備地方」「出雲地方」を同一の文化圏とした地域間の連携による地域づくりが実践されている。

経済的、気象的、地形的な要因により、“吉備”と“出雲”といった別々の生活圏を形成してきながらも、古くは鉄を運んだ「出雲街道」を通じて、近世においては参勤交代や出雲大社への参拝の道として同一の文化圏といえるような緊密な地域性を養ってきた。

これら各々の地域に根付く歴史・文化資源の価値を学びながら、各々の地域がこれらの歴史・文化資源を「地域の誇り＝地域プライド」として受け止め、現在の地域の枠組

みを越えた文化的な視点による新たな地域連携・地域づくりを行っていることが考えられる。

イ．東九州地域

仮説：古代日本のルーツとしてのプライドを持っている。

日本の始まりは東九州地域であり、多くの神話が残る地でもある。一方で、東九州地域にとって、九州新幹線が開通したことにより、広域交通の主動線としては西九州に重点が置かれ、「裏九州化」してしまう危険性を秘めている。また、中山間地域という地形的な要因により地域間の連携が図られにくいという現状がある地域である。

そこで、日本のルーツであり、日本神話にまつわる歴史・文化資源が多数存在する東九州地域の特色を活かし、これら地域の歴史・文化資源を紐解くことで「地域のプライド」を発掘し、その地域プライドによる地域振興を図っていくことが考えられる。

仮説：宇佐・ひむか・霧島をつなげる神話を切り口とした情報発信と地域プライドの育成を行っている。

宮崎県においては、「ひむか神話街道」の広域観光ルートを設定しており、地域としての一体性を持った取り組みを行っている。宮崎県のみならず、大分県、鹿児島県においても日本神話にまつわる歴史・文化資源が存在するため、宮崎県で展開されている「ひむか神話街道」と連結した「宇佐・ひむか・霧島をつなげる神話を切り口とした情報発信と地域プライドとしての育成を図っていくことで、日本神話をテーマとした東九州プライド起こしが考えられる。

ウ．北上川流域地域

仮説：水陸万陸の地が生み出してきた歴史・文化は、北上人の精神の源である。

東北の歴史・文化を紐解くと、その多くは北から南へと流れる長さ約 250km に渡る水陸万陸の地である北上川流域で育まれてきた。そして、これら歴史・文化は、一時的に支配される時代があっても、一貫して地域固有の歴史・文化、政治、人々の生活を生み出してきた。つまり、北上川流域で育まれてきた歴史・文化をより深く紐解くことは、東北・北上人の精神の源を紐解く鍵となりうる。

仮説：アテルイから宮澤賢治、そして現代に受け継がれる歴史・文化の発掘と発信による北上人のプライド創発が期待できる。

岩手県盛岡付近から、宮城県石巻までつながる北上川の流域では、古くは縄文時代、アテルイ伝説、前九年の役・後三年の役における安倍一族、奥州藤原氏の平泉文化と義経伝説、そして西行や芭蕉といった歌人や宮澤賢治・石川啄木といった文人によりうたわれるなど、この地を中心に多くの歴史・文化が育まれており、これほど多くの歴史・文化を形成してきた所は、他に類をみないものである。

これら長い時間の中で育まれた歴史・文化を別々の要素としてではなく、1つの文化形成圏として捉え、再発見を行い、さらに地域内へ発信していくことは、北上川流域といった地理的なつながりだけでなく、北上人の精神のつながり、つまり北上人としてのプライド形成につながるものであると考えられる。

3 - 2 モデル地域ヒアリング調査結果

モデル地域の各地域において、どのようなものが地域の誇りとして受け継がれてきており、どのような取り組みを行っているのか、また、それらが地域プライドとしてなりえているかの現状を把握し、歴史的地域プライドによる地域づくりを展開していくための視点を導き出すため、ヒアリングを実施した市町村等からいくつかの地域を抽出して、事例分析を行った。

ア - . 岡山県笠岡市白石島

歴史的地域プライド	白石踊りの継承	
人づくり・地域づくりへの取り組み	教育	・幼稚園、小学校、中学校の各段階における授業への取り入れ ・小さい頃から教え込むシステム
	保存	・ビデオやCDの発行 ・白石踊会による保存伝承活動 ・白石踊りの伝承者養成テキストの作成
	観光	・観光イベントとしての観光客への披露
行政の関わり	・観光振興（イベント支援、パンフレット作成、問い合わせ）支援 ・文化財保護・普及（補助金、文化財解説冊子）	

（地域プライドのキーワード）

- ・「踊り」を組織として守ってきている。
- ・「踊り」を受け継いでいくためのシステムとして、幼少時から学ぶシステムが構築されている。また、この幼少時からの教育システムが、年上を敬う気持ちや学ぶことに対する向上心を生み出す要因となっている。
- ・「踊り」という無形文化財だけではなく、踊る背景としての自然景観である「舞台」がセットで受け継がれている。したがって、「舞台」がない場所では、踊りの本質が失われることを島民が認識している。
- ・行政は、「支援」という立場を基本としている。

ア - . 岡山県総社市

歴史的地域プライド	古代吉備王国の中心地としての伝説の継承	
人づくり・地域づくりへの取り組み	保存	・伝説を裏付ける遺構（鬼ノ城）の発掘と遺構の保存整備
	活動	・市民劇団「温羅」 ・温羅太鼓
行政の関わり	・文化活動を行うやすいインフラ整備（市民ホールなど） ・鬼ノ城をはじめとする史跡、温羅伝説、市民活動を紹介するパンフレットの作成	

（地域プライドのキーワード）

- ・「伝説」として語り継がれてきたものが、その「伝説」を裏付ける遺構の発見により、身近なものとして感じられたことが地域プライドとなる要因となっている。
- ・鬼（温羅）は、全国的から見るとマイナーな視点であるが、そのことが逆に市民に浸透し

ている。つまり、全国どこにでもあるものではなく、その地域独自のものである考え方が地域プライドにつながっている。

- ・地域プライドを伝える取り組みは市民が中心となっていて行われており、行政としては、これら活動を行いやすい環境（インフラ）を整備することに主眼がおかれている。

ア - . 岡山県高梁市

歴史的地域プライド	山田方谷の教えの継承	
人づくり・地域づくりへの取り組み	周知・顕彰	・山田方谷誕生 200 年記念事業 ・顕彰会
	教育	・副読本、マンガの作成
	地域間交流	・藩校サミット
行政の関わり	・記念事業等を通じた全国への情報発信（学習観光事業・フィルムコミッション事業・カレンダーの発行・藩校サミット、シンポジウム・記念碑・顕彰コーナーの設置・漫画の発行）メディアへの取り上げ	

（地域プライドのキーワード）

- ・地域の誇りとなるべき人物については、その名自体は市民に認知されて入るものの、その功績や思想などの詳細までは周知されていない。
- ・記念事業などにより周知・顕彰活動を行うといった「イベント」的に取り上げることで、地域プライドとして受け継ぐきっかけづくりを行っている。
- ・新聞などのメディアへの取り上げが、地域の人とその人物像なども触れるきっかけとなっている。

ア - . 島根県松江市

歴史的地域プライド	現在でも市民の身近な生活文化として根付いている文化(お茶文化)	
人づくり・地域づくりへの取り組み	産業	・お茶や茶菓子の消費
	イベント	・松江城大茶会
	観光	・不昧公老舗めぐりツアー：旅行代理店と和菓子店との協力によるバスツアーサービス提供
	教育	・小学校の総合学習としてのお茶の授業
	まちのPR	・和菓子モダンプロジェクト：ブランドづくり
行政の関わり	・観光都市としてのインフラ整備（景観整備、交通インフラの整備、駅前観光案内所への茶室設置）	

（地域プライドのキーワード）

- ・市民の生活文化としての側面と、観光的側面を持っている。
- ・お茶文化の振興に民間が積極的に関わっており、地域の産業振興の側面もある。
- ・海外への和菓子の出品など、地域ブランドづくりの一角を担っている面もある。

イ - . 大分県安岐町（現国東市安岐町）

歴史的地域プライド	三浦梅園の教えの継承	
人づくり・地域づくりへの取り組み	教育	・ 梅園先生を称える歌（小学校での教育） ・ 副読本（小学校の高学年で学習）
	顕彰	・ 梅園祭（法要の会）
	施設整備	・ 三浦梅園資料館の建設・運営
行政の関わり	・ 梅園祭の実施（かつては地域でやっていた行事を行政が引き継ぐ）	

（地域プライドのキーワード）

・ 偉人ゆかりの地というのは全国に多々あるが、その偉人にゆかりがある（例えば、一時期住んでいた、教鞭をとっていた、終焉の地）ことが誇りとなっているのではなく、その地域で立身出世、大成されたこと。つまり、都会へ出て行かなくても、この地でも大成できるという証であることが地域のプライドとして受け継がれてきている要因となっている。

イ - . 大分県中津市

歴史的地域プライド	福沢諭吉の「独立自尊」の精神の継承	
人づくり・地域づくりへの取り組み	教育	・ 副読本、諭吉カルタ、ビデオ等の作成 ・ 市内小中学校での弁論大会の実施
	施設整備及び観光	・ 福沢諭吉資料館の建設・運営 ・ 旧居の保全と一般公開、周辺整備（レストハウス、駐車場整備）
	交流	・ 小学生を対象とした早慶戦（佐賀市と中津市）の開催 ・ 全国高等学校弁論コンクール（慶応義塾との連携）
	周知	・ 市内の小学生でも旧居にいったことがない人が多いため、まずは知ってもらうための活動として、冒険中津事業として福沢旧居をコースに定める。 ・ 成人式での福沢諭吉ストラップの配布
	顕彰活動	・ 福沢諭吉記念祭 ・ 郷土史を語る会などの民間の活動
行政の関わり	・ 学問の里としてのまちづくりの中心として「福沢諭吉」を定め、弁論大会をはじめ、様々なイベント活動を実施。 ・ 福沢諭吉 = 中津出身としての認知度が低いため、認知度アップに向けた取り組み	

（地域プライドのキーワード）

・ 全国的に知名度が高い偉人ゆかりの地であるが、その人物が有名すぎることで、中津市 = 福沢諭吉と地域と偉人とが一致して認知する人が多くはない。地域と偉人とが精神的につながることで地域プライドを形成する要因となりうる。

イ - . 宮崎県全域

歴史的地域プライド	日本神話（ひむか神話）創出の地	
人づくり・地域づくりへの取り組み	施設整備・観光	・ひむか神話街道の環境整備（道路整備、トンネル、標識、広域案内板、パンフレットなど） ・ふれあい案内人や観光者へのもてなし
	教育・体験	・地域の子供や家族を対象として、“食”や“体験”を通じて地域の誇りとなる神話を親しみやすくする。
	地域間連携	・宮崎県北協議会による取り組み
行政の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の点としての誇りと線でつなぐ取り組み（インフラ整備） ・地域間連携のコーディネート ・ひむか神話に関するパンフレット作成等の全国への情報発信 ・地域からの提案に対する支援（元気のいい地域総合支援事業） 	

（地域プライドのキーワード）

- ・それぞれの地域で形成されてきたプライドが小さくても、それらがつながったり、連携したりすることで大きなプライドとして形成される可能性がある。
- ・地域プライドを形成するのは地域の役割であり、県としての役割は旗振り役ではなく、これら取り組みを支援する環境（インフラ）整備、地域間連携のコーディネートが中心となっている。

イ - . 宮崎県高城町（現都城市高城町）

歴史的地域プライド	地域の発展	
精神文化が表出した形	旧後藤家商家交流資料館	
人づくり・地域づくりへの取り組み	施設整備	・旧後藤家商家交流資料館の整備 ・醤油の販売等による運営資金の供出
	交流	・旧後藤家商家交流資料館で行われる様々な取り組み（コンサート、落語等の演芸、「なんこ」大会）
	顕彰活動	・有志による先人の取り組みを書籍にまとめる
行政の関わり	・旧後藤家商家交流資料館運営の支援	

（地域プライドのキーワード）

- ・全国のほとんどの市町村で財政状況が厳しい中、施設の保存等についての財政支援が少なくなってくる傾向があり、NPO等を含め地域住民の手で守っていくための様々な工夫が求められる。

ウ - . 岩手県石鳥谷町（現花巻市石鳥谷町）

歴史的地域プライド	南部杜氏の里としての地域プライドの醸成	
人づくり・地域づくりへの取り組み	施設整備	・ 民俗資料博物館 ・ 道の駅 ・ 南部杜氏伝承館
	教育	・ 副読本、小学校等の社会科見学
	観光	・ 酒祭り
	顕彰活動	・ 南部杜氏の育成
行政の関わり	・ 無形民俗文化財への登録をきっかけに当時の町長が町民への意識改革をうったえる（出稼ぎというマイナスイメージから）	

（地域プライドのキーワード）

- ・ 地域のマイナスのイメージを誇りとなるイメージに変えるきっかけづくりといった、町民意識の大きな変化が地域プライドの醸成につながっていた事例である。
- ・ しかし、そのためには、歴史を検証・見直しするという作業を実施しており、今ある資源を活用するだけでなく、これまでの地域の歴史を検証し、見直しを行う作業というものが地域プライド醸成に必要である。

ウ - . 岩手県平泉町

歴史的地域プライド	奥州藤原文化の保存と世界遺産登録をきっかけとして地域づくり	
人づくり・地域づくりへの取り組み	施設整備	・ 公園整備 ・ 寺院等の保存 ・ 世界遺産登録 ・ 景観法
	観光	・ 藤原祭り ・ 回遊マップ ・ 観光ボランティア
	交流	・ ときめき世界遺産塾ジュニアシンポジウム
	教育	・ 副読本、社会科見学、写生大会 ・ ふれあい世界遺産塾
行政の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町民とともに行政が一丸となって遺跡を守ろうと取り組む ・ 世界遺産登録をきっかけにさらなる意識統一を図る ・ 景観行政団体として景観形成に取り組む ・ ジュニアリーダーや観光ボランティアの育成に努める 	

（地域プライドのキーワード）

- ・ 町内の史跡が、現在の町民の生活に身近であること。そして、これら史跡を町民一人一人が守ってきているという自負があることが、地域プライドとなっている要因であるといえる。
- ・ また、世界遺産登録や景観法に基づく取り組みなど、町民の地域プライドの方向性と一致するような求心力あるきっかけづくりが地域プライドを増大させる要因となっている。

ウ - . 岩手県水沢市（現奥州市）

歴史的地域プライド	アテルイや三偉人などを輩出してきた地としての誇り	
人づくり・地域づくりへの取り組み	施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・アテルイの里広場 ・道の駅（Zプラザアテルイ） ・アテルイの里（有志で石碑を建立） ・高野長英記念館、後藤新平記念館、後藤寿庵廟、斉藤實記念館他多数
	観光	<ul style="list-style-type: none"> ・アテルイ没後 1200 年祭、高野長英生誕 200 年祭、後藤新平生誕 200 年祭 ・吉小路偉人通り顕彰祭 ・観光ボランティア
	周知	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージカル ・アニメ制作 ・電子紙芝居（HP）
	教育	<ul style="list-style-type: none"> ・副読本
行政の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・アテルイや三偉人に関してそれぞれ概ね 1 年間に渡り生誕祭等を実施し各種イベントを展開。 	

（地域プライドのキーワード）

- ・多くの偉人が輩出されてきているということを誇りに捉えており、大きなイベントの開催や施設整備を実施してきた。しかし、多くの人物がいること、活躍したのがご当地ではないことなどから、市民の意識が定着せず、継続的な取り組みが展開できない状況にある。
- ・一部の有志においては、地域プライドとして顕彰活動等を進めているが、市民全体への周知や地域プライドとしての取り組み展開など、行政の継続的な参画が今後期待される。

3 - 3 市民アンケート調査

(1) モデル地域市民アンケート調査概要

モデル地域に住む住民を対象に、地域プライドの実態把握や地域プライドによる地域づくりのあり方等に関する意向を把握するため、以下の4地域の居住者へインターネットによるアンケートを実施した。

地域名(対象者)	回答数
A:北上川流域(北上川流域の市町村に居住する方)	515
B:岡山地域(岡山県下全ての市町村に居住する方)	1,030
C:出雲地域(島根県及び鳥取県の出雲地域に居住する方)	516
D:宮崎・霧島地域(宮崎県内のひむか街道沿道の市町村及び鹿児島県北東部(霧島地域)に居住する方)	507

(2) アンケート調査結果

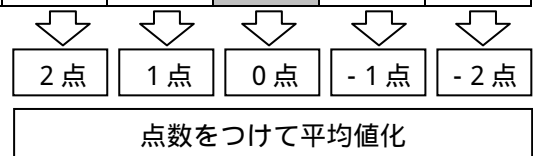
あなたのお住まいの地域について、歴史・文化に対する「誇り」を持っていますか？

- ・ 「誇りと持っている」及び「やや誇りを持っている」との回答は全体で45%、どちらでもないが約40%、「あまり誇りを持っていない」及び「誇りを持っていない」との回答は約15%となっている。
- ・ 地区別に見ると、“C:出雲地域”で「誇り」を持っている回答者の割合が最も高い。
- ・ 居住年数別に見ると、居住年数が長いほど、「誇りを持っている」との回答者の割合が高くなっている。
- ・ また、「生まれてからずっと現在の居住地(地域)に住んでいる。」「一度他所の地域に出た(就学や就職などで)が、現在の居住地(地域)に戻ってきた。」との回答者が、地域に対して誇りを持っている割合が、「他所の地域から現在のところに引っ越してきた。」回答者よりも高くなっている。

テーマ別にみた歴史・文化に対する「誇り」について

- ・ テーマ別にみた歴史・文化に対する「誇り」として、「社寺・史跡等歴史的なものが残っていること」、次いで「神話や伝説の地であること」、「古い町並みや建造物があること」を誇りと思っている人が多い。
- ・ これら状況は、都道府県アンケートで、地域の誇りとして考えられるテーマと大きな違いはない。(モデル地域については、神話の舞台である出雲地域及び日向地域を含んでいるため、「神話や伝説の地であること」を誇りとして上げる回答者が多いことが想定される。)地区別に見ると、北上川流域地域では、「地域ゆかりの人、地域出身の偉人がいること」を地域の誇りとして考えている回答者が最も多く、出雲地域及び宮崎・霧島地域では、「神話や伝説の地であること」を地域の誇りとして考えている回答者が最も多い。

誇りと考えられるテーマ	1 誇りに 思う	2 やや思 う	3 分から ない	4 あまり 思わな い	5 思わな い
地域ゆかりの人、地域出身の偉人がいること (例：地域出身の偉人の考え方や生き様に対する誇り / 西郷隆盛など)	352 (30.4%)	450 (38.9%)	218 (18.8%)	107 (9.2%)	30 (2.6%)
歴史的な出来事が起こった地であること (例：歴史を変える出来事に関する誇り / 関が原の戦い、源平合戦など)	211 (18.2%)	353 (30.5%)	434 (37.5%)	130 (11.2%)	29 (2.5%)
文化や産業の発祥の地であること (例：歴史に残る文化や産業への誇り / 和歌発祥の地、杜氏発祥の郷など)	275 (23.8%)	439 (37.9%)	319 (27.6%)	102 (8.8%)	22 (1.9%)
古い町並みや建造物があること (例：古い町並みや建造物に関する誇り / 伝統的建造物群保全地区など)	360 (31.1%)	465 (40.2%)	204 (17.6%)	103 (8.9%)	25 (2.2%)
社寺・史跡等歴史的なものが残っていること (例：社寺・史跡等物的歴史に対する誇り / 歴史上の社寺、城跡など)	426 (36.8%)	468 (40.4%)	178 (15.4%)	75 (6.5%)	10 (0.9%)
神話や伝説の地であること (例：神話や伝説の里としての誇り / 天孫降臨の神話、義経伝説など)	462 (39.9%)	324 (28.0%)	273 (23.6%)	75 (6.5%)	23 (2.0%)
古来から伝承している踊りや民俗芸能があること (例：古来の民俗芸能を継承している誇り / 神楽や舞い、民俗儀礼など)	329 (28.4%)	436 (37.7%)	286 (24.7%)	85 (7.3%)	21 (1.8%)
地域の誇りとなる祭りがあること (例：地域独自の祭りに対する誇り / 裸祭り、だんじり祭りなど)	310 (26.8%)	408 (35.3%)	304 (26.3%)	107 (9.2%)	28 (2.4%)
古代に文化や経済の中心地、交通の要衝であったこと (例：歴史上の中心地としての誇り / 古代吉備王国、平泉文化、京など)	231 (20.0%)	345 (29.8%)	424 (36.6%)	125 (10.8%)	32 (2.8%)
地域独自の生活スタイル(風習・方言など)があること (例：地域独自の生活習慣に関する誇り / 藩(藩校)における教え、茶の湯文化など)	241 (20.8%)	428 (37.0%)	339 (29.3%)	120 (10.4%)	29 (2.5%)
日本を代表するような産業(伝統工芸)があること (例：日本を代表する産業への誇り / 焼物、漆器、鋳物など)	236 (20.4%)	350 (30.3%)	411 (35.5%)	117 (10.1%)	43 (3.7%)



【地域別の誇りに思う上位5テーマ】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	社寺・史跡 1.059	神話・伝説 0.974	町並み 0.892	ゆかりの人・偉人 0.853	踊り・民芸 0.836
A：北上川流域	ゆかりの人・偉人 1.208	祭り 0.980	社寺・史跡 0.932	踊り・民芸 0.896	町並み 0.736
B：岡山地域	社寺・史跡 1.074	町並み 1.055	ゆかりの人・偉人 0.802	文化発祥地 0.702	神話・伝説 0.685
C：出雲地域	神話・伝説 1.465	社寺・史跡 1.247	町並み 1.014	踊り・民芸 0.938	文化発祥地 0.910
D：宮崎・霧島地域	神話・伝説 1.255	踊り・民芸 1.145	社寺・史跡 0.915	祭り 0.820	ゆかりの人・偉人 0.700

誇りを持ってないと考えられる理由について

- ・ 地域に誇りをもてない理由については、「地域のことを良く知らないため」、「地域の誇りとなるような歴史・文化等の資源がないため」、「地域のことに興味が無いため」がそれぞれ同程度挙げられている。
- ・ 地域別に大きな違いは見られないが、居住年数別に見ると、居住年数が短い回答者は、「地域のことを良く知らないため」を、居住年数が長い回答者は、「地域の誇りとなるような歴史・文化等の資源がないため」を、誇りを持ってないと考えられる理由として挙げる人が多い。

テーマ別にみた誇りが他の人と共有できると考えられる範囲について

- ・ テーマ別に挙げた誇りの内容について、他の人と共有できると考えられる範囲については、ほとんどのテーマで、「住んでいる都道府県の範囲」を共有できる範囲として考えられている。
- ・ 「地域ゆかりの人、地域出身の偉人がいること」及び「古い町並みや建造物があること」、「社寺・史跡等歴史的なものが残っていること」、「地域の誇りとなる祭りがあること」については、「住んでいる市町村程度の範囲」を共有できる範囲として考えている人も多い。
- ・ 「神話や伝説の地であること」については、「全国規模」ととらえている人も約20%と共有できる範囲が広いことが分かる。

地域内で行われている様々な活動への参加状況

- ・ 地域内で行われている活動への参加状況を見ると、「祭りやイベントへ参加している(した)」人が最も多く、次いで、「地域内の年上の人などから話を聞いた。」、「図書館や資料館で地域の歴史・文化・民俗資源に関する本や冊子を読んでいる(読んだ)」となっている。
- ・ 一方で、「地域内で行われている活動に参加したことがない」回答者も全体の25%を占めている。

地域に伝わる歴史・文化に「誇り」を持つために必要なこと

- ・ 地域に伝わる歴史・文化に「誇り」を持つために必要なこととして、「地域の「誇り」を受け継いでいくための伝統行事などの文化事業・文化行事を実施する」、「地域の「誇り」に関する情報を発信する」が多く、次いで「歴史・文化施設等を整備・充実する」となっている。
- ・ 都道府県アンケート調査での取り組み内容と比較すると、現在実施されている内容と市民が求めている内容とに大きな差異は見られない。

地域の誇りによる地域活動への参加意向

- ・ 地域の誇りによる地域づくりへの参加意向について、これら地域づくりが必要であるとの回答者は全体の9割超となっている。
- ・ 一方で、「地域の誇りによる地域づくりは必要だと思うが、参加は難しい(したくない)」との回答が全体の約6割を占めるなど、地域づくりの必要性和地域づくりへの参加意向とが必ずしも一致しない状況にある。

3 - 4 モデル調査における歴史的地域プライドによる地域づくりの実態

(1) モデル地域における地域づくりの実態

東中国地域

ヒアリング調査結果から、東中国地域においては、岡山地域と出雲地域でそれぞれの地域が地域固有の歴史的地域プライドをもって、地域内での取り組みを実践している。これは、瀬戸内海側を中心とした岡山地域、日本海側を中心とした出雲地域といった風土や気候が異なることも大きな要因であることも考えられ、歴史的な地域プライドを考える際に、その地域の風土や気質と切り離して考えることができないことがいえる。

また、岡山地域を見ると、共通するテーマ（例えば、山田方谷など人物にゆかりのある地域における地域づくりの連携・交流）での連携が図られている。

出雲地域については、古代出雲、神話を背景とした精神文化が、出雲地域の歴史的地域プライドとして共有できている。地域づくりへの取り組みをみると、同じ出雲神話であっても、斐伊川を中心としたヤマタノオロチ伝説、須佐神社などを中心としたスサオノ伝説、出雲大社と大国主命を中心とした伝説など、それぞれの固有の神話を中心に地域の誇りとして地域づくりへ展開している。

東九州地域

東九州地域における歴史的地域プライドは、地形や地勢、気候等の風土と人類が築き上げた歴史から、大分県圏域、宮崎県北部圏域、宮崎県中部から鹿児島にかけての圏域の3つに区分される。

大分県圏域では、各地域で先人、郷土芸能、地場産業などがさまざま存在している。特に、県東部の国東半島などの地域では、東九州としての圏域に加え、瀬戸内海をも圏域として考えられ、九州全域や東九州地域としての歴史的地域プライドの共有よりも、瀬戸内海域としての歴史的地域プライドの共有の方が考えられる。これは、国東半島を中心とした四国との地域の結びつきなど、地域間の交流の歴史から伺うことができる。

宮崎県北部圏域は、宮崎県北協議会が立ち上がり、神話をテーマにひむか神話街道の広域的展開が具現化している。

宮崎県中部から鹿児島にかけての圏域は、神話をテーマとしたプライドと、人類が築き上げた歴史・文化（島津氏、伊東氏）によるプライドが共存しており、各プライドの共有範囲も市内や市内の地区単位と狭くなっている。

北上川流域地域

北上川流域地域では、北上川を軸として、その水資源や水運、東西を山々に囲われた風土などを礎にして、歴史・文化が形成されてきていることは事実であり、流域地域の共通認識といえる。

歴史的地域プライドとしては、各地域で先人、郷土芸能、地場産業などが様々であるが、北上川を軸として各地域の歴史的地域プライドを発信することにより、各先人等の精神の源を発掘し、北上川流域人としてのプライド形成を図るとともに、北上川流域地域の一連となる地域づくりの可能性が考えられる。

(2) モデル地域の市町村における歴史的地域プライドの現状と歴史的地域プライドによる地域づくりへの展開の実態

歴史的地域プライドの実態

各々の地域の歴史・文化資源のうち、現在においても生活と密着な関係があるもの（偉人の教えや神楽などの民俗芸能）でないと衰退しているものが多い。また、1つの歴史的プライドに、別の時代の歴史的プライドが重なっていることで、地域として精神的な統一感を共有しにくい状況となっている。

歴史的地域プライドは、地域の住民にとっては身近で当たり前のことであるため、その大切さなどが分かりにくい。外部からの評価や自らが外に行くことによって気がつくことができる。また、神話・伝説などは遺跡の発見など史実と結びつくことが地域プライドとなるきっかけとなる。

歴史的地域プライドに対する継続的な体験や学習が必要であり、小中学生や高齢者は学校教育や生涯学習活動の中でこれらプライドに触れることができるが、高校、大学の段階で地域から外に出て行くことが多く、年齢的なつながりが途切れてしまう。

なお、地域の誇りとするものが、全国的に知名度の低いものであっても、地域独自の考え方といった「独自性」が地域住民の意識に共有できているものであれば、歴史的地域プライドとして形成されている。また、偉人など、地域にゆかりがあるだけでは歴史的地域プライドとして醸成されにくく、地域と偉人との密接な関係が地域住民に感じられて初めて、歴史的地域プライドとして認知されてものとなる。

歴史的地域プライドによる地域づくりを進めていく場合の視点

歴史的地域プライドが形成されている地域では、地域住民や顕彰団体・保存団体等、市民が中心となった取り組みが行われており、行政はその支援（財政、コーディネート、環境インフラ整備）が中心となった取り組みを行っている。

また、地域プライドによる地域づくりの潮流づくりには、求心力あるきっかけづくり（世界遺産登録運動、重要文化財への指定など）が大きな要因となりうる。

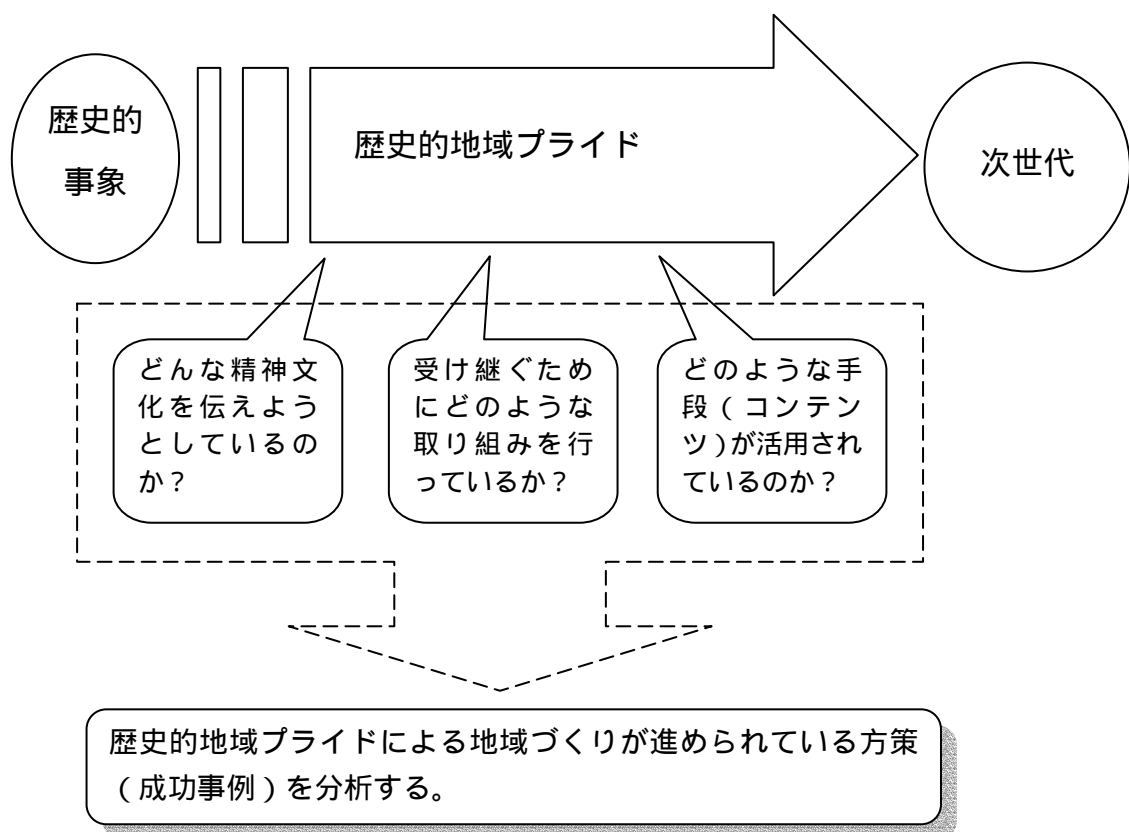
第4章 歴史的地域プライドによる地域づくりの推進方策

4 - 1 歴史的地域プライド事例分析

(1) 歴史的地域プライドの内容

第2章の全国調査及び第3章のモデル調査を通じて、日本全国のどの地域を見ても、数限りない歴史的、文化的な資源が蓄積されていることが分かる。その中でも、これら資源が単に残っているだけではなく、その背景には歴史的、文化的な出来事等が存在し、地域の人々の誇りや地域独自の精神文化となり、受け継がれ、これらを核に地域づくりに結びついている地域が存在する。

本章では、このような地域プライドによる地域づくりを展開している事例に着目し、地域の誇るべき精神がどのようなもので、その精神を受け継いでいくためにどのような取り組みを行っているのか、それが人づくり、まちづくりにいかに係っているのかを整理する。



どのようなことが歴史的地域プライド（精神文化）となっているか？

実態調査等で整理した歴史的地域プライドについて、地域の住民が共通の認識を有している理由や、守り育て受け継ぐ行為の背景を分類すると、次の6通りに分類できる。

分類	内容
1. 偉人に対する尊敬	<p>地域のために多大な貢献をした偉人の思想や教えなどを誇りとして、そのゆかりの偉人に対する感謝や尊敬を現在まで受け継いでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二宮尊徳（栃木県二宮町） ・ 中江藤樹（滋賀県高島市（旧安曇川町）） ・ 山田方谷（岡山県高梁市） ・ 福沢諭吉（大分県中津市） ・ 三浦梅園（大分県国東市（旧安岐町））
2. 先人の行為に対する感動	<p>主に土木事業など、地域の発展に多大な貢献を果たした先人を顕彰し、その先人達によって作られたものを守り受け継いでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 五庄屋伝説（福岡県うきは市） ・ わらじ村長（宮城県高崎市（旧鹿島台町）） ・ 千田左馬（岩手県奥州市（旧前沢町））
3. 地域の思想として共感	<p>乱世の時代での平和社会への思いや、江戸時代の藩の教育理念などを誇りとして、現代の生活のなかで受け継いでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 凌霜の精神（岐阜県郡上市） ・ 日新館の教え（福島県会津若松市） ・ 火伏の虎舞（宮城県加美町） ・ 稲村の火（和歌山県広川町） ・ 島津日新公のいろは歌（鹿児島県南さつま市（旧加世田市））
4. 生活風習・礼儀作法	<p>地域独自の生活風習や礼儀が現在においても生活の一部として定着している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お茶文化（島根県松江市） ・ 白石踊り（岡山県笠岡市） ・ 恩納ナビ（沖縄県恩納村）
5. 歴史的な中心地としての誇り	<p>かつての政治・経済・産業の中心地として、その地域が輩出・創出した先人の形跡や産品を誇りとして守り受け継いでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南部杜氏（岩手県花巻市（旧石鳥谷町）） ・ 奥州藤原文化の保存（岩手県平泉町） ・ 旧後藤家商家交流資料館（宮崎県都城市（旧高城町））
6. 神話や伝説の地としての誇り	<p>神話や伝説を地域の誇りとして語り受け継いでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひむか神話（宮崎県全域） ・ 国造り神話（島根県出雲地方） ・ 温羅伝説（岡山県総社市）

コンテンツの内容

歴史的地域プライドを守り育て、受け継ぐために活用されているコンテンツを以下に整理する。

	分類	コンテンツ
教育システム	1. 就学前教育 <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びの中での学習 ・ 歌として学習 ・ 映像コンテンツによる学習 	絵カルタ <ul style="list-style-type: none"> ・ 石見銀山遺跡を伝える絵カルタ（島根県大田市） ・ いろは歌カルタ（鹿児島県南さつま市） ・ 諭吉カルタ（大分県中津市） アニメ <ul style="list-style-type: none"> ・ 長編アニメ「アテルイ」（岩手県、シネマとうほく） ・ 堂之上遺跡紹介アニメ（岐阜県高山市） 童謡、歌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新民謡「チャグチャグ馬コ」（岩手県滝沢村） ・ 「梅園先生をたたえる歌」（大分県国東市（旧安岐町）） 絵本 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「稲むらの火 濱口梧陵の話」（和歌山県広川町、わかやま絵本の会） ・ 「黄泉比良坂」（島根県東出雲町）
	2. 学校教育 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的学習としての教材 ・ 社会見学 	教科書副読本、小学生用読本 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「田んぼをつくった水の道～北海幹線用水路物語」（北海道空知地域） ・ ふるさと読本「いずも神話」（島根県） ・ 「少年少女のための梅園先生」小冊子（大分県国東市（旧安岐町）） ・ 玉湯なんでも大事典（島根県松江市（旧玉湯町）） 紙芝居 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道仏神楽の由来を伝える紙芝居（青森県階上町） ・ 「後藤新平絵物語」（岩手県水沢市） ・ 「野国總管物語」（沖縄県嘉手納町） 漫画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「まんが小村寿太郎 日本が生んだ世紀の外交官」（宮崎県日南市） ・ 「斉藤憲三ものがたり」（秋田県にかほ市） ・ 「酒田に本間光丘あり」（山形県酒田市） ・ まんが「山田方谷伝記」（岡山県高梁市）
	3. 地域教育・活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習としての展開 ・ 保存会、研究会による保存・継承活動 ・ NPO活動による展開 	映画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「近江聖人中江藤樹」（滋賀県高島市（旧安曇川町）） ・ 「バルトの楽園」（徳島県鳴門市） テキスト、地域事典 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「白石踊り伝承者養成テキスト」（岡山県笠岡市） ・ 「大社まちかど百花」（島根県出雲市（旧大社町）） 公開講座、市民講座 体験型ワークショップ 機関誌発行

分類	コンテンツ
<p>4. 芸能、祭り・イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神楽や祭りの継承、顕彰活動 ・ 民俗芸能の実演(観光イベントや他地域イベントへの参加) ・ 地域の歴史を創作オペラや創作劇で展開 	<p>ビデオ、DVDへの記録、HPによる公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 祭りや伝統芸能、伝統技術(たたら製鉄)等のビデオ等への保存 ・ 祭りや伝統芸能、伝統技術等の記録動画をHPにより公開 <p>神楽イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリジナル宇治田楽(京都府宇治市) ・ スサノオスピリット(島根県出雲市(旧佐田町)) <p>創作オペラ、ミュージカル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オペラ支倉常長「遠い帆」(宮城県石巻市) ・ 「細川ガラシャ物語」(京都府長岡京市) ・ ミュージカル「銀河鉄道の夜」(岩手県花巻市) <p>市民創作劇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町民劇場「千田左馬物語 いのちの水」(岩手県奥州市(岩手県奥州市(旧前沢町)) ・ 演劇「華岡青洲の妻」(和歌山県紀ノ川市) ・ 市民劇団「温羅」(岡山県総社市)
<p>5. 研究・調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源、観光資源としての広報 	<p>パンフレット、広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「もう一つの温羅伝説」(岡山県総社市他) ・ ひむか神話街道50の物語集、100の伝承地マップ(宮崎県) ・ ガイドブック「どこにしようよ、そこがドイツだ」(徳島県鳴門市) <p>HPによる公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みやざきひむか学ネット(宮崎県教育研修センター) ・ デジタル岡山大百科(岡山県立図書館) ・ あいち地域資源デジタルアーカイブ(愛知県) <p>調査報告書、市町村誌</p>
<p>6. 産業・観光化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地場産業、伝統工芸とのマッチング ・ キャラクター化 ・ 商品開発 	<p>観光パンフレット、広報、HP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村、各種施設のパンフレット ・ 大和路アーカイブ(奈良県観光情報) <p>商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「伊能歌舞伎米」(千葉県成田市(旧大栄町)) ・ 神楽グッズ(大分県由布市(旧庄内町)) <p>キャラクター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 硯のけんちゃん(宮城県石巻市) ・ 町のイメージキャラクター「スサノオ」(島根県出雲市(旧佐田町))

歴史的地域プライドとして受け継がれてきている理由

実態調査等から歴史的地域プライドが受け継がれてきている仕組みについて分類すると、次の6通りに分類できる。

分類	内容
1. 一貫した地域教育システムがつけられている	<p>歴史的地域プライドを受け継いでいく人材を育てるため、歴史的地域プライド自体を学校教育や生涯学習のプログラムに組み込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中江藤樹（滋賀県高島市（旧安曇川町）） <p>…副読本に藤樹先生の教えを盛り込むとともに、小学3年生を対象とした「立志祭」や「新春書き初め奉納」を実施。また市民対象に「中江藤樹フォーラム」や「藤樹先生書道展」の開催、映画「近江聖人中江藤樹」の製作などを行い、教えを受け継ぐ</p> ・ 平成遣欧少年使節海外派遣事業（宮崎県西都市） <p>…天正遣欧少年使節団として13歳にしてローマに赴き、法王に謁見した偉業を成し遂げた伊東満所の功績を受け継ぐため、毎年、市内中学生2名をヨーロッパに派遣し、伊東満所の精神を体験させる取り組みを実施。</p> <p>行政方針や教育方針に掲げている。</p> ・ 凌霜の精神（岐阜県郡上市） <p>…「凌霜の精神（厳しさ、我慢を乗り越える精神）」を合併新市の教育方針の柱として掲げる。</p>
2. 人材や組織が存在し積極的に活動している	<p>守り育てていこうとする人材や組織が存在し、活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NPO高城歴史文化のまちづくりフォーラム（宮崎県都城市（旧高城町）） <p>…地域の象徴として旧後藤家商家保存を保存するとともに、クラシックコンサート、落語会、なんこ（酒の席のゲーム）大会、雛人形展等、楽しみながら文化の伝承に取り組む。</p> ・ 町民劇場（岩手県奥州市（旧前沢町）） <p>…先人の功績を守り受け継ぐため、町民自らが自作自演する演劇に取り組む。</p> ・ 火伏の虎舞（宮城県加美町） <p>…毎年4月末の祭りに向け消防団員が小学校高学年生に指導しながらお囃子や舞とともに、防火の精神を守り受け継ぐ。</p>
3. 対外的評価が与えられ住民の意識が高揚している	<p>歴史的地域プライドの象徴であるものが対外的に評価されることにより、地域の住民にも一層認識されるようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 白石踊り（岡山県笠岡市） <p>…島民ならば誰でも踊れるという共有意識や外部機関からの評価、無形重要文化財指定が誇りの要因ともなる。</p> ・ 平泉遺跡（岩手県平泉町） <p>…保存状態が優れていることに対する対外的評価が加わり、これまでに増して歴史的資源を守るという町民意識が高揚している</p>

分類	内容
4 . 現代人の生活スタイルに合わせて様式・様態の変化させている	<p>若者も興味を持てるよう変容させている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいづっこ宣言（福島県会津若松市） ...「日新館の教え」を現代版にアレンジするとともに、副読本もテーマごとにビジュアルに作成するなど、幼少の頃から生活と密着したものとなる ・ いろは歌カルタ（鹿児島県南さつま市（旧加世田市）） ...薩摩の郷中教育の基本書としての「日新公いろは歌」を小中学生にも受け入れやすくするため、カルタを作成している。年に一度はカルタ大会を実施している
5 . 他地域との情報共有により価値を明確に示している	<p>関連する他の地域との連携し、一体となり歴史的地域プライドを守り育てている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報徳サミット（小田原市、二宮町他） ...財政再建や農村振興に大きな功績を残した二宮尊徳の「報徳精神」を顕彰するため、報徳サミットを開催し、交流を深めている。
6 . 継続的な取り組みを可能とする経済基盤が整っている	<p>地場産業との連携や観光資源として展開することにより、経済的基盤を整えながら受け継がれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南部杜氏（岩手県花巻市（旧石鳥谷町）） ...酒造りの道具が重要民俗文化財に指定されるとともに、「冬の出稼ぎ」イメージから全国に誇れる人材輩出の地として町民の意識高揚を図る。

4 - 2 歴史的地域プライドによる地域づくりの視点整理

- (1) 歴史的地域プライドが表出した形（祭りや芸能、町並みなど）を、その地域に正しく残すことの重要性：場所性

歴史的地域プライドは、“精神”文化であるため、プライド自体は目には見えないものの、祭りや伝統芸能、町並みといった、目に見える形（精神文化が表出した形）で受け継がれている場合が多い。一方で、“精神”文化そのものは、その地域に住む人が、その地域で生活する上で心の拠り所になるものであり、場所や位置関係、気候などの自然環境とも密接に関係している場合が多く、まさに、地域固有の“精神”文化であるといえる。したがって、これら“精神”文化が表出した形はその地域でないと歴史的地域プライドとしての意味を成さないものである。

これまでの地域づくりにおいては、ある地区での成功事例を参考にして、良く似た形のもので創作したり、模して実施したりしてきた。しかし、これら似せて創作したり、模したりしたものは、精神文化が表出した“形”のみであり、その根底にある精神文化を別の場所で受け継ぐことはできないと言える。つまり、地域固有の“精神”文化はその地域で守り受け継ぐことに意味があり、守り受け継ぐという行為は、その地域に住む人の義務であるとも言えることができる。

また、その地域で守り受け継ぐためには、歴史的地域プライドに関する情報・資料を集約して整理することも重要である。あらゆる方向からのあらゆる情報が氾濫する時代において、真に守り受け継ぐべき情報が整理されていないと、地域の次世代へ伝えることが難しく、まずは、情報収集・情報整理に取り掛かることが重要なポイントである。

- (2) 歴史的地域プライドの醸成には時間がかかるものであり、時間をかけて受け継いでいくことで価値が高まり、地域づくりへの成果が表れる：時間軸

歴史的地域プライドによる地域づくりを進める上で、その地域に住む人がその精神文化を理解し、納得することが不可欠であり、精神文化を強要するものではない。さらに、歴史的地域プライドを守り受け継ぐ“人”を育てることが重要なことであり、じっくりと地道な取り組みを進めていくことが、その地域の精神文化に基づく個性ある“人”づくりにつながり、これにより地域が一丸となった人間力、地域力を発揮できるようになると考えられる。

また、歴史的地域プライドは地域の「文化資本」として捉えることができる。「文化資本」とは、使えば使うほど価値がなくなる（減価償却する）一般的な投資資本と異なり、使えば使うほど、続ければ続けるほどその価値が上昇する可能性を秘めたものである。歴史的地域プライドを「文化資本」として守り受け継ぐ取り組みを続けることにより、その価値が向上し、地域の自治への一助ともなる。

様々な取り組みを行う上で、近年の国及び地方の財政事情等から、費用対効果など成果が見える取り組みを行うことが求められているが、歴史的地域プライドによる地域づくりを進めるに関しては、短期的な成果や効果を期待するのではなく、時間をかけて取り組んでいくことが重要なポイントである。

(3) 地域づくりへ継続・発展させるための4つの要素

歴史的な地域プライドを守り受け継ぎながら地域づくりを行うためには、上述した「場所性」と「時間軸」の視点に加え、次の4つの要素が互いに関連し、機能することが必要である。

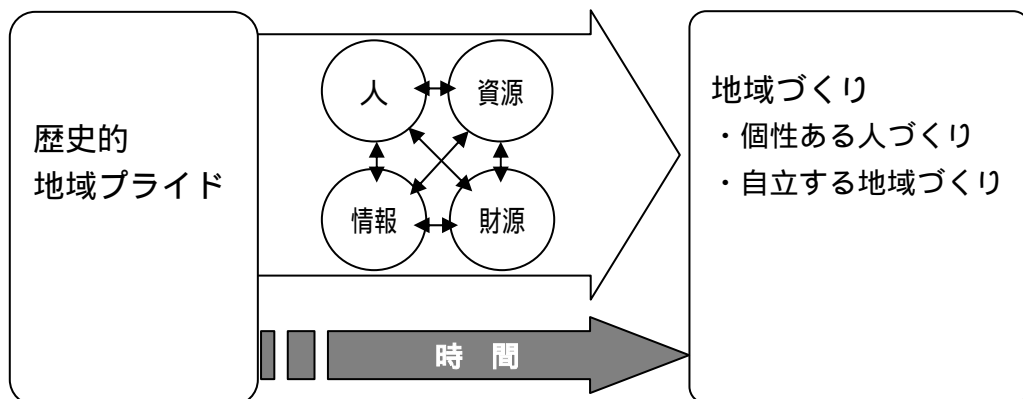
人：歴史的な地域プライドを受け継いでいくのは、“地域住民”が中心であることから、歴史的な地域プライドに共感をもつ人材をいかに確保していくのかという視点が必要である。

さらに、歴史的な地域プライドを守り受け継いでいくための様々な取り組みを進めるリーダー的人材の存在や、地域の取り組みに関して総合的に判断できるプロデューサーの存在が重要である。

資源：精神文化である歴史的な地域プライドを守り受け継ぐためには、プライドを象徴するもの＝目に見えるもの（祭りや芸能、史跡、町並みなど）を守り受け継ぐことが重要である。また、その象徴を再評価したり、現在生活と乖離しないよう変容させたりしていくことも必要である。

情報：歴史的な地域プライド（及びその象徴）を人（次世代）に伝えていくことが不可欠である。そのためには、断片的に事象や象徴をとらえるのではなく、情報の集約とともにストーリーとして情報発信することが重要である。また、多くの手法や媒体を駆使し、幼児からお年寄りまで多くの人に発信することが必要である。その他、他地域の事例研究や、同じ歴史的な地域プライドを有する他地域と共有・相関することにより、より強固な歴史的な地域プライドの維持、地域づくりの展開が期待できる。

財源：歴史的な地域プライドは、地域の経済成長を図るためにあるものではないが、守り受け継ぐための取り組みを継続させるためには、財源が必要とされることも多い。そのため、補助金制度等の活用や、歴史的な地域プライドと伝統産業の連携や観光資源化、新産業への展開など財源の調達方法を確立することが重要となる。



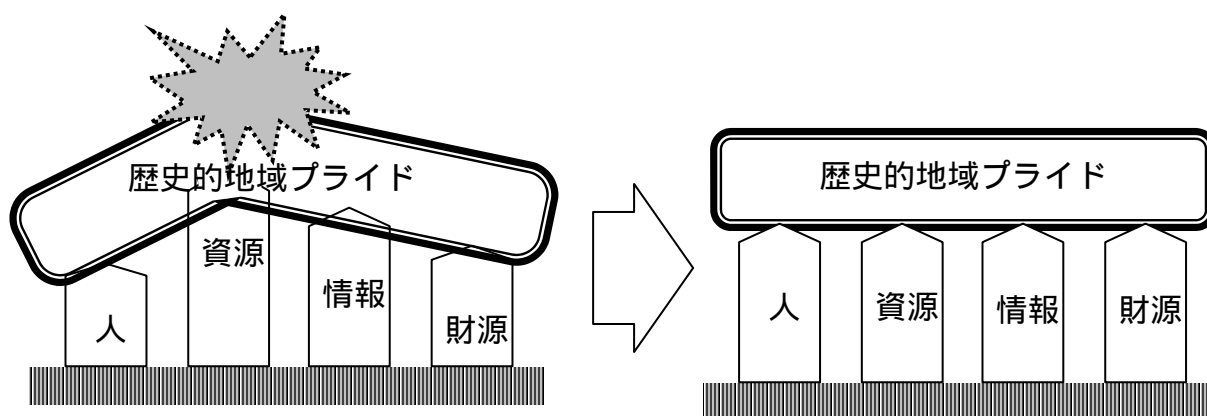
4 - 3 歴史的地域プライドによる地域づくりの推進方策

(1) 基本的な考え方

歴史的地域プライドによる地域づくりのポイントとして、「人」・「資源」・「情報」・「財源」の4つの要素がバランスよく機能することが重要である。言い換えれば、4つの要素のどこかが衰退するとバランスが崩れ、歴史的地域プライドも受け継いでいくことが困難となってくる。

例えば、歴史的な資源が多く存在している地域で、その資源を活かした地域づくりを実施しても、その資源の根底にある精神文化が理解されていない、または、共有されていないと、単発的なイベントとなったり、歴史性に関連のない、いわゆる金太郎飴的な取り組みになってしまったり、強いては継続した取り組みに至らない場合が多い。

したがって、歴史的地域プライドによる地域づくりを推進するためには、4つの要素が健全に機能しているかを的確に調査・検証することが重要となる。その上で、不足している要素を補完・充実する方法を検討し、実践することが必要である。



(2) 基本的な進め方

歴史的地域プライドによる地域づくりの基本的な進め方は、次の2段階で整理される。

Step 1 : 歴史的地域プライドの現状分析

歴史的地域プライドによる地域づくりを進めるためには、歴史的地域プライドの現状を調査し、把握することが必要である。

どのような精神文化があり、どのように受け継がれてきているのか、これまで取り組んできた主体の意向と住民意識との差異はないかなどを調査するとともに、前述した4つの要素のバランスがどうであるかを分析することが必要である。

Step 2 : 今後の展開・充実すべき方策の検討 (次項参照)

現状分析をふまえた今後の展開方策を検討する。歴史的地域プライドそのものは他地区のものを用いることができないが、4つの要素で不足しているものや充実すべき要素については、他地区の事例を参考にしながらその要素を補完・充実するための方策を検討することが可能である。

例えば、人づくり 地域教育、リーダー育成、プロデューサーの育成
資源活用 資源の再評価(時代の変化に対応)、きっかけづくり
情報発信 情報発信能力の向上、情報ネットワークの構築
財源確保 資金調達能力の向上、新たな支援策の検討 など

(3) 推進方策の整理

前項で整理した4つの要素ごとに、今後の展開・充実するための具体的な方策を整理する。また、実態調査等で把握した取り組み事例をあわせて紹介する。

人材確保

- ・ 歴史的地域プライドは、その地域に住む人々が生活するにあたっての精神的な土台となっていることが必要であり、地域の誰もが知っていることが最低限必要である。そのためには、幼少の頃から家庭や地域とのかかわりの中で教育、もしくは学習していくことが望ましいが、就学や就業といった生活の変化の中で、歴史的地域プライドを忘れてたり、もしくは、新しく生活の場となった地域においては、歴史的地域プライドを知る機会がないといった状況に陥る可能性がある。したがって、あらゆる世代に対応した地域教育の充実や歴史的地域プライドを受け継ぐための学習プログラムを構築することが重要である。
- ・ 歴史的地域プライドによる地域づくりを進めていくにあたっては、その歴史的地域プライドを意思的に受け継ごうとする人材や組織の存在が重要なポイントとなる。これら人材や組織には、自らの地域を発展させようとする強い意思と、地域づくりのリーダーシップを発揮できる資質を兼ね備えていることが望まれる。そのためには、人材や情報など多方面のネットワークを構築しながらリーダー的存在を育成することが重要となる
- ・ 地域づくりを実践するにあたっては、多様な障壁を乗り越える必要があるとともに、中長期的なビジョンを持った行動を行うことが必要となる。そのため、専門的な視点だけではなく、総合的・経営的な視点をもつプロデューサーの育成が必要となる。リーダーは当該地域の中から生まれ育つことが期待されるが、プロデューサーは経営的な視点持ち、プロデュース機能やコーディネート機能を総合的に発揮できるものを当該地域外から招集することも十分考えられる。

目 標		具体的な方策
地域教育の充実	地域プライドを受け継ぐ学習プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育・社会教育を通じた一貫した学習プログラムの展開と、その中で担い手を育成するシステムの構築（プログラム上の工夫）（取り組み事例） ・ 「地域学」等の調査研究と成果の反映（取り組み事例） ・ 親子参加型や体験型による参加者の拡大 ・ 地域づくりインターンシップ等による青少年の参加の促進（取り組み事例） ・ 「地域学」検定による評価 など
リーダーの育成	ネットワークの構築によるリーダー育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係団体のネットワークの構築とネットワークによるリーダー育成の展開 ・ 共通の地域プライドをテーマとする広域のネットワークの構築とリーダー育成の拡大 など
	大学等の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学や研究機関、企業等との連携による人材育成（取り組み事例）
プロデューサーの育成	経営的視点を持つプロデューサーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロデュース機能やコーディネート機能を総合的に発揮できる人材の育成 ・ 地域内外から経営的視点を持つ人材の招集

資源活用

- ・ 歴史的地域プライドは歴史的な地域固有の精神文化であるため、目には見えないものである。つまり、その精神文化を地域住民が共有するためには、人材確保における推進方策として挙げた「教育」、「学習」という手段の他に、その“精神文化が表出したもの＝資源”を守り受け継ぐことが重要となる。これら“精神文化が表出したもの＝資源”を将来にわたっても守り受け継いでいくためには、その資源を再度見つめ直し、評価を与えることにより、地域住民にその重要性を再認識させることが有効である。これら資源は地域住民にとっては、ごく身近なもので重要視されていない場合が多く、外部からの評価を受けることや同じようなプライドを持っている地域との交流により、その重要性を再認識し、意思を持って守り受け継いでいくことが必要である。
- ・ また、前述のように地域住民にとっては、日常的な振る舞いそのものが歴史的地域プライドになっている場合が少なくなく、これらを地域づくりの核として据えるためには、意識づけのためのきっかけづくりが重要となる。しかも、時代が移り変わって、住民の生活スタイルや価値観等が多様化している現在そして未来においても、守り受け継いでいくためには、時代に応じて変容させながら取り組むことも必要である。

目 標		具体的な方策
資源の再評価	外部からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源の調査・研究 ・ 重要文化財指定、世界遺産登録 (取り組み事例) ・ 地域プライドの取り組みに関する表彰 ・ 観光客による評価 など
	広域型の地域プライドの発掘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接地域の共通テーマの掘り起こしと広域型地域プライドの展開(合併地域の共通テーマとしても有効)
きっかけづくり	象徴となるものの継承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡・町並みの保存と付加価値の創出 ・ 足跡、研究資料等を集約した記念館等の整備 (取り組み事例)
	変化する生活スタイルへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代人の志向に合わせた変化への誘導(舞踊 ダンス、神楽 オペラなど) (取り組み事例)
	住民が改めて認知するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代人が興味を持つ取り組みへ展開(体験型・参加型、景観、環境、食、イベント等) ・ 政策的な取り組み(行政計画への反映、景観法にもとづく取り組み、商業・観光施策との連携など) (取り組み事例)

情報発信

- ・ 歴史的地域プライドによる地域づくりを進めるには、まず、地域住民に歴史的地域プライドを周知し、共通認識として確立することが必要である。住民の行動範囲が拡大し自らが情報収集できる時代にあって、インターネットなど多様な情報媒体による多種多様な情報が錯綜している中、住民の関心・興味を引き出すような情報発信能力を向上することが重要である。また、歴史的地域プライドは、幼少の頃から、お年寄りまで多くの世代で共有することが重要であるため、その世代に応じたコンテンツも用意することが望まれる。
- ・ 歴史的地域プライドによる地域づくりを実践するためには、取り組み主体から情報を発信するだけでなく、今後の展開を検討する上では地域住民の意見や他地域の情報を収集することが不可欠である。地域プライドに関しては、既に文化庁や国土交通省、都道府県レベルで県内情報の収集、及びホームページなどで情報発信している例が見られるが、これらとの連携を図るなど、他地域の取り組み事例の研究や交流を図る土台として全国の情報ネットワークを構築することが有効である。

目 標		具体的な方策
情報発信能力の向上	コンテンツの工夫	・ 多様なコンテンツづくり（アニメ、映画、音楽、演劇など）（ <u>取り組み事例</u> ）
	情報の集約	・ 全国及び各地域におけるプライドライブラリーの構築
情報ネットワークの構築	情報共有	・ 既存HPの活用・連携（ <u>取り組み事例</u> ） ・ 地域プライドデータベースの構築
	交流できる場づくり	・ 活動拠点の設置 ・ 同種の地域プライドを有する地域との交流（ <u>取り組み事例</u> ） ・ 地域プライドフォーラムの開催（ <u>取り組み事例</u> ）

財源確保

- ・ 地域づくりを行うためには、資金が必要となる。特に、歴史的地域プライドによる地域づくりについては、短期間で効果が上がるものではなく、中長期で取り組んでいくべきことであるため、資金調達能力の向上、経済的な基盤を整えておくことが重要なポイントとなる。地域住民の発意による資金調達や地場産業などとの連携による収益構造の構築が今後の展開として考えられる。また、補助事業等に関しては、昨今、費用対効果が求められ、短期間で効果が表れる事業の重点化が謳われているが、その一方では、地域からの提案で柔軟性の高い資金投入が可能となってきている。その活用を十分に検討することが有効である。

目 標		具体的な方策
資金調達能力の向上	収益構造の検討	・ 寄付・基金・トラストなど ・ 地場産業とのマッチング、観光資源としての活用など（ <u>取り組み事例</u> ）
	支援制度の活用	・ 既存支援制度の周知及び活用アイデアの発信など ・ 地域提案型・市民提案型事業への提案の促進

【取り組み事例一覧表】

取り組み事例	<p>事例1 - 1 : 滋賀県高島市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生対象には学校行事「立志祭」や「藤樹かるた大会」、小学校副読本「藤樹先生」、そのた「新春書き初め奉納」などを実施し、中江藤樹の教えを教えている。 ・市民向けには伝統行事として「藤樹書院の講書初め」、「常省祭」、「藤樹祭」、「中江藤樹フォーラム」などを実施し、中江藤樹の教えを受け継いでいる。
	<p>事例1 - 2 : 白石踊り(岡山県笠岡市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島民ならば誰でも踊ることができ、島外の高校進学までに身につけるべきものとして認識されている。白石島内で授業として取り入れている。 ・幼稚園 小学校、小学校 中学校の連携の形で、総合学習の一環として行われており、会のメンバー6～7人が教えている。
取り組み事例	<p>事例2 : いわて地元学(岩手県)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が今までやっていたこと、地域のありようを再発見することを、地元に住んでいる人が主体的に行う。 ・地域における持続的で地道な取り組みで、地域の人々のつながりを取り戻す取り組みを進める。
取り組み事例	<p>事例3 : ふれあい世界遺産塾(岩手県平泉町)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一関・水沢・千厩地域における小・中・高校生を対象に実施 ・地域プライドを受け継ぐ人材育成(ジュニアリーダーの育成)を進めている
取り組み事例	<p>事例4 - 1 : いなみ野ため池学(兵庫県、兵庫大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東播磨地域の特徴的な景観をかたちづくる「ため池群や水路網」は、先人たちが営々として築きあげてきた、かけがえのない財産である。 ・それらが持つ歴史的・文化的価値や現代的意義を見つめ直し、これからの地域づくりへ活用していく道を探るため、現役の大学生とともに地域住民が学習する講座『いなみ野ため池学』を開講。
	<p>取り組み事例 -2 : ふるさと学習会(熊本県美里町(旧中央町) 熊本大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本大学では、地域貢献への取組みとして「地域貢献特別支援事業」を実施しており、事業を通じて大学がもつ「知・人・物」敵資源を地域との間で循環させ、ともに支えあう環境構築を目指している。 ・当該事業の個別事業として、「熊本文化発掘事業」を実施し、熊本県美里町(旧中央町)に数多く存在する中世から近現代に及ぶ長期間に建造された石造遺物を歴史資料としての調査・記録する調査を実施した。 ・この調査結果については、「ふるさと学習会」(町内の自然・歴史資料を中学生たちが歩きながら学んでいく企画)において、調査に参加した学生・院生たちが講師として参加しており、調査の成果を「人づくり」に活かしている。

<p>取 り 組 み 事 例</p>	<p>事例 5：南部杜氏(岩手県花巻市(旧石鳥谷町))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杜氏は冬の「出稼ぎ」であったため、暗いイメージがあったが、「期間就労の集団」として地域の誇りにしよう意識改革をはじめ、昭和 56 年に酒造用具が国の重要有形民俗文化財に指定され、歴史民俗資料館の整備を行うなど、「南部杜氏」に対する町民の意識が大きく変化した。
<p>取 り 組 み 事 例</p>	<p>事例 6：旧後藤家商家(宮崎県都城市(旧高城町)、NPO高城歴史文化のまちづくりフォーラム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧家後藤家に生まれた後藤伊左エ門は、私財を投資し高城村の産業(造林事業、養蚕業、綿花事業)を発展させた人物である。 ・後藤伊左エ門が残した地域の歴史、町民の誇りがつまっている旧後藤家商家を保存し、薩摩藩の精神を守り伝えている。また、商家に残るピアノの修復をきっかけとしたクラシックコンサートや、商家に残る昔の教科書展、高城昔の写真展、なんこ(南九州に古くから伝わる酒の席のゲーム)大会や雛人形展等により、楽しみながら文化の伝承に取り組んでいる。
<p>取 り 組 み 事 例</p>	<p>事例 7：あいづっこ宣言(福島県会津若松市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・侍の男の子は6歳になると必ず侍という自分の住む地域のグループに加わり、年少者は年長者への礼儀と尊敬、同年者との友情を自然に身につける。武士としての日新館教育の前に、自然の遊びのうちに人の道、社会人としての基本を学ぶ。 ・現代版侍の掟「あいづっこ宣言」の策定し、日新館教育を各学校や家庭に配り、子どもの集まりなどで唱和し、理解と実行を深める。
<p>取 り 組 み 事 例</p>	<p>事例 8 - 1：岩手県平泉町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥州藤原文化発祥の地であることを誇りに持つことを憲章に盛り込み、まちづくりの理念に掲げている。 ・町並みを保存するため、平成 17 年 1 月景観条例施行し、コアゾーン・バッファゾーンについては建築等を事前協議し、許可制としている。さらに、看板等についても、規制。既存のものの撤去についてはお願いしている。 <p>事例 8 - 2：ひむか神話街道(宮崎県)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古事記や日本書紀に記されている日向神話をはじめ、歴史ロマンを彷彿とさせる数多くの伝説や史跡にあふれ、歴史資源の宝庫となっている。 ・ひむか神話街道は 14 市町村 300 km であり、点としてそれぞれ取り組みを線としてつなぐことで大きな誇りを作り出し、交流人口の拡大を目的としている。特に県北部の 5 町村では宮崎県北協議会が設立され、ふれあい案内人やもてなしを通じて地域の歴史・文化に触れるなど、すそ野は広がっている。
<p>取 り 組 み 事 例</p>	<p>事例 9：多様なコンテンツの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長編アニメ： <ul style="list-style-type: none"> 命をかけて祖国を守ろうとしたアテルイ・モレと坂上田村麻呂との戦い。アテルイの思い、坂上田村麻呂との友情を伝えるため、県民の寄付等で製作。(岩手県) ・映画： <ul style="list-style-type: none"> 中江藤樹に関する映画を製作。映画にはエキストラとして市民も多数参加。(滋賀県高島市)

	<ul style="list-style-type: none"> ・町民劇場： 水利が悪かった胆沢平野に後藤寿庵の後を引き継ぎ、胆沢川からの用水路を開鑿した千田左馬の功労が称えて町民の自作自演の演劇を実施した。(岩手県奥州市(旧前沢市)) ・HP紙芝居： 先人の功績をたたえて、記念館を整備するとともに、HPに紙芝居を製作し、彼らの紹介をしている。(岩手県奥州市(旧水沢市))
取り組み事例	<p>事例10：いわての文化情報大辞典(岩手県)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民の多様な文化とのふれあいの確保と自主的な文化活動の展開のため、文化に関する情報をデータベースとして蓄積するとともに、行政機関や文化施設等を結ぶネットワークづくりを目的とした「文化情報提供システム」として構築。 ・平成11年度に実施した文化に関する県民意識調査結果や有識者の意見を元に、県民ニーズの高い情報や、本県独自の貴重な文化情報をデータベース化
取り組み事例	<p>事例11：報徳サミット(栃木県二宮町他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二宮尊徳の「報徳思想」を通じて、まちづくりやひとづくりを考える場として、毎年二宮尊徳ゆかりの市町村で開催。 ・全国報徳研究市町村協議会(全国28市町村)により開催し、平成17年で11回目をむかえる。
取り組み事例	<p>事例12：地域プライドフォーラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な地域プライドによる地域づくりの重要性を啓発するとともに、具体的な取り組みの紹介を行う。
取り組み事例	<p>事例13-1：宮沢賢治記念館(岩手県花巻市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・童話や農業技術研究などで知られる宮沢賢治を紹介する記念館では、賢治の生い立ち紹介や手書きの原稿などの展示のほか、ビデオや図書資料などで賢治の作品を紹介するなど賢治の思想が紹介されている。近接してイーハトーブ館や童話村などもあり、リピーターが多い。 ・また、宮沢賢治の命日である9月21日には、毎年賢治祭が行われ、賢治の詩の朗読や野外劇などが行なわれる。
	<p>事例13-2：かぐらグッズ(大分県庄内町)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄内神楽が盛んに行われている庄内町では、神楽をモチーフにした土鈴や壁掛けなどのグッズを製品化している。また、出前神楽(神楽の出張講演)や携帯神楽(神楽を携帯電話着信音に)などを行っている。
	<p>事例13-3：醬(ひしお)の郷(香川県小豆島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古来の製法でつくる醤油を核として、油蔵を使った記念館、醤油造りの方法や歴史の体験学習、醤油ソフトクリーム、黒く色づいた醤油蔵のまち歩きを実現している。

(4) 提言

- ・ 「地域」とは、地理的な条件や気候的条件、いわゆる風土とそこに住む人々の資質や活動により成り立っているものである。しかし、近年、人の移動の高速化、広範化が進むとともに、情報交換手段の高度化が進み、「地域」という枠がなくなり、地域の空洞化が深刻化してきている。そのため、これまで地域で育まれてきた地域の誇りやコミュニティが希薄となり、さらなる空洞化が進むという悪循環に陥っている。
- ・ その打開策として、地域の独自性や創意工夫による地域づくりが進められているが、その際、重要なポイントとなるのは、地域がこれまでに守り受け継いできた歴史的な地域プライドである。歴史的な地域プライドを守り受け継ぐことにより、いわゆる地域に根ざした「文化資本」としての付加価値を生み出し、地域活力の再生へ活用することで、地域住民が住みよいわが町を誇りに思い、地域外からの交流人口を呼び込むことができる有効な手段であると言える。
- ・ 本節では、検討委員会や地域プライドフォーラムにおける意見をもとに、今後さらなる地域づくりに向けた提言を整理する。

歴史的な地域プライドによる地域づくりは、地域住民の「アクション」から始まる

- ・ 歴史的な地域プライドは、あまりにも身近にあるためその重要性を認識していない場合も少なくないため、外部の人から発掘、再評価されることもある。ただし、その後については自分たちの地域は自分たちの手でつくるという意識が重要である。つまり、他人任せではなく、自分でできることは自分でやるといった内発的な地域づくりを進めることが最も重要である。行政としては、やる気のある人が力を発揮できる仕組みをつくることが求められている。

歴史的な地域プライドに配慮した市町村合併後の地域づくりへの支援

- ・ 地方分権の推進や効率的な行政サービスの提供に向け市町村合併が進められている。市町村合併することとなる旧市町村（または地域）においては、それぞれの風土、歴史・文化が育まれており、それぞれの歴史的な地域プライドが存在してきていることが想定できる。
- ・ 市町村合併により複数の地域を1つに束ねた新市の建設方針等を策定することとなる。その際、新市建設の理念や将来像までも1つに束ねようとすると、各地域の住民が共感・共有できないものになる可能性がある。一方、各地域のプライド等を尊重しすぎると新市としてのまとまりがないものとなる可能性もある。新市建設の理念や将来像を作成する際には各地域の歴史的な地域プライドを再認識し、各地域の住民と十分な話し合いを行うことが必要である。
- ・ 合併により行政区域は変わるものの、住民意識にある歴史的な地域プライド（地域固有の精神文化）は普遍のものであり、新市に移行してもこれまでと同様に歴史的な地域プライドによる地域づくりを続けていくことが地域独自の個性ある人づくり・自立する地域づくりに不可欠である。新市において地域独自の取り組みが継続できるよう支援体制を構築することが求められている。

地域づくりの人材育成支援（若者の育成）

- ・ 歴史的地域プライドによる地域づくりには、地元住民の「アクション」が大事であり、さらにはそれを継続することが必要である。
- ・ フリーターやニートと呼ばれる若者が増加しているが、若者は自分の居場所、地域における存在意義を模索しているとも考えられる。
- ・ そこで、若者が興味を持つよう社会の仕組み、取り組み支援を行うことが求められる。個人個人は対等な立場で、オープンな空間の下、自由な話し合いで民主的に物事を決め、さらには誰もが主役・リーダーになれるというシステムを構築することが重要である。これにより、若者にも上からの押し付けではなく、自分たちが自ら行動でき、達成感も得られる仕組みができる。

地域づくりの人材育成支援（団塊の世代を動員）

- ・ 日本の高度成長を支えてきた団塊の世代が定年退職を向かえる時期に来ている。いわゆる「2007年問題」であるが、これらの人材を地域づくりに動員することができれば、地域住民による地域づくりが促進できる。
- ・ ただし、高度成長期を生き抜いてきたため、短期間に成果を挙げるといふ成果志向が強いと考えられる。歴史的地域プライドによる地域づくりは前述のように時間をかけながら進めることが有効であるため、あせらずゆっくりと時間を使うことに慣れることが必要である。

自律的な観光行動への対応

- ・ 歴史的地域プライドにより自立できる地域づくりを進めるに当たって、その1つの方策として観光資源としての活用である。これまでは国内外の旅行という団体パッキングツアー、名勝見学、周遊型といった観光がほとんどであったが、これからは個人・家族等の小単位、体験・自己実現、滞在型の、いわば自律的な観光が主流を占めてくるといわれている。
- ・ 祭りや芸能などの歴史的地域プライドについては、単なる見学だけではなく、体験できる仕掛けづくりを行うことにより観光客の需要を獲得することが有効である。それでこそ単なる観光から、訪れる人々が地域プライドに触れ、同時に幸せを感じられる「感幸」となり、人々がリピーターとして地域を訪れるようになることが期待できる。

歴史的地域プライドによる地域づくりを促進するインフラ整備

- ・ 歴史的地域プライドによる地域づくりを継続するためには、そのプライドの情報や資料を集約し保存する施設や、活動の拠点となる場が必要となる。また、祭りやイベントなどの開催にあたっては、人々を呼び込むための情報発信力や、実際の人の動きを支える交通手段が必要である。さらに、住民が地域活動に参加しやすい地域づくりのシステムの構築を行うことが求められる。
- ・ 行政は、地域住民と協働して地域づくりを進めると同時に、上記のような地域づくりを促進するための環境整備、インフラ整備を進めることが求められる。

平成 17 年度国土施策創発調査

「地域プライド創発による地域づくりのあり方に関する調査」

～ 地域固有の歴史的な精神文化を軸とした地域プライドの創発～

【調査報告書】

平成 18 年 3 月

文部科学省	生涯学習政策局
文化庁	文化 部
文化庁	文化財 部
国土交通省	都市・地域整備局

- 目 次 -

第一部 調査報告

序 章 調査の概要

- 序 - 1 調査の背景と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 序 - 2 調査実施方法と検討体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第1章 地域プライドと地域プライドによる地域づくりについて

- 1 - 1 本調査における地域プライドの定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 1 - 2 歴史的地域プライドによる地域づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

第2章 全国の歴史・文化を活かした地域づくりの現状に関する調査

- 2 - 1 都道府県アンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- 2 - 2 歴史的地域プライドによる地域づくりの全国事例調査・・・・・・・・・・・・・27
- 2 - 3 歴史的地域プライドによる地域づくりの海外事例調査・・・・・・・・・・・・・31

第3章 モデル地域における歴史・文化を活かした地域づくりの現状に関する調査

- 3 - 1 モデル地域調査の目的とモデル地域の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
- 3 - 2 モデル地域ヒアリング調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
- 3 - 3 市民アンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
- 3 - 4 モデル地域における歴史的地域プライドによる地域づくりの実態・・・・・・・・・・・・・67

第4章 歴史的地域プライドによる地域づくりの推進方策

- 4 - 1 歴史的地域プライド事例分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
- 4 - 2 歴史的地域プライドによる地域づくりの視点整理・・・・・・・・・・・・・75
- 4 - 3 歴史的地域プライドによる地域づくりの推進方策・・・・・・・・・・・・・77

資料編

- 1 都道府県アンケート調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
- 2 モデル地域市民アンケート調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
- 3 モデル地域市民アンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・119
- 4 モデル地域ヒアリング調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・151

第二部 地域プライドによる地域づくりフォーラム

- 地域プライドによる地域づくりフォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・175

第三部 地域プライド事例集

- 地域プライド事例集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・222
- 地域プライド一覧（アンケート調査より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・265

第一部

調查報告

序 章 調査の概要

序 - 1 調査の背景と目的

(1) 調査の背景

これまでの地域づくりは、インフラ整備や工場誘致等の産業振興といったハード整備主体で進められてきたが、真に成熟した地域づくり、国土づくりを進めるためには、郷土を愛し、誇りに思う“人づくり”こそが求められると考えられる。

その根幹を成すものが、“歴史・文化が培ってきた地域固有の精神文化”を拠り所にした地域への愛着、誇り、地域プライドとも言えるものである。

全国的に見ると、このような地域の誇るべき精神を学校教育や社会教育の中で取り入れ、また祭りや行事として受け継ぐことで地域づくりを進めている自治体が数多く存在する。

地域の誇りを継承していく取り組みは、まちづくり活動の1つであると解釈するのではなく、これからの地域づくり、国土づくりの大きな潮流になるべきであるとする。

(2) 調査の目的

以上の認識から本調査では「歴史的地域プライドによる地域づくり」を推進すべく、以下に掲げる事項を調査の目的として実施する。

全国及びモデル地域における実態調査等を通じて、歴史的地域プライドによる地域づくりを実践している自治体に着目し、どのような取り組みを行っているのか、その取り組みを通じて、地域の人づくり、まちづくりといかに係っているのかを把握する。

地域の誇りを継承していく取り組みを、これからの地域づくり、国土づくりの大きな潮流とすべくきっかけづくりを行う。また、各地域において、地域プライドによる地域づくりを進めるために参考となる事例を整理し、歴史的地域プライドによる地域づくりのあり方の考察、具体的な展開方策の検討を行う。

歴史的地域プライドによる地域づくりを推進していく上での政策提言を行う。

地域の歴史・文化、そして受け継がれてきた精神文化を再認識するきっかけづくりや取り組みに寄与できる事例集を作成する。

序 - 2 調査実施方法と検討体制

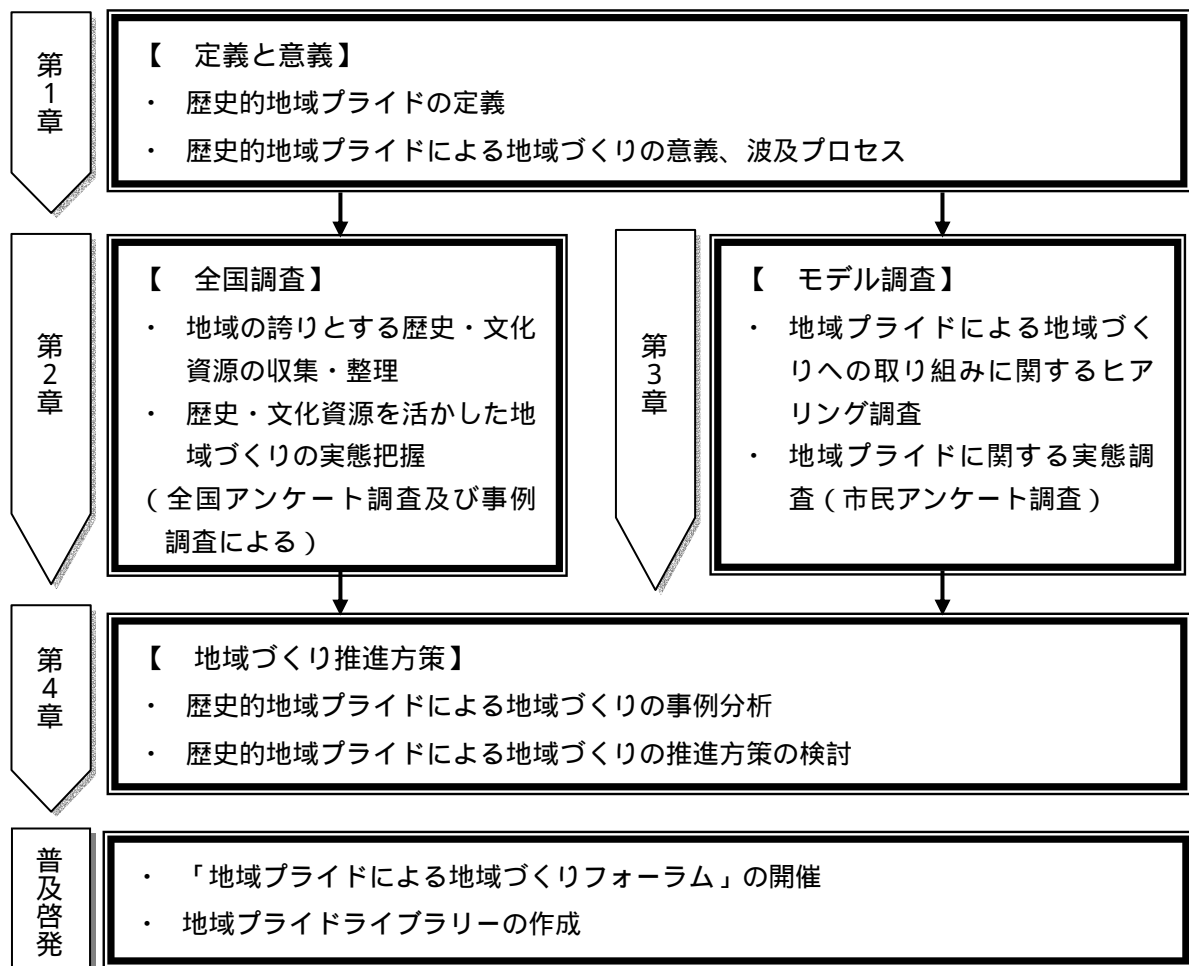
(1) 調査のフレーム

本調査は、定義と意義、全国調査、モデル調査、地域づくり推進方策の4つのフレームに分けることができる。

定義と意義では、本調査で取り扱う歴史的地域プライドについて定義するとともに、歴史的地域プライドによる地域づくりの意義や波及プロセスを整理する。次に、全国調査では、全国都道府県アンケート調査や事例調査等を通じて、地域の誇りとなる歴史・文化資源とこれら歴史・文化資源を活かした地域づくりの実態を把握する。また、モデル調査では、全国から3つのモデル地域を定め、地域プライドによる地域づくりを実践している市町村、NPO、各種団体等へのヒアリング調査、及び市民アンケート調査を通じて、歴史的地域プライドによる地域づくりの取り組み実態や問題点などを把握する。最後に、地域づくり推進方策では、全国調査、及びモデル調査の結果を通じて、歴史的地域プライドによる地域づくりを推進していく上での視点を整理し、推進に向けての方策、提言を整理する。

なお、本調査結果の普及啓発として、「地域プライドによる地域づくりフォーラム」の開催と地域プライドによる地域づくりを実践している地域を紹介する地域プライドライブラリーの作成を行う。

図 0-2-1：本調査のフレーム



(2) 検討体制

本調査は全3回の検討委員会を開催し、その中で実態調査の結果や検討事項に関する議論を進めた。本検討委員会の委員は次のとおりである。

なお、検討委員会にはオブザーバーとして、文部科学省生涯学習政策局地域づくり支援室、政策課地域政策室、文化庁文化部芸術文化課地域文化振興室、文化財部、国土交通省都市・地域整備局地方整備課、及び本調査の提案県である関係自治体の代表者が参加している。

検討委員会（敬称略）

委員長

大宮 登（高崎経済大学地域政策学部長）

副委員長

安島 博幸（立教大学観光学部教授）

委員

石森 秀三（国立民族学博物館文化資源研究センター教授）

枝川 明敬（東京芸術大学音楽学部教授）

北沢 猛（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

佐藤友美子（サントリー次世代研究所部長）

第1章 地域プライドと地域プライドによる地域づくりについて

1-1 本調査における地域プライドの定義

(1) 地域プライドとは

人に個性があり、プライドがあるように、地域にも個性があり、プライドがある。しかし、これまでのインフラ整備や産業振興等といった、いわば成果が見える地域づくりが中心に進められてきた時代において、これら地域が本来持っていたはずのプライドが消滅しつつある。

一方で、その中でも地域のプライドを守り、育てている地域が存在する。地域プライドを守り、育てていくことは、地域づくりの大きなエネルギーとなり、個性ある人づくり、地域づくりにつながっているといえる。

(2) 本調査での地域プライドとは

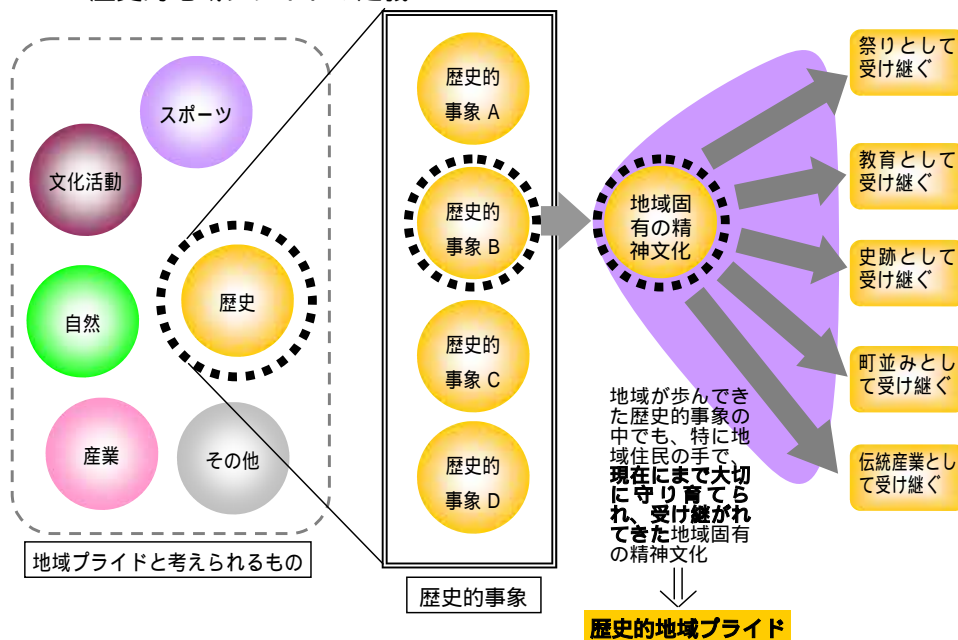
サッカーや野球、音楽や劇などといったスポーツ文化活動を起こし、人々がこれらを誇り(プライド)に思い、これを地域づくり、地域振興につなげている地域が多く見られる。また、地域を形づくる山や川、水などの自然そのものを敬い、これを誇り(プライド)として地域づくり、地域振興につなげている地域も多く見られる。

一方で、各々の地域では、有史以来、経験し、蓄積してきた多くの歴史的事象が存在する。その中でも、地域の人々により、時には労力を出し、資金を出し、精神を發揮して、これら歴史的な事象を、祭りをはじめ、民俗芸能、遺構、伝承、あるいは町並みなどとして、大切に守り育て、受け継いできているものがある。

このように数ある地域の歴史的な事象の中で、地域の人々によって受け継ぎ、守り育てられてきた「地域固有の精神文化」こそ「地域プライド」である。

本調査では、様々な地域プライドのうち、(主に明治期以前から)長い年月を経て、守り受け継がれてきている「地域固有の精神文化」に着目し、これを「歴史的な地域プライド」と定義する。

図 1-1-1：歴史的な地域プライドの定義



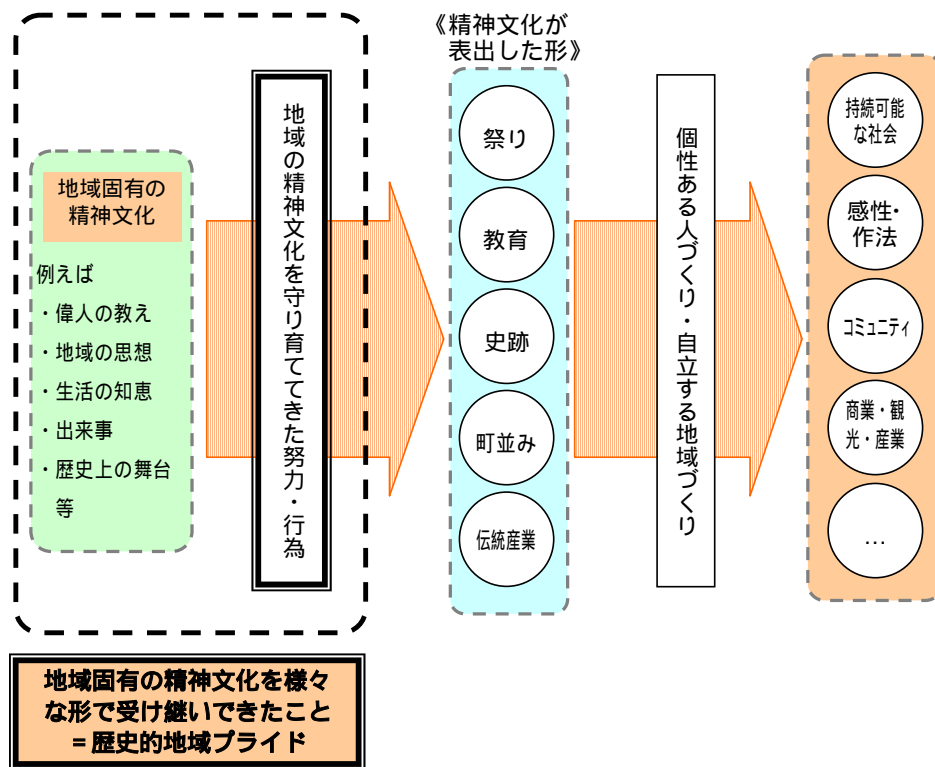
1 - 2 歴史的地域プライドによる地域づくり

(1) 歴史的地域プライドによる地域づくりの意義

これら歴史・祭り・文化資源等が現在にまで残り、受け継がれているのには理由があり、受け継ぎ、守り育てるために様々な努力（取り組み）がなされている。

このように「歴史的地域プライド」が地域住民の中で共有できている地域においては、時代が変わり、社会システムが変貌しようとも、今後とも個性ある人づくり、地域づくりが継続できるものであると考えられる。更には、地域プライドを持った人々により地域づくりが行われていくことは、これからの持続可能な社会の形成、豊かな人の感性や作法を生み出すばかりではなく、地域コミュニティの再生・活性化、観光や新産業といった地域振興にも大きく寄与できるものである。

図 1-2-1：歴史的地域プライドによる地域づくりの意義

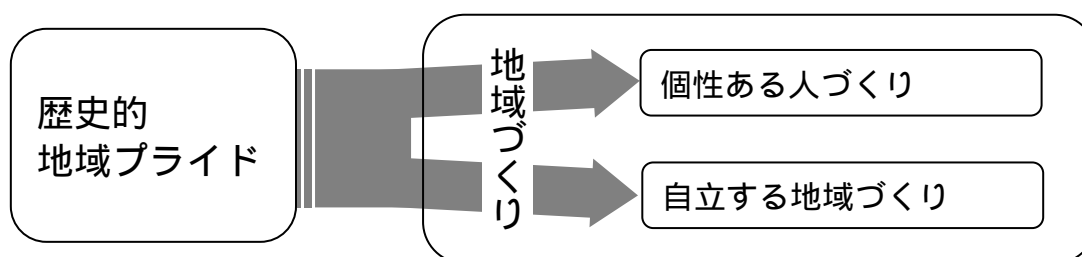


(2) 歴史的地域プライドによる地域づくりの波及効果

地域づくりとは、その地域での生活をより豊かなものにしようと進めるものである。そのためにはそこで生活する人々の意識啓発が必要である。また、その地域での生活、経済活動が他の地域と対等であることが望まれる。具体的には、防災上の安全、住環境の快適、経済的な自立などが該当する。

しかし、これら地域づくりについては、これまで多くが課題対応型で進められてきた例が多く、そのため、全国で同じような取り組みが実施され、同じような地域が生まれてきた。地域として最低レベルの備え・整備は必要であるが、それにより、地域の個性や独自性が失われてきたともいえる。

一方で、歴史的地域プライドによる地域づくりを進めることにより、画一的な地域づくりではなく、その地域で生活している人の思いや振る舞いが見える地域づくりを進めることが期待できる。なぜならば、歴史的地域プライドはその地域独自の文化であり、守り受け継ぐ過程の中で、その地域と密接にかかわることが不可欠であり、地域のコミュニティを活性化するとともに、いわゆる、人間力・地域力を高めることとなる。つまり、歴史的地域プライドによる地域づくりを進めることは、個性ある人づくりと自立する地域づくりにつながるといえる。



個性ある人づくり

歴史的地域プライドを守り受け継ぐためには、地域固有の精神を伝えることが必要である。学校教育の一環として取り組むことも重要であるが、精神そのものを伝えるだけではなく、その表出した形を「学習」や「習得」する過程において、その根底にある精神までも自然と伝承していくものである。

<個性ある人づくりの波及効果>

- ・地域での生活に欠くことのできない礼儀や道徳、常識を習得する。
- ・上の世代と下の世代が交流することができ、地域の活力を維持できる。
- ・地域共通のミッションに向かっていくというパワー（エネルギー）が生まれる。
- ・地域を誇りに思い、公共性が生まれる。

自立する地域づくり

大量生産・大量消費時代を脱し、成熟した市民社会を形成する時代に突入している現在において、歴史的地域プライドを「文化資本」として捉え、地域づくりを進めていくことが必要である。

<自立する地域づくりの波及効果>

- ・歴史的地域プライドを行政計画の中心的コンセプトと位置づける。
- ・歴史的地域プライドと地場産業や伝統産業との連携を図る。
- ・歴史的地域プライドをテーマ型新産業・観光資源として新たな展開を図る。

第2章 全国の歴史・文化を活かした地域づくりの現状に関する調査

2-1 都道府県アンケート調査

(1) アンケート調査実施概要

調査の目的

本調査は、地域の誇りと考えられる全国の歴史的・文化的資源をきめ細かく発掘することではなく、どのようなものが誇りと考える資源であり、これら資源がどのように地域づくりに活かされているのか、また、これら資源を地域の誇りとすべくどのような取り組みが行われているのかについて、現状と課題を抽出することを目的とする。

したがって、誇りと考える歴史的な資源の収集について、主に、地方レベル～広域圏レベルにおけるものを収集できるよう都道府県を対象にアンケート調査を実施した。

調査対象

全国47都道府県における「文化振興」、「生涯学習」、「文化財」、「地域振興」、「NPO」、「観光」を担当する各部署（担当部署が複数ある場合は、複数の部署に配布する。）

配布及び回収

郵送方式による配布、インターネットメール及びFAXによる回収。

実施時期

- ・ 発送期日：平成17年11月3日付
- ・ 回答期限：平成17年11月18日

平成18年1月末まで、アンケート回答内容についての再確認を行い、1月末までに回収できたアンケートの件数を回収数として含む。

配布数及び回収率

- ・ 配布数：289件 回収数：180件（回収率：62.3%）

複数の部署が合同で回答した場合は双方から回答を得たものとする。

また、回答数には、「該当なし」との返答のみがあったものも含む。

都道府県別及び担当部署別の回答状況

全ての都道府県から1件以上の回答を得た。なお、部署別の回答状況はすべての担当部署で回答率が過半を越えており、回答率に大きなばらつきはない。

表2-1-1：部署別の回答状況

部署	配布件数	回答件数	回収率
文化振興	49	29	59.2%
生涯学習	52	35	67.3%
文化財	47	31	66.0%
地域振興	47	31	66.0%
NPO	47	26	55.3%
観光	47	28	59.6%
合計	289	180	62.3%

(2) アンケート調査結果

問1-1 (歴史的地域プライドの抽出)

貴都道府県下で、地域固有の歴史的な精神文化として、地域住民に受け継がれている「歴史的地域プライド (例えば、歴史的な出来事やゆかりの人物、風習、伝説や説話、祭りやイベントといった文化的な活動など)」となるものを教えてください。

「歴史的地域プライド」には、古くから伝わるものがそのままの形で現代の地域住民に受け継がれているものだけでなく、歴史的な背景のもとに、現代に新しい形となって伝わり、地域住民の誇りとなっているもの(祭りなどの文化資源)も含む。

- ・ 全国から 664 件の地域の誇りとして考えられる歴史的地域プライドが挙げられた。
重複する内容は 1 件とみなす。ただし、「景観」や「食」など、本調査で歴史的地域プライドと定義していないものは除く。
- ・ 歴史的地域プライドの内容を整理すると、大きく以下の 8 つのテーマに分けることができる。

先人・教え

- ・ 地域ゆかりの偉人の業績や教えを地域の誇りとしている。
- ・ 歴史上の人物のゆかりの地であることを地域の誇りとしている。
- ・ 地域ゆかりの組織(例えば水軍や地域の歴史文化を継承する技術者など)を地域の誇りとしている。
- ・ 歴史上の人物個人ではなく、これら人物を多数輩出してきた地であることを地域の誇りとしている。

出来事・発祥

- ・ 歴史のターニングポイントとなるような出来事(戦争など)が起こった地であること、またはその出来事に由来する史跡等が存在することを地域の誇りとしている。
- ・ 文化的な事項(音楽など)の発祥の地であることを地域の誇りとしている。

拠点・要衝

- ・ 各時代における地域の中心・拠点として繁栄した地であったことを地域の誇りとしている。
- ・ 交通や物流の要衝として繁栄した地であったことを地域の誇りとしている。

町並み・史跡

- ・ 歴史的な建造物や構造物、町並みが残っている、またはこれら資源を守り受け継いでいることを地域の誇りとしている。
- ・ 歴史上価値の高い史跡を有している、またはこれら史跡を多く有していることを地域の誇りとしている。

伝統芸能・祭り

- ・ 風俗慣習や祭礼行事、民俗芸能を現代まで継承していることを地域の誇りとしている。

神話・伝説

- ・ 日本創生の神話や諸伝説にかかわる地であること、またはその神話・伝説に係わる史跡等が存在することを地域の誇りとしている。

独自文化

- ・ 地域独自の生活文化を現在まで受け継いでいることを地域の誇りとしている。
- ・ 地域の長い間受け継がれてきた教え（例えば、江戸時代の藩校の教え）を現在まで受け継いでいることを地域の誇りとしている。
- ・ 歌（和歌や俳句、連歌など）が多数読まれた地であることや、これら文化に関連の深い地であることを地域の誇りとしている。

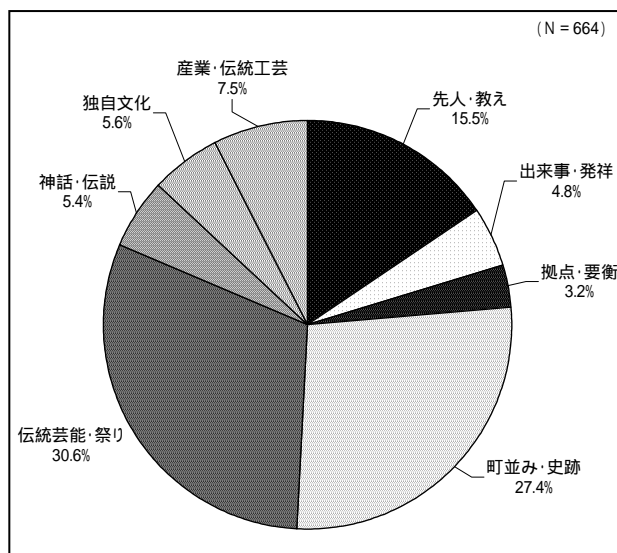
産業・伝統工芸

- ・ 日本を代表する産業や伝統工芸が興った地であることを地域の誇りとしている。
- ・ 近代産業の中心地であることを地域の誇りとしている。

全国アンケート調査では、その他、「自然」「食文化」「天然記念物」などに関する誇りも挙げられたが、これら事項については、以下の集計・分析の対象外とする。

- ・ 以上のテーマ別に歴史的地域プライドを分類すると、最も多かったのが「 伝統芸能・祭り」であり、全体の約 30.6%を占めている。次いで「 町並み・史跡」であり、全体の約 27.4%を占める。
- ・ これら上位2つは、文化財保護法でいわれる『文化財』として定義されているものであり、地域の誇りとして挙げることができる代表的なテーマとなっている。その他、「 産業・伝統工芸」についてもこの部類に入ると考えられる。
- ・ これらの次に多いのは、「 先人・教え」であり、地域が輩出した偉人や地域ゆかりの人が地域の誇りとして数多く位置づけられている。

図 2-1-1：歴史的地域プライドのテーマ別分類



問1-2（地域の誇りとして考えられる理由）

問1-1で挙げた歴史的地域プライドが、地域の誇りとして考えられる理由について、ご回答ください。

- ・ 問1-1に挙げられた歴史的地域プライドが地域の誇りとなっている理由として、「地域の住民が熟知していること」が最も多く、約41.5%を占めている。これは、問1-1で分類したどのテーマをみても最も多く、『地域住民が知っている』ことが、誇りと考えられる一因であるといえる。
- ・ 次いで、「地域住民の心の支えとなっている。または生活の一部となっている」が約23.9%と高くなっており、「神話・伝説」を除く全てのテーマで「地域の住民が熟知していること」に次いで高くなっている。特に有形、無形文化財などの“形態”として日常触れることができるテーマについては、これを誇りとする理由として挙げる傾向が高い。
- ・ 一方で、「伝統芸能」、「神話・伝説」、「独自文化」及び「拠点・要衝」といった文化財などの形としてだけでなく、“伝承による言い伝え”などを主たる継承の形とするテーマについては、「地域独自の考え方・信念が息づいている」ことを誇りとなっている理由として挙げる傾向が高くなっている。

図2-1-2：地域の誇りとして考えられる理由

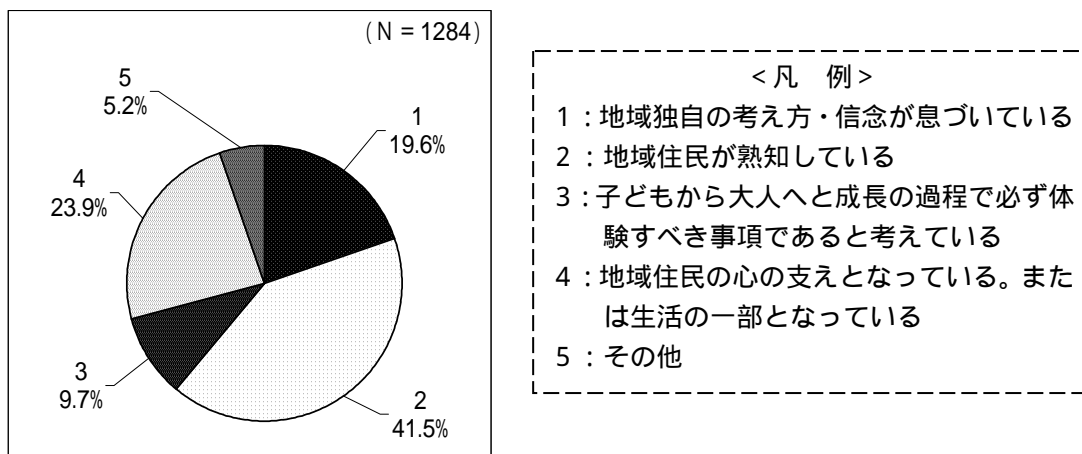
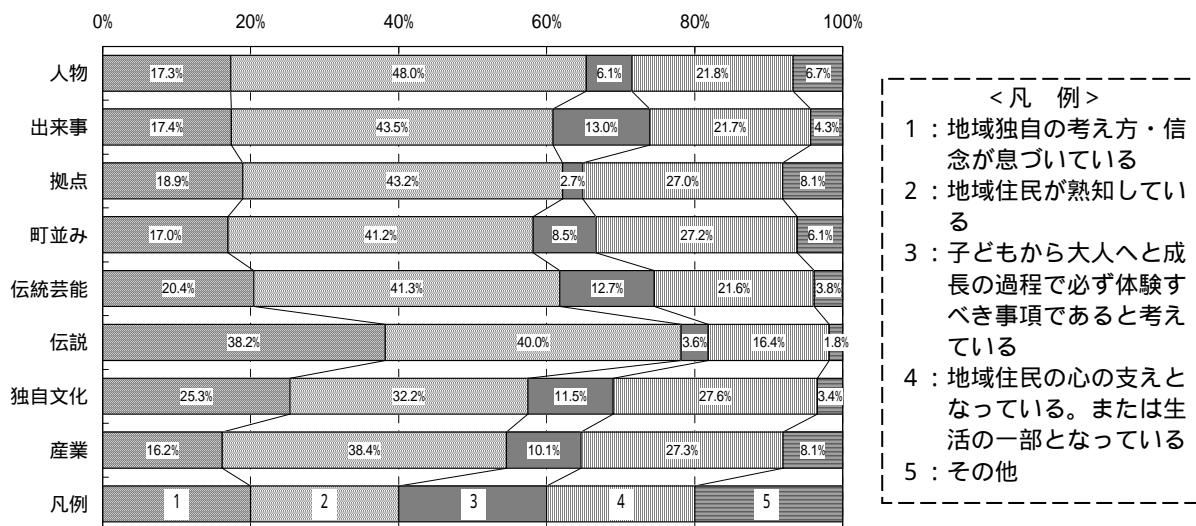


図2-1-3：地域の誇りとして考えられるテーマ別の理由



問2（歴史的地域プライドを活かした地域づくりに向けた取り組み）

問1-1で挙げた「歴史的地域プライド」を活かした地域づくりに向け、どのような取り組みが行われていますか？

- ・ 「歴史的地域プライド」を活かした地域づくりへの取り組みとしては、「祭りやイベント」として取り組んでいる事例が最も多く、全体の約 24.4%を占めている。次いで、「施設整備」、「パンフレット等の作成」に取り組んでいる事例が多い。
- ・ 次いで、「文化資源等の保護」、「公開講座、市民講座」、「地域教育」と続き、歴史的な資源のそのものを継承したり、保護したりする取り組みに加え、「広報」、「学習」、「教育」といったソフト的な取り組みも比較的多く実施されている。
- ・ 歴史的地域プライドのテーマ別に見ると、「先人・教え」についての取り組みとして、顕彰活動（偉人に関連する団体や市町村が参加し、交流を図るサミット）や誕生祭などの「祭りやイベント」が比較的多く実施されているとともに、顕彰記念館など、先人ゆかりの遺品等を保存展示する施設整備も比較的多く実施されている。
- ・ また、「拠点・要衝」や「町並み・史跡」では「町並み・回遊ルートの整備」に取り組む事例が多く、「独自文化」では「公開講座、市民講座」、「伝統芸能・祭り」及び「神話・伝説」では「地域教育（地域の中における通過儀礼や民族行事、礼、語り部等を通じて、地域の年長者から年少者へ伝えられること）」に取り組む事例が他のテーマに比べて多く実施されている。

図 2-1-4：取り組み内容

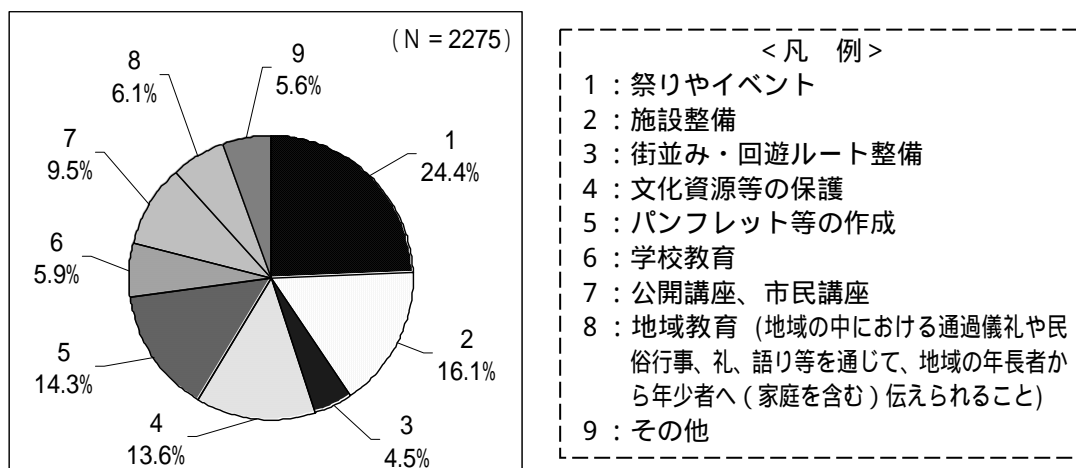
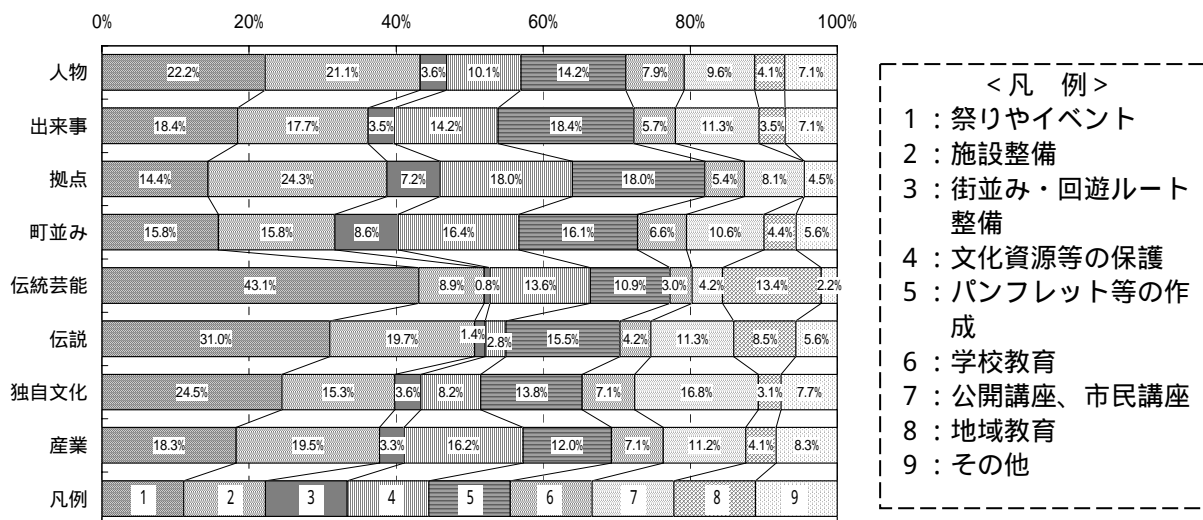


図 2-1-5：歴史的地域プライドのテーマ別の取り組み内容



- ・ これら取り組み内容について、取り組み主体を見ると、行政機関が取り組み主体となっている活動が全体の約 45%を占める。次いで、「町会、自治会、地域住民」が約 15.6%、「NPOや市民活動団体などの非営利団体」が約 12.0%となっており、取り組みの主体が行政機関であるものと、地域住民やNPO等の市民団体である場合とに大きく二分される。
- ・ テーマ別に見ると、ほとんどのテーマで、行政機関が取り組み主体となっているケースが多い。特に、「市町村」による取り組み事例が最も多く、「伝統芸能・祭り」を除く全てのテーマで3割を超える取り組みを行っており、その中でも「拠点・要衝」、「産業・伝統工芸」、「先人・教え」に対する取り組み事例が多くなっている。
- ・ 「伝統芸能・祭り」、「町並み・史跡」については「町会、自治会、地域住民」が、「独自文化」については「NPOや市民活動団体などの非営利団体」が主体となって取り組んでいる事例が多い。

図 2-1-6：取り組み主体

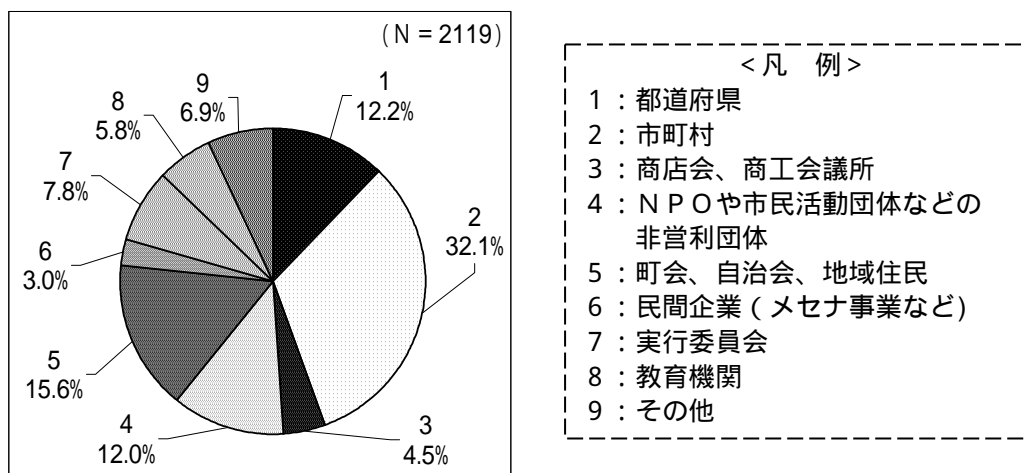
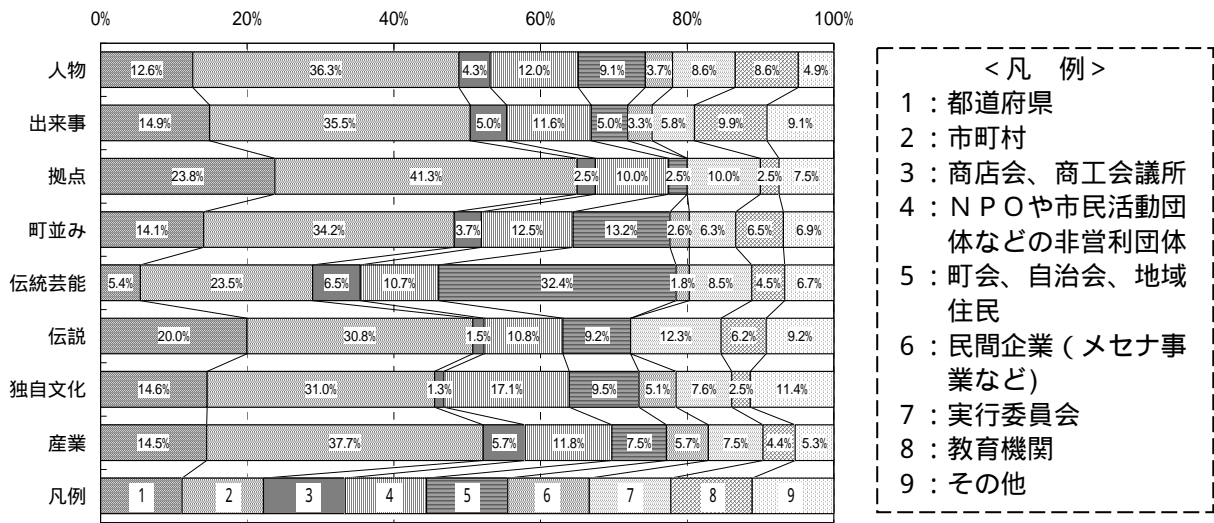
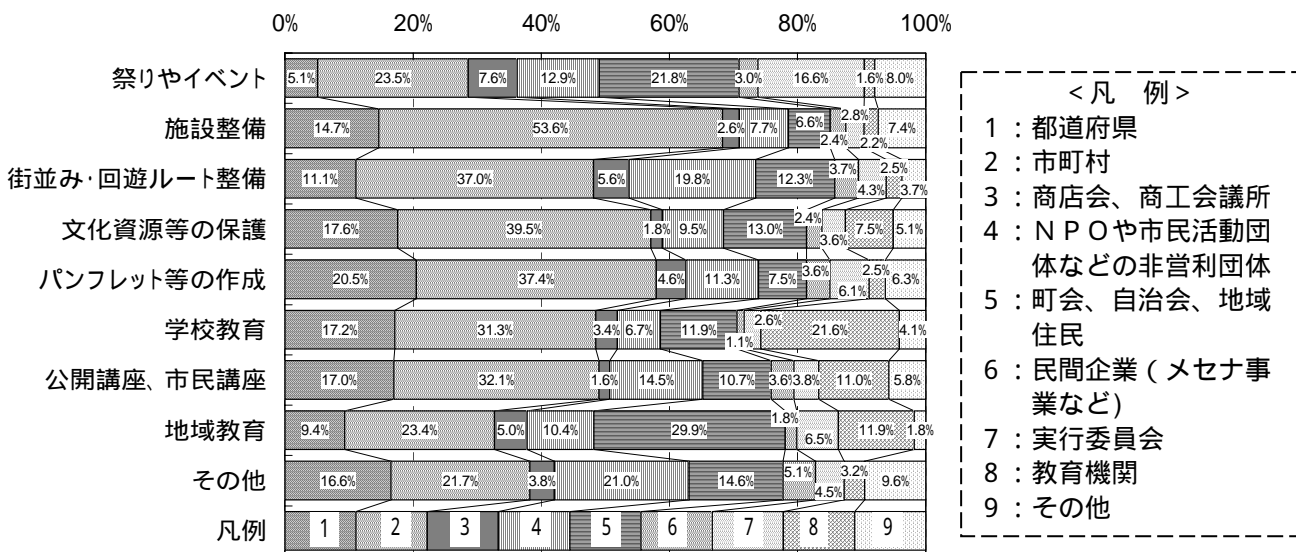


図 2-1-7：歴史的地域プライドのテーマ別の取り組み主体



- ・ 取り組み内容別に取り組み主体をみると、「地域教育」を除く全ての取り組み内容において市町村が主体となっている事例が多い。特に「施設整備」に関してはその過半が市町村主体となっている。都道府県が取り組み主体として割合が多いのは、「パンフレット等の作成」や「文化資源等の保護」、「学校教育」、「公開講座、市民講座」であるが、いずれも約2割程度をなっている。
- ・ 「祭りやイベント」については、「町会、自治会、地域住民」が主体となっているものが最も多く、「実行委員会」形式で取り組まれているものも比較的多い。
- ・ 「町並み・回遊ルート整備」については、「NPOや市民活動団体などの非営利団体」が主体となった取り組みも多く、約2割を占めている。
- ・ 「地域教育」では、市町村よりも「町会、自治会、地域住民」による取り組み事例の方が多くなっている。

図 2-1-8：取り組み内容別の取り組み主体



問3（地域の誇りとして考えられる歴史的な資源を伝えるコンテンツ）

問1-1で挙げた「歴史的地域プライド」を地域住民に伝え広めるために創作されたコンテンツはありますか？

コンテンツとは、「地域プライド」を放送やネットワーク等で提供する動画・音声・テキストなどの情報の内容のことで、本アンケートでは、以下の選択肢に記述するようなホームページや文学・音楽、映画・ビデオ、アニメーションなどのことを指す。

- ・ 「歴史的地域プライド」を地域住民等に伝えるために、これまで“伝承”という形が中心であったが、現在は、より幅広く、より分かりやすく伝えるため、様々なコンテンツが作成され、公開されている。
- ・ コンテンツとして最も多いのが、「書籍」であり、学校教材における副読本や行政機関のホームページなどとして公開されている。次いで、「調査研究」が多く、「拠点・要衝」や「町並み・史跡」のテーマは、史跡等そのものに対する調査研究報告書として公開されている。
- ・ その他、「伝統・祭り」については、踊りや祭りそのものがコンテンツであり、これを実演することはもちろんのこと、記録としてビデオやCD、DVDなどの映像記録や音声記録として残すことが行われている。また、「先人・教え」については、「文学」や「映画・アニメなどの映像」などが創作されているほか、イメージソングをつくるなど、「音楽」として伝える取り組みも比較的多く実施されている。
- ・ 全体的には数は多くないものの、「先人・教え」、「拠点・要衝」、「神話・伝説」及び「出来事・発祥」において、ミュージカルやオペラなどの創作の材料となっている事例も見られる。

図2-1-9：コンテンツ分類

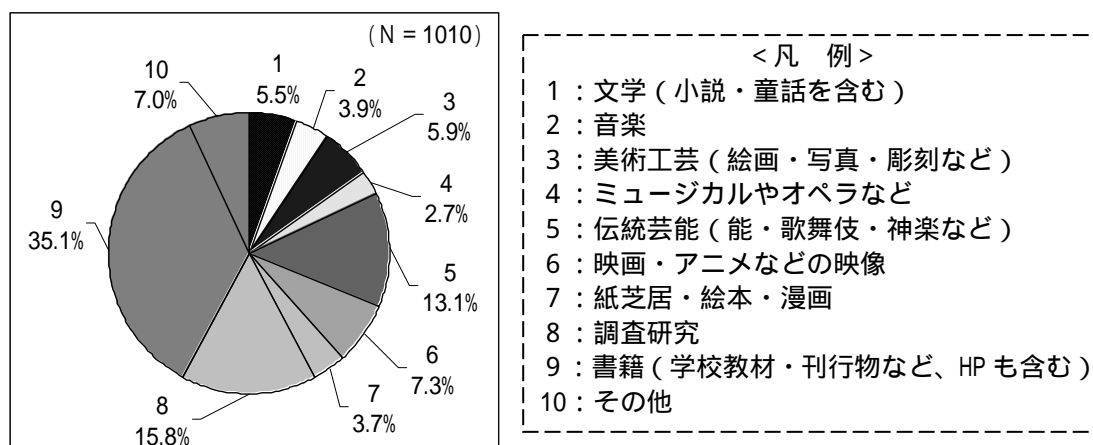
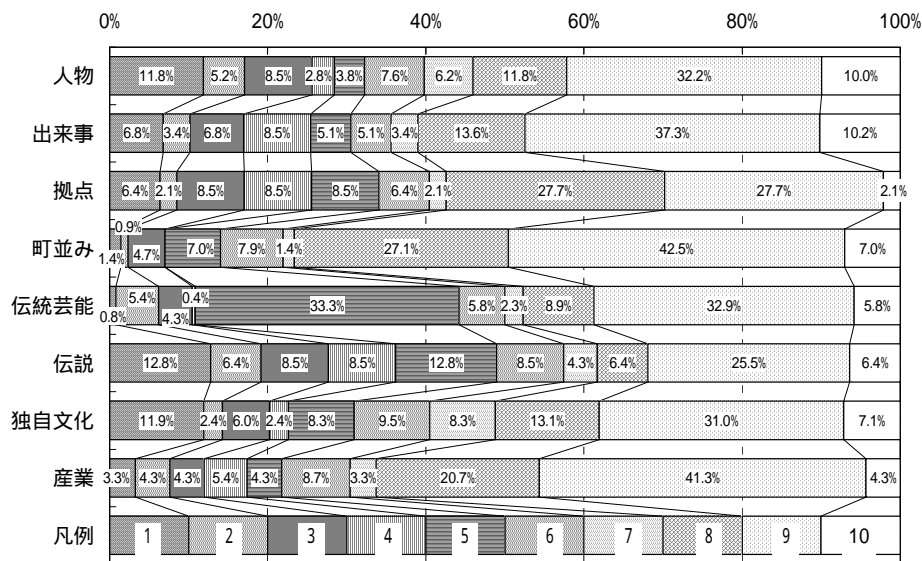


図 2-1-10：歴史的地域プライドのテーマ別のコンテンツ分類



< 凡 例 >

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1：文学（小説・童話を含む） | 2：音楽 |
| 3：美術工芸（絵画・写真・彫刻など） | 4：ミュージカルやオペラなど |
| 5：伝統芸能（能・歌舞伎・神楽など） | 6：映画・アニメなどの映像 |
| 7：紙芝居・絵本・漫画 | 8：調査研究 |
| 9：書籍（学校教材・刊行物など、HPも含む） | 10：その他 |

問4 - 1 (地域の誇りとして考えられる歴史的な資源を活かした地域づくりへの行政支援の実態)

貴部課において、「歴史的地域プライド」を活かした地域づくりへの支援等を行っていますか。

- ・ 都道府県において、地域の誇りとして考えられる「歴史的地域プライド」を活かした地域づくりに対する支援を行っている部署は、全体の約半数である。部署別にみると、「文化財保護・活用」部署での支援割合が最も高く、約77.8%が何らかの行政支援を行っている。次いで、「観光」、「文化振興」、「地域振興」の部署の支援割合が高く、約半数となっている。
- ・ なお、「生涯学習」及び「NPO」の部署では、「歴史的地域プライド」に限定したような取り組みではなく、これらを含めた幅広い取り組みに対する支援を行っていることから、支援割合は他の部署に比べて、低くなっている。

図 2-1-11：行政の支援割合

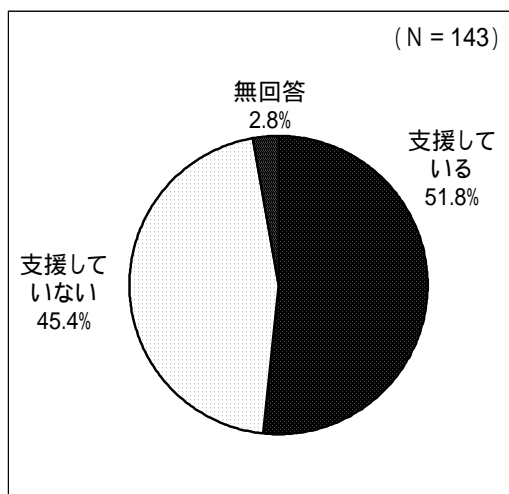
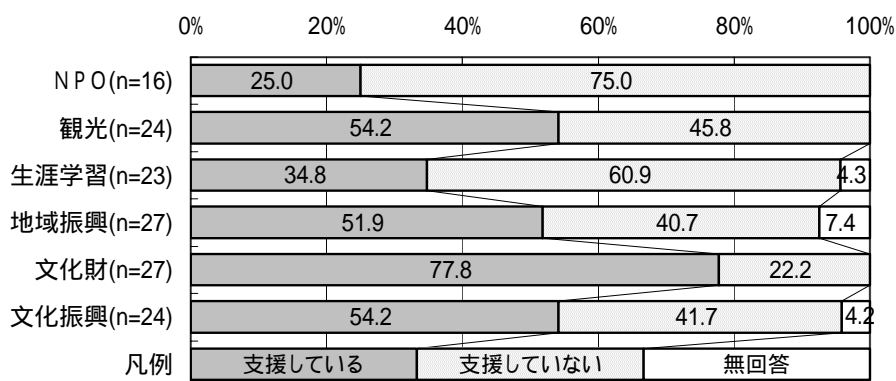


図 2-1-12：担当部署別の支援割合



問4 - 2 (「歴史的地域プライド」に関して情報発信の実態)

「歴史的地域プライド」に関して情報発信を行っていますか。

- ・ 歴史的地域プライドに関する情報発信の現状としては、約 52%が「地域内外への情報発信」を行っており、約 34%が「情報発信は行っていない」と二分される。
- ・ 部署別に見ると、観光部署では、約 8 割が「地域内外への情報発信」を行っており、「地域振興」、「文化財」、「文化振興」では、約半数が「地域内外への情報発信」を行っている。

図 2-1-13：行政の支援割合

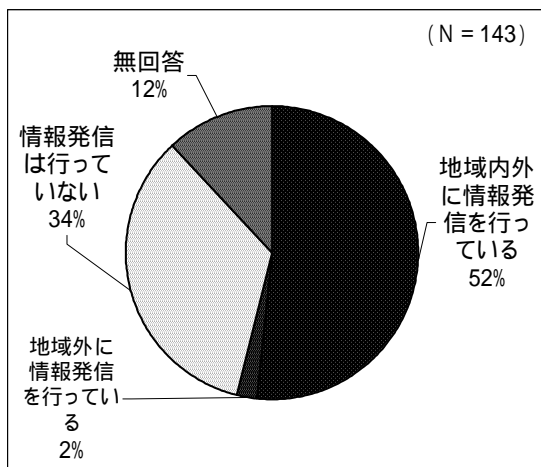
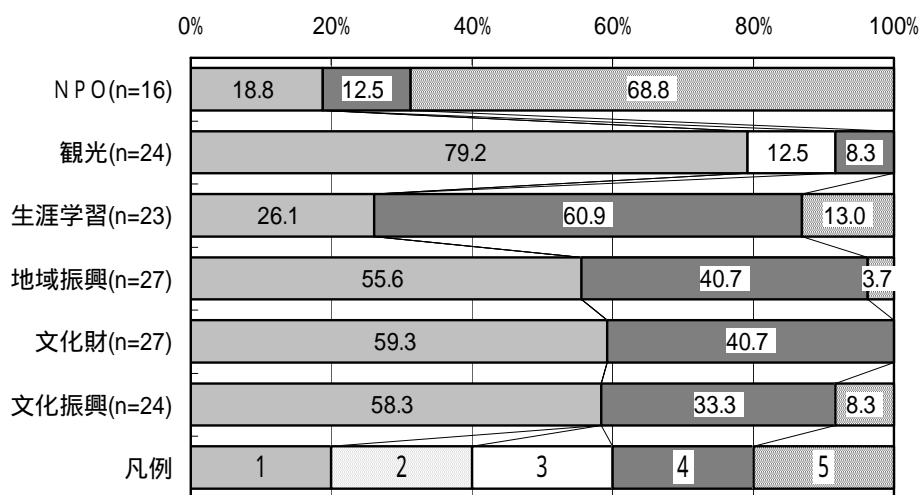


図 2-1-14：担当部署別の支援割合



< 凡 例 >

1：地域内外の住民に対して情報発信を行っている
 2：地域内の住民に対して情報発信を行っている
 3：地域外の住民に対して情報発信を行っている
 4：情報発信は行っていない
 5：無回答

- ・ 情報発信の方法としては、地域内の住民（県内・地域内）への発信と地域外の住民（県外・国外）への発信に、大きな差はなく、いずれも「ホームページによる情報発信」が最も多く、次いで「ポスター展示」、「不定期なパンフレット等」が多い。
- ・ 部署別に見ると、観光部署及び文化財部署などでバラエティに富んだ様々な情報発信を行っている。
- ・ また、観光部署及び文化財部署では、「定期的な広報誌を発行」しているところも多く見られる。

図 2-1-15：担当部署別の情報発信方法（地域内の住民（県内・地域内）への発信）

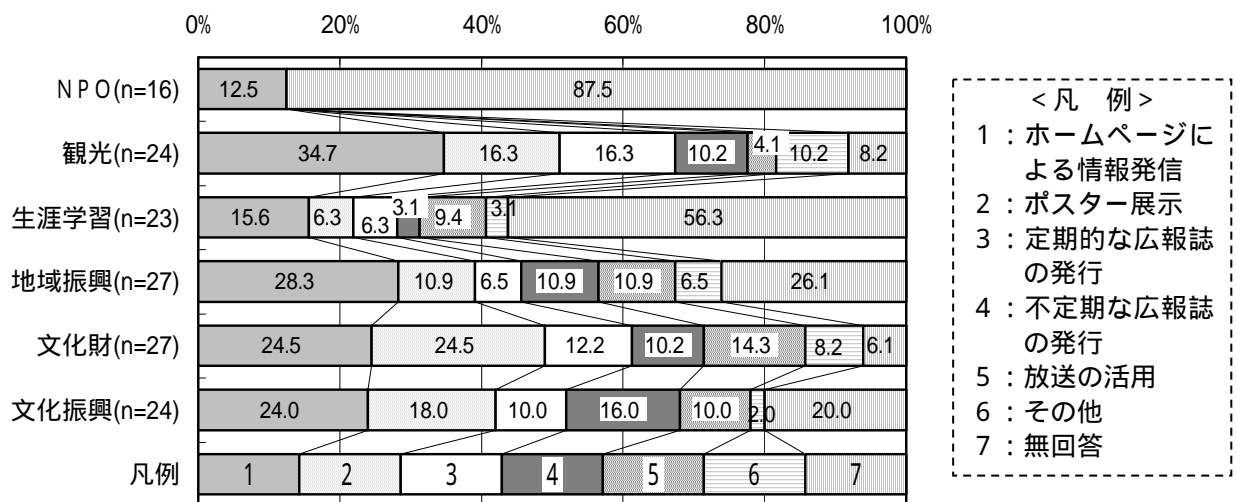
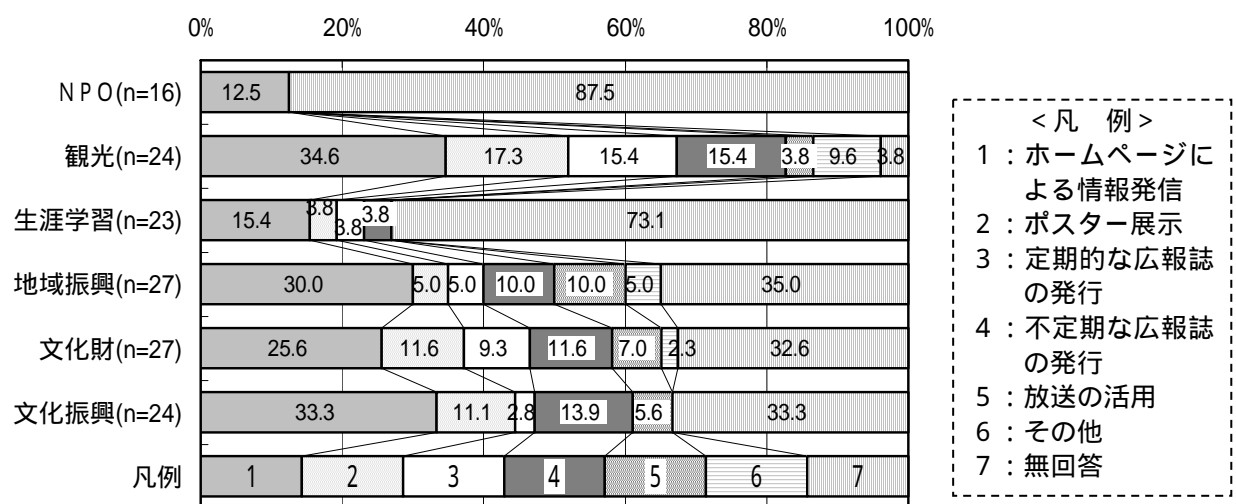


図 2-1-16：担当部署別の情報発信方法（地域外の住民（県外・国外）への発信）



問5（地域の誇りとして考えられる歴史的な資源に関する教育・学習活動）

「歴史的地域プライド」による地域づくりを進めていくためには、その内容を地域住民に広く広め、地域住民がこれらを地域の誇りとして捉え、受け継いでいくことが必要なことであると考えられます。

そこで、これら「歴史的地域プライド」を地域の人々に伝え、受け継いでいくための教育活動もしくは学習活動として、どのようなことが行われていますか？

問2での取り組み内容（学校教育や公開講座等）と重複可

- ・ 地域の誇りとして考えられる歴史的な資源を地域の人々に伝え、受け継いでいくための教育・学習活動の実態をみると、取り組み主体では「都道府県」や「市町村」といった行政機関が最も多く、両者で約半数を占める。次いで「非営利団体」、「教育機関」となっている。
- ・ 教育・学習活動の対象者として、「地域住民（地域の児童・学生を除く）」が最も多く、約半数を占める。次いで、「地域の児童・学生」を対象としたものが多い。
- ・ 取り組み方法では、「研修会、講座形式（シンポジウム等含む）」が最も多く、約半数を占める。次いで、「ワークショップ形式」が多くなっている。

図 2-1-17：取り組み主体

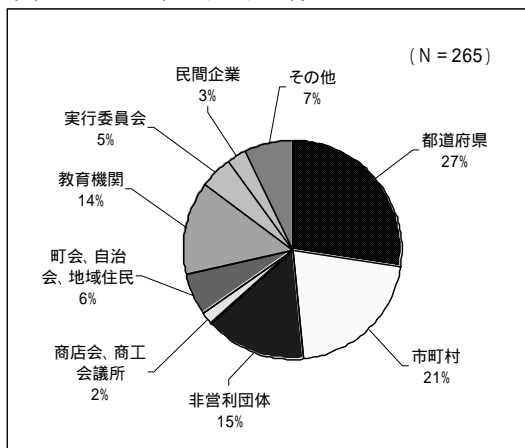


図 2-1-18：対象者

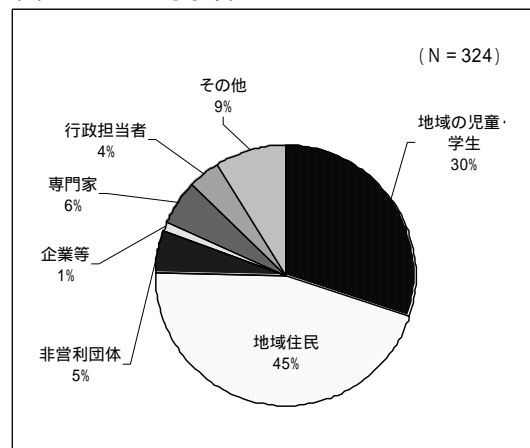
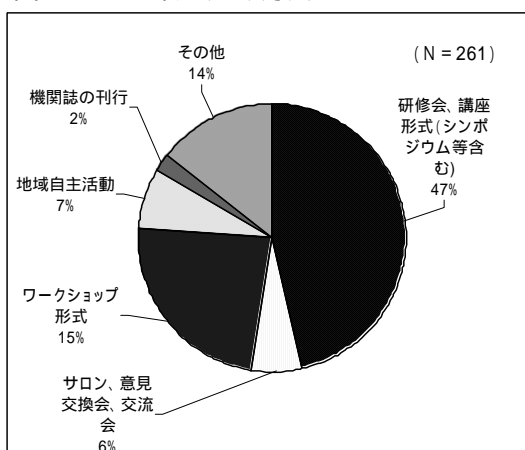


図 2-1-19：取り組み方法



- ・ 取り組み方法では、「研修会、講座形式（シンポジウム等含む）」が最も多く、約半数を占める。次いで、「ワークショップ形式」が多くなっている。
- ・ また、取り組み主体別の取り組み方法を見ると、「NPO等非営利団体」では「サロン、意見交換会、交流会」が、「町会、自治会、地域住民」では「地域自主活動」が他の取り組み主体に比べて極めて高くなっている。一方で、「研修会、講座方式」といった会場費や人員面で負担が大きいことが予想される取り組み方法については、「都道府県」や「市町村」といった行政機関が取り組み主体となっている場合が多く、両者とも取り組み方法の過半を占める。
- ・ 教育・学習活動の対象者として、「地域住民（地域の児童・学生を除く）」が最も多く、約半数を占める。次いで、「地域の児童・学生」を対象としたものが多い。特に、「地域の児童・学生」に対しては、体験型の「ワークショップ形式」を取り組み方法として導入している例が多い。

図 2-1-20：学習・教育活動（取り組み主体別の取り組み方法）

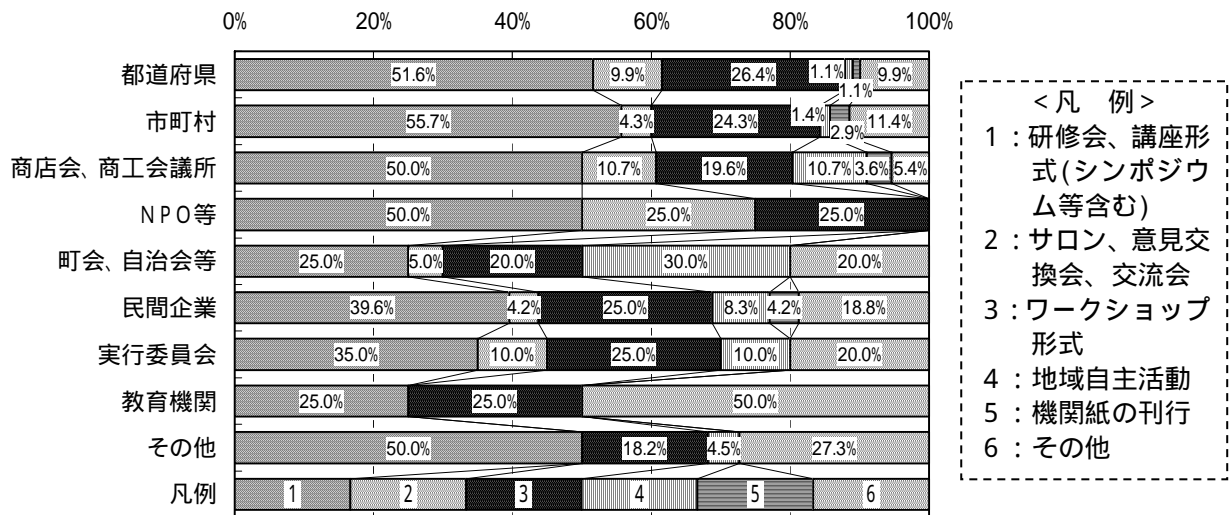
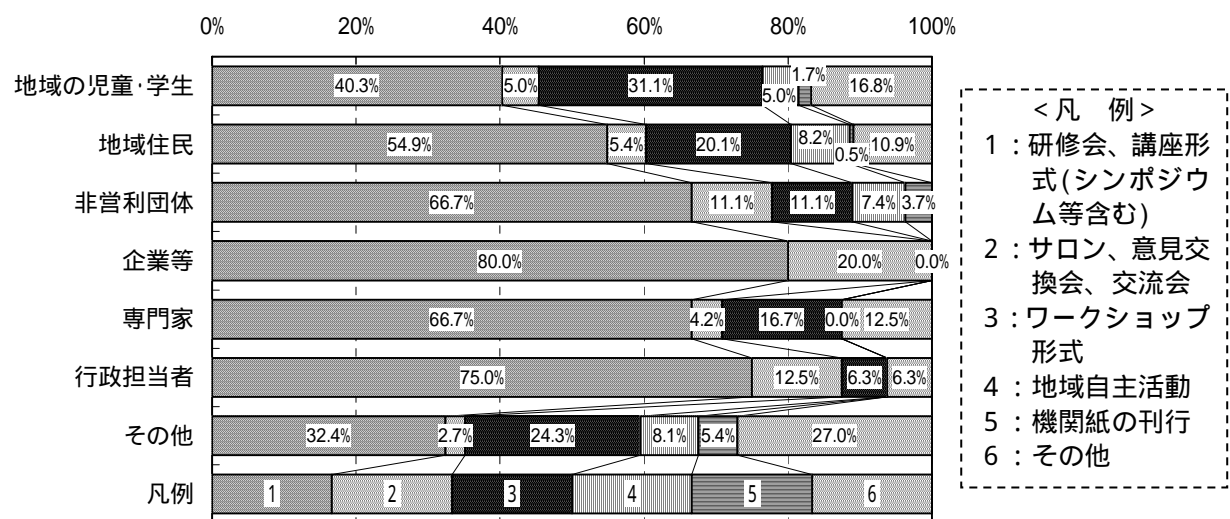


図 2-1-21：学習・教育活動（対象者別の取り組み方法）



児童 = 小学生、学生 = 中学生、高校生、大学生のことを表す。

問6（「地域の誇り」を活かした地域づくりの課題）

地域の歴史・文化資源等を活かした地域づくりを進める上での問題点・課題は何と考えますか。（自由記述）

- ・ 問6における回答は、各担当部署の担当者が、その立場で（観光部署なら観光施策等の立場で）回答されていることが多いため、担当部署別に課題を整理する。

文化振興

地域の歴史・文化に対する地域住民の理解や認識と、これらを地域の誇りとして活かしていくための意識醸成、きっかけづくりが必要だという課題が多く挙げられている。

意識醸成、きっかけづくりの手段として、広報などの情報提供や周知機会の確保・充実を図ることが必要であるが、情報発信の方法などに課題があるという意見が挙げられている。特に、総務省関連事業としての地域文化資産デジタルコンテンツ発信事業 など情報のデジタルベース化による情報発信を図る方法が進められているが、これら地域の誇りや資源を活用しようとする政策立案機関が多岐に渡っているため、政策の連携が必要であるという課題も挙げられている。

その他、“人づくり”、“人材育成”、“人的資源ネットワーク”の必要性に関する意見が多く挙げられているが、これら人づくりや活動を支えていく上での財源不足が課題として挙げられている。

「地域文化資産デジタルコンテンツ発信事業」は、全国各地域の伝統芸術等の映像記録をデジタルコンテンツ化して記録・保存し、国内外へ発信しようとするもので、日本の文化的伝統・日本的価値を見つめ直し、地域間交流・国際交流等の多様な活動への利活用を図り、個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現に資することを目的としている。

NPO

NPO活動や市民社会活動の推進という視点から、NPOやボランティアを含む地域住民の主体的で、かつ継続的な活動が求められる。

また、これら地域住民と行政との協働と役割分担が歴史的な地域プライドを活かした地域づくりの課題として挙げられる。

生涯学習

「文化振興」担当部署から挙げられた課題と同様に、地域の歴史・文化に対する地域住民の理解や認識が必要であると意見が多い。その理由として、少子高齢化や家庭や地域の教育力低下、産業技術の高度化から地域コミュニティの連帯感が希薄になり、異世代間交流の不足などから、大人から若い世代へ伝承する機会の減少が要因であると挙げられている。

そのため、自ら住む地域に存在する歴史・文化の良さに気付くための学習機会の提供や広報活動などを含めた情報発信機会を増やすことが重要であるという意見が多い。

また、これら歴史・文化の継承の担い手となる人材育成と、地域づくりのリーダーや伝統文化を指導できる人といった歴史・文化の伝承する側、双方の人材育成が必要であり、これら人材のネットワーク化があわせて求められている。

文化財

地域の資産となる歴史・文化資源そのものを保護していく、または継承していくことが必要であるという意見が多いが、保護に関しては、補修費などの財政上の問題、継承に関しては、伝承者や後継者不足が課題として挙げられている。

また、文化財に対する地域住民の関心や理解、協力を得ることが困難となっており、その要因として、価値観や趣味、生活習慣が多様化していること、及び文化財の保護により地域住民の生活や行為、開発等に制限がかかることが多いことが挙げられる。

文化財に関しては、観光等と結びついて、地域活性につなげることが期待されるが、観光化により、その資源そのものの本質が喪失する恐れを懸念する意見も挙げられている。

観光

観光客、観光事業者、地域住民、行政といった立場が異なるもの同士の連携が必要であるが、それぞれの価値観や考え方の違いから連携を図ることが難しいことが課題として挙げられている。

地域の歴史・文化資源を守り育てていくことが必要であるが、地域住民個人をとっても価値観が多様化しており、あわせて人口減少や少子高齢化、過疎化からこれら資源を守り育てる環境が弱体化している。また、守り育てるためには、負担が生ずるが、地域住民だけではその負担が大きい。

その他、市町村合併による行政の枠組みの変化が、独自の地域文化を喪失する恐れを懸念する意見も挙げられている。

地域振興

地域振興部署からは、～ で挙げられた課題を総括する内容が挙げられており、“人”、“もの”、“情報”、“金”の4つの視点で整理できる。

まず、“人”という視点では、地域づくりの中心となって推進していくリーダーが不足していることや、リーダーがいる場合でも、地域づくりを企画し、実践できる機動力を持った後継者の不在などが課題として挙げられる。また、歴史的地域プライドによる地域づくりへの地域住民の自主的で積極的な参画が望まれるが、特定の住民に依存し、広く一般市民を巻き込めていないことや、担い手や若者の流出により地域の誇りを伝承していくのが困難な状況が見られる。

次に、“もの”という視点では、どのような資源があるのかについて、行政が把握できていないという現状があること、及び文化的価値のある“もの”は個人資産であるものも多く、これらを地域づくりに活かそうとした場合に、その個人資産である“家屋等”の権利に制限を与えないとできないケースが多く、個人の生活上の利便性を犠牲にしたり、余計な経費がかかるなどから、地域住民の理解を得ることが難しいことが課題として挙げられる。

“情報”については、生活環境の変化等から、地域の歴史や誇りを伝える場や知る機会が減少していることと、何を地域内外に発信していくべきかが課題として挙げられている。

“金”については、資源を維持・管理、活用整備していく際の財源確保、及び地域住民の活動を推進していくための資金確保が課題として挙げられている。

以下に、上記課題を総括する。

担当部署	課題
文化振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の理解と気運づくりが重要。そのための情報提供や周知機会の確保や支援が必要。 ・ 財源の確保。
NPO	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民（NPOやボランティア含む）の自主的な活動。 ・ 地域住民（NPOやボランティア含む）と行政との協働と役割分担。
生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民が自らの地域の歴史・文化への理解を深めることが必要。そのためには学習機会・情報発信機会等を増やすことが重要。 ・ 人材育成や組織の継続の困難性。 ・ 財源の確保。
文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財に対する理解を得るのが困難...価値観の多様化、開発との整合。 ・ 後継者の不足、リーダーとなる人材の不足。 ・ 本物を地域に残すことの必要性。 ・ 財政上の課題...文化財保護。
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客・行政・事業者・住民の価値観の違い。これら立場の異なるもの同士の連携の必要性。 ・ 人口減少、少子高齢化に伴う地域の資源を守り育てる環境の弱体化。 ・ 行政の枠組みの変化による独自の地域文化が喪失するおそれ。
地域振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーや後継者の不足。 ・ 知る、触れる機会の減少。 ・ 地域の資源（遺産）に対する理解度。 ・ 他の地域資源との組み合わせによる地域振興や他部署との連携（観光分野など）。 ・ 価値観の差異。 ・ 財源の確保。

問7（「地域の誇り」を活かした地域づくりへの今後の取り組み）

地域の歴史・文化資源等を活かした地域づくりに関して、今後実現したい新たな取り組みは何ですか。その実現に向けて障壁となろうと考えられることは何ですか。（自由記述）

- ・ 地域の歴史・文化、誇りについて、学び、触れることができる施策展開が各都道府県で実施、もしくは予定されている。これら施策の特徴として、行政が主体的に行うのではなく、あくまでも地域住民が主体的に行う活動が中心となっている。

（例）

一郷一学運動（群馬県）

芸術、学問、科学、技能など、地域にある有形無形の文化的な資源、豊かな精神的土壌を再発見して、また様々な角度から地域ぐるみで研究・学習して個性ある地域を作っていこうとする運動で、地域住民が主体となったソフト事業への補助金の交付を実施。

生涯学習放送番組『神奈川再発見』（神奈川県）

県内の歴史・文化資源等を有する各地域が主体となって制作。

伝えたい北海道物語（北海道）【実施予定】

地域の言い伝え、民話等を地域のお年寄りから住民が聞き取り、住民自ら絵本を作成することにより地域再発見や地域アイデンティティの醸成を図る。

その他、地域のことを学ぶことができる機会や地域づくりへの人材を育成する機関の創設（いわて地元学、山形ふるさと塾、長崎学、ふるさと教育など）

- ・ 都道府県として「地域の誇り」を活かした地域づくりのために今後取り組むこととして、地域の資源や誇りとなるものの発掘、再発見とこれらの情報発信を取り組みたいという意見が多い。
- ・ また、都道府県をはじめ、財政状況が厳しい中、どのようなことへの支援を行うかについては、上記の情報発信に加え、人材育成、地域活動の継続へ向けた軌道化といった、地域住民による自主的な地域づくりを進める上での助走期間（活動開始当初時）への支援実施を行うべきであるという意見が挙げられている。
- ・ また、地域の誇りとなりうる歴史・文化に対する地域住民の理解が求められる中、これら歴史・文化を対外的に評価することで、その理解を得ようという取り組みが考えられている。具体的には、世界遺産登録に向けた取り組みや新たな文化指定カテゴリー（文化的景観、各種登録文化財等）への指定などが挙げられる。
- ・ これら取り組みを実践する上での障害となることとして、「行政（行政内部も含む）、事業者、住民の共通認識と理解」及び「予算の確保」が挙げられている。

2 - 2 歴史的地域プライドによる地域づくりの全国事例調査

都道府県アンケート調査から寄せられた歴史的地域プライド及び文献やインターネットにおける情報から、全国で歴史的地域プライドによる地域づくりを実践している地域を抽出し、電話等でのヒアリング調査等を実施した。

なお、以下に挙げる事例の詳細については、「第3部 地域プライド事例集」で紹介する。

(1) 岐阜県郡上市(旧八幡町)

【宝暦の義民・凌霜(りょうそう)の精神を受け継ぐ郡上踊りの継承】

- ・ 宝暦期の重税に対する大一揆で、幕府に命を賭けて上訴した義民を誇りとしている。また、維新時に新政府支配下にありながら会津支援のため「凌霜隊」を結成し、派遣している。
- ・ 宝暦の義民は郡上踊りとして受け継がれ、維新の義考は、凌霜の精神として語り継がれている。
- ・ 宝暦一揆の映画、児童向けの漫画「ふるさとをゆく」、劇団による上演、その他多くの社会教育のための本が作られている。
- ・ 凌霜は満州開拓団の精神的支柱となり、また合併新市の教育方針の根幹に、「凌霜の心」として取り上げられ、地域の人づくりに資している。

(2) 福島県会津若松市

【藩校日新館の教えによる会津人づくり】

- ・ 保科正之以降の会津若松の歴史について、小学校・中学校用に副読本を作成し、全校で使用している。
- ・ 日新館を再建し、小学校の校外学習に使ったり、4年生(10歳)の時に「1/2成人式」として、学童を集め、日新館の教えを勉強したりしている。
- ・ 会津出身の偉人を上演する市民団体や「会津偉人たち展」を常設展示、また多くの地域住民による社会教育活動も盛んである。
- ・ 市長自ら中学校に出向き会津の歴史を講和している。また、日新館の教えを「あいづっこ宣言」として策定し、家庭に配り、街角の各所に高札を立てるなど、日新館の教えによる会津人づくりを推進している。

(3) 滋賀県高島市(旧安曇川町)

【近江聖人中江藤樹の教え「致良知(ちりょうち)」によるまちづくり】

- ・ 江戸時代初期の安曇川出身の儒学者で、日本における陽明学の開祖。数多くの徳行・感化によって、没後も 近江聖人 として敬われ慕われている。
- ・ 「致良知(ちりょうち)」とは「人間は本来誰もが美しい心を備えている」ということを意味し、人や自分の善い面を引き出す生活をする事の大切さ、この「致良知」を村の人々に説き続けた中江藤樹及び藤樹の教えを地域の誇りとして、現代にまで耐えることなく受

け継がれてきている。

- ・ 小学校3～6年生を対象とした副読本があり、それ以下の児童向けに藤樹カルタや紙芝居を作成している。
- ・ 藤樹書院や中江藤樹記念館で、フォーラムやシンポジウム、誕生日に「立志祭」を行い、社会教育が盛んである。また、中江藤樹というビデオを作成し、社会教育にあてている。
- ・ 合併新市も「藤樹の教えによるまちづくり」を標榜している。

(4) 栃木県二宮町他

【二宮尊徳の報徳精神と報徳仕法による地域づくり】

- ・ 二宮尊徳については、貧乏ゆえに懸命に働き、親に孝行したという二宮金次郎像に見られる幼少期の姿が有名である。この二宮尊徳ゆかりの町としては、誕生地である神奈川県小田原市からその後移り住んだ栃木県二宮町に至るまで様々な市町村がある。
- ・ 二宮尊徳については、この幼少期の勤勉の姿よりも、江戸時代に「至誠」「勤勉」「分度」「推譲」という4つの精神（報徳精神といわれる）をもとに、財政再建や農村復興に大きな成果を挙げた取り組み（報徳仕法といわれる）によって現在の地域が成り立っていることを誇りにしている地域が多く存在する。
- ・ これら地域では、報徳仕法をまちづくりに活かすために、資料館やゆかりの史跡の整備・保存のみでなく、生涯学習やまちづくり講座における「報徳仕法」に対する学習機会の提供をはじめ、報徳に関する理解を深めるために、劇や太鼓、オペラの創作など、様々な取り組みを行っている。
- ・ また、二宮尊徳にゆかりの深い市町村が持ち回りで「報徳サミット」を開催している。本サミットでは、報徳の教えを通して地方分権社会における住民と行政とのあり方の研究や、各自治体における「今日まで報徳思想・司法を活かしてどのようなまちづくりを進めてきたのか」「尊徳の教えや仕法をこれらかのひとつづくり・まちづくりにどう生かすか」ということを主題とする意見交換、広域的な地域間の連携・交流が行われている。

(5) 宮城県加美町

【「火伏せの虎舞」と防火啓発による地域づくり】

- ・ 加美町中新田地区（旧中新田町）は、西方部に高い山がない地形により、早春から初夏にかけて西北の強風が吹き荒れ、たびたび大火事を引き起こしてきた。
- ・ 中新田地区に伝わる伝統行事「火伏せの虎舞」の起源については、約650年前に中新田の城主斯波家兼公が住民を火難から守るため、「雲は龍に従い、風は虎に従う」の故事にならって火伏せを祈願する祭礼を行ったことが起源とされている。
- ・ また、後には領主がこの祭礼行事を経済対策として活用し、城下の繁栄策として火消組に山車と虎舞を練り歩かせることで、商売繁盛と風化火難防止の意識啓発を行った。
- ・ 明治35年に町は再度大火に見舞われ、城下473戸のうち6割が消失するという甚大な被害を受け、この大火によって祭礼道具のほとんどは焼失し、虎舞の行事も久しく中止されることとなったが、祭りに対する町民の思い入れは強く、昭和2年に復活した。

- ・ 火消組は戦時中においては警防団となり、現在では消防団と称されている。その後町村合併により広域での消防組織の再編はあったが、中新田消防団独特の「火伏せの虎舞」は防火意識啓発のシンボルとなっており、明治 35 年の大火以来、大きな火事を出していないことは同消防団の誇りとなっている。
- ・ 現在では、毎年 4 月 29 日に商店街を会場として行われており、お囃子は地元消防団が、虎舞は男子中学生が担うなど、幅広い世代を巻き込んだ行事となっている。地元からはもちろんのこと、各地から多くの観光客が訪れ、町は大いに賑わいを見せる。
- ・ 各家庭を訪れる虎舞の虎に「頭をかぶづいて（かみついて）もらうと、頭が良くなる」との言い伝えがあり、小さな子供たちは怖くて泣きながらも虎の口に頭をくわえてもらう。そして、自分の親、兄弟、先輩たちの姿にあこがれを持って見ながら、小学校高学年になると虎舞が踊れることに胸をはずませ、練習に励む。このように、地域の子供たちは幼い頃から虎舞に親しみ、育っていく。
- ・ また、虎舞に親しむ機会は祭りのときだけにとどまらず、小中学校の授業に取り入れられたり、保育所や中学生の子供たちが虎の面作りをして各種行事の際に披露したりしている。

(6) 鹿児島県南さつま市 (旧加世田市)

【「いろは歌」による地域づくり】

- ・ 戦国武将島津忠良 (日新公) は、すさんだ時代に人としての生き方を「いろは歌」として唱えた。以来 460 年間に渡り、地域住民に歌い継がれ、地域住民の確かな精神的支柱となっている。また、更に他地域への広めるために「薩摩琵琶」「妙音十二楽」を作り奨励し、いろは歌に基づく多くの琵琶歌がつくられた。
- ・ 教育委員会においても「いろは歌を活用した心の教育」を大方針とし、いろは歌カルタとり大会、歴史講座、講演会、いろは歌プロジェクト、妙音十二楽、薩摩琵琶弾奏会等広く社会教育活動を展開している。
- ・ 日新公を祭る竹田神社では N P O がいろは歌灯籠フェスタ、また、県民俗文化財に指定されている土 (さむらい) 踊り等を伝え、合併新市であっても平成 14 年をいろは歌元年とし、その精神による地域づくりを標榜している。

(7) 和歌山県広川町

【先人の精神を受け継ぐ津波防災まちづくりの実践】

- ・ 安政期の 1857 年、高台にあった自宅から大津波の予兆を察した浜口梧陵は、自宅に火をつけ、消火のために高台に村民を集め、襲ってきた大津波から村民の命を救った。また、津波が堤防を乗り越えてきたので、事業家 (カマサ醤油の創業者) でもあった梧陵は、私財を投じて大規模な津波防災の堤防を作った。その後、梧陵は「耐久舎」をつくり、郷土を守り育てる人材育成にも努めた。
- ・ 絵本「稲むらの火」「浜口梧陵小伝」等で学校教育に取り入れている。地元「耐久大学」と称して社会教育として梧陵の人物像を学んでいる。
- ・ かつての梧陵の敷地の一部に津波防災教育センターを作り、梧陵の教えと津波教育を展開

しており、梧陵を顕彰し、その教えを町民に受け継ぐべく行政展開がなされている。

(8) 宮城県大崎市 (旧鹿島台町)

【地域を災害から救った偉人を郷土の誇りとして受け継ぐ】

- ・ 常襲的な鴨田川の水害から郷土を守るため、村人の強い願いのもとに村長となった鎌田三之助は、品井沼の干拓と堤防、明治排水路を計画した。費用がかかりすぎたことから度々なる反対に会うも自らの私財を全て投じて防災事業を成し遂げた。
- ・ この村長にあること 38 年間、無給で全精力を傾け、明治天皇の励ましの言葉もいただき、事業を成功に導いた。
- ・ 現在も地域を水害から守る精神は受け継がれ、開拓・防災事業の背骨となっている。
- ・ 小学 4 年生の副読本「私たちの宮城県」に、“私たちの郷土を開いた偉人”として全県の誇りとされている。また、映画「鎌田三之助ものがたり」を町で編纂し、鎌田三之助展示室で社会教育教材としている。
- ・ わらじ村長の仇名から、町では「わらじ祭」を毎年開催し、DONDONかじまだい運営委員会などで鎌田精神の振興に取り組んでいる。

(9) 福岡県うきは市

【五庄屋伝説とその遺構を守り育てる地域づくり】

- ・ うきは市は、国の指定史跡となっている古墳や文化財、無形民俗芸能など様々な歴史・文化資源が残っている一方で、この地は広大な水田地帯を潤している地域でもある。
- ・ この肥沃な大地が昔からこの地にあったわけではなく、江戸時代の初期に 5 人の庄屋と農民の協力による灌漑事業で生み出されたものであり、先人達の苦労や努力を現在まで顕彰し、地域の誇りとして受け継いでいくために、5 人の庄屋を祭る神社を建て、小学校の副読本で地域の子どもたちに教え、その灌漑事業によりつくられた堰を代々に渡って護っている。
- ・ また、歴史的な地域プライドを地域づくりに活かすために、同市では、先代達の苦労や努力を伝えるために副読本を作成し、学校教育の中で地域のプライドを学んでいる。
- ・ また、この話は、県の教科書における副読本にも掲載され、灌漑開拓の事例として小学生をはじめ多くの見学者が訪れており、地域への経済的な効果はさておき、このような地域のプライドを守り育てていく活動、地域づくりが、観光などを含めた地域振興にも寄与できている。

2 - 3 歴史的地域プライドによる地域づくりの海外事例調査

地域の歴史や文化を大切にし、その地域固有の精神を守り受け継いでいく取り組みについては、国内だけでなく、海外でも積極的に実践されている。

本節では、海外における歴史的な地域プライドによる地域づくりについて、文献やインターネットから情報を収集し、整理を行った。

(1) オーストリア共和国、ザルツブルグ

【モーツァルトの音楽や精神が市民の生活と密接に係わり合いをもつまち - 先人・教え】

- ・ オーストリアの西部に位置するザルツブルグは、町の名前の由来が「塩の城」と称すように、紀元前 1000 年の昔から岩塩の交易で栄えてきた歴史的に由緒ある町である。古代ローマ時代の殖民都市として栄え、7世紀にはカトリックの大司教座がおかれ、カトリックの都としても栄えてきた。山頂にそびえたつホーエンザルツブルグ城をはじめ、美しい街並みの保存により、まちの旧市街地は 1996 年に世界文化遺産に登録された。
- ・ ザルツブルグというと、「モーツァルト誕生の町」、そして映画「サウンド・オブ・ミュージック」の舞台として、音楽の町として有名であり、6月から9月まで行われる「ザルツブルグ音楽祭」をはじめ、オーストリア国立ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽大学などに世界中から多くの音楽家たちが集まってくる。
- ・ また、市民は、モーツァルトゆかりの地として、モーツァルトを称えるのみではなく、市民自らも音楽を嗜んでいる。モーツァルト自身が、世界中に多くの人々に愛されている人物であるが、市内には 12 団体もの吹奏楽団があり、彼らは市内だけでなく、国内、そして日本を始め海外での多数演奏公演を実施しており、地域交流、国際交流の一翼を担っている。また、町の至るところで、毎晩のようにモーツァルトの曲を中心にしたコンサートが行われるなど、市民の生活や文化とモーツァルトとは切り離して考えることができないものとなっている。
- ・ ザルツブルグは、モーツァルトと音楽という地域が誇りとするものが、現在においても、地域の人々の生活・文化と密接に関わっていることが地域プライドとなっているといえる。

(2) チェコ共和国、プラハ

【チェコ人のためのチェコ人による国民劇場を守るまち - 出来事・発祥】

- ・ チェコはかつて、オーストリア帝国の支配下であり、チェコ人はオーストリア人（ドイツ民族）に支配されていた。その当時、プラハの全ての劇場ではドイツ語による上演が行われていたが、19世紀になると各国で民族意識が高まり、チェコでもオーストリア人の支配に対するチェコ人の民族運動がはじまった。
- ・ このような情勢の中、チェコ語による演劇やオペラが上演できる劇場をつくらうとする動きが起こった。1849年に国民劇場建設委員会が発足し、国民からの寄付により、1868年から建設が始まり、1881年に完成した。しかし、完成まもなく、突然の火災で劇場が焼け落ちてしまう。しかし、人々の誇りは失われることなく、直ちに寄付をはじめ、再建に乗り

出す。再建に必要な費用はわずか2ヶ月で集まったほど、この劇場に対するチェコ人の思いが込められている。こうして、もう一度「国民劇場」の建設が始まり、国民総出の寄付運動によって建てられたといういきさつから、舞台の真上には「国民が己のために」という金の文字が大きく刻まれる。この劇場はその後、「黄金の礼拝堂」という別名も得て、未永くプラハの人々の心の支えなって現代に至っている。

- ・ この国民劇場の建造物としての文化的価値もさることながら、幾度の危機を乗り越え、現在に至るまで国民自らが守り育てていることが、地域の誇りとして受けつがれてきている大きな要因であるといえる。

(3) ペルー共和国、クスコ旧市街地

【「世界のへそ」として、独自文化を守るまち - 拠点・要衝】

- ・ 約500年前ペルーで栄えたインカ帝国の首都クスコ。「クスコ」とはインカの言葉(ケチュア語)で「へそ」を意味しており、古代インカ人は自分たちの都を宇宙の中心と考えていた。
- ・ やがてクスコはスペイン人による征服を受けるが、現代まで古代インカの名残が残っている。その一つがインカ時代から都市の中心地であったアルマス広場である。インカを征服したスペイン人もインカ帝国と同様にこの広場を中心としたまちづくりを行っている。同様に、インカから続く儀式として、太陽の踊り「インティラミ」が南米3大祭として毎年6月23日に開催されている。
- ・ 近年ではスペイン語だった通りの名前がケチュア語に変更されるなど、ペルー人は自分の文化に高い誇りを持っている。

(4) イタリア共和国、ボローニャ市

【「保存は革命」を軸に、古い都心の保存・再生と文化的都市をアイデンティティとした地域づくり - 町並み・史跡】

- ・ ボローニャは人口約37万人のイタリアの都市で、エミリア・ロマーニャ州の行政と経済の中心地である。また、エミリア・ロマーニャ州は高度に専門化された中小企業が多く集積し、欧州で最も生産活動の盛んな州の一つでもある。また、ボローニャには、ヨーロッパ最古の大学であるボローニャ大学法学部があるなど、大学都市として著名である町である。
- ・ 産業とともにボローニャは、歴史的市街地の保存と再生の取り組みの先駆としても世界的に有名であり、公的資金の投資をニュータウン建設から古都心の老朽化住宅への修復再生へ移行するなど、都市ストックを活用していく取り組みをいち早く実践したことが現在の「欧州文化都市」としてのまちのステータスにつながっている。
- ・ また、2000年には、「ボローニャ2000」と題する文化事業を実践し、延べ2000時間におよぶ300のコンサート、230の展覧会、260のコンベンション等を、これら都市ストックを改修することで実践した。この「ボローニャ2000」の取り組みは、行政、商工会議所、大学そして市民が芸術家や芸術団体と協力して成功させ、公式報告書によると、観光客は23%増加し、GNPで2000億リラ(約140億円)、雇用で1600人の増加があったとされる。

- ・ 町並み等に関する歴史的なストックが既にあったとしても、「保存は革命」であるという発想の転換を思い切って実践できたことが、町の「歴史的な町並みと文化都市」イメージの定着とこれを誇りとする市民による様々な活動につながっていることがいえる。

(5) スペイン、アンダルシア州セビリア市

【春祭り(La Feria de Abril)が地域の誇りの発信の場となる - 伝統芸能・祭り】

- ・ “闘牛”や“フランメンコ”は、セビリアを州都とするこの地方が発祥といわれているが、そのスペイン的なイメージを代表する祭りとして「春祭り」がある。
- ・ 「春祭り」の歴史は 150 年余り続いている。もともと、家畜や農機具の見本市であったのが、近郊の村からこの市のために集まった商人のために、キオスク、食べ物や飲み物の屋台、小間物売り、銀行商などの露店ができ、そして宿泊とビジネスの場としてテント小屋ができた。こうして数日間宿泊しながら商談し、仕事の後に仲間内で打ち上げをしたりするうちに、「飲んで、歌って、踊って」というお祭り騒ぎが自然発生し、祭りがメインとなり、春の恒例行事となった。
- ・ 欧州で見られる教会を中心とした厳かな儀式としての祭礼と異なり、庶民の祭りであり、また、本来の祭りの意味を変えて、自分たちが一番楽しむことができる形として、そして、自分達の文化を発信できる場として祭りが存在している。

(6) ネパール王国、カトマンドゥー

【ネワール族の集落「ヒンドゥの伝説と教え」をまちづくりとして受け継ぐ - 神話・伝説】

- ・ ネワール族はネパールのカトマンドゥー平野一帯に居住する民族で、ネパールでは6番目に多い民族であるといわれ、ヒンドゥの伝説をまちづくりとしても守り受け継いでいる。
- ・ ヒンドゥの伝説によると、現在のカトマンズの谷は巨大な湖であり、そこにヴィシュヌ神が現れ、円盤で山を切り開き、湖水を流し去ったという。現在でもヴィシュヌ神はカトマンズ谷の守護神として崇められ、谷に至る4本の道の入り口にはこれを祀る祠がある。まちのレイアウトは16世紀に大規模な改修を受けた際に、従来の交易路ではなく格子状の道路パターンに造り替えられている。
- ・ このように、地域の伝説と教えが、地域の町づくりに大きな影響を与えている例として挙げることができる。

(7) インドネシア、バリ島ウブド地区

【「芸術の街」としての誇りを受け継ぐ - 独自文化】

- ・ バリ島の山間部に位置するウブドは、芸術の村として広く知られている。バリ絵画をはじめ、ガムランにのせて演じられる幻想的なバリ舞踊は伝統的なバリ文化を今に伝えるものとして観光客に絶大な人気があるだけでなく、他所から芸術家を呼びこむ要因になっている。レストランやホテルの多くのは、バリ風の伝統的な造りや装飾が施されており、恵まれた自然環境の中で旅の疲れを癒すことも出来るので、バリ島観光の拠点とする人も多い。
- ・ このまちが「芸術の村」といわれるようになったのは、ウブドの王家が、バリ島の芸術と

絵画を愛し、それを外国に向けたことで世界的に知られることになった。このため、ウブドは芸術の中心地として数々の外国人芸術家、ボネットやスピース、ブランコ、スネルなど多くの外国人画家を魅了した。現在のウブドもその頃とあまり変わらず、ウブドで外国人作家がウブドに何ヶ月も滞在したり、多くの美術館、ネカ美術館やルダナ美術館などでは世界的にも有名なバリや外国人画家の作品を数々発見したりすることが出来る。

- ・ 独自の文化を外へ発信したことが、現在の「芸術の村」としてのイメージを定着し、これがもとに、観光などの産業に結びついた例として挙げる事ができる。

(8) アメリカ合衆国、ニューメキシコ州サンタフェ

【アメリカ最古のまちとして、インディアン文化を守るまち - 独自文化】

- ・ ニューメキシコ州は、アメリカ 50 の州のうち、47 番目と州としての独立は遅いが、インディアンの手により、早くから文化的にも経済的にも発達した土地であった。1600 年代、北東部でようやく植民地ができ始めた時代よりもさらに 100 年も前に、メキシコから進んできたスペイン人によって、インディアンの都市が発見されている。
- ・ ニューメキシコ州の代表的なまちとして、サンタフェというまちを挙げる事ができる。このまちはアメリカ大陸の開拓者によって作られたまちではなく、先住インディアンと、メキシコからやってきたスペイン人達によって、確固たる文化が築かれていたまちである。このことから、地域の住民は、アメリカ最古のまちとして、また、合衆国内の他の都市とは違う独特なまちであることを誇りとしている。
- ・ 特に、インディアンの伝統を大切にしており、「アドベ」というレンガを使った集合住宅で生活を営んでいる。インディアンが祭りごとを行うための「キバ」という集会場のデザインを州議事堂の設計に取りいれたり、インディアン文化を伝える建築様式を取り入れたものにしなければならないよう法律で定めたりしている。また、教育面などで、自分達の言語や文化を重要視する教育を実施するため、インディアンの家庭教育を道徳教材に用いた書籍等も作成されている。
- ・ このように、地域独自の文化を守り育てようとする思いを誇りとしていることが挙げられる一方で、現在のアメリカの文化・思想とインディアンの文化・思想との乖離から、特に合衆国全土からみるとマイノリティであるインディアンに対する風当たりが強まってきている。その理由の一つとして、英語と地域の言葉のバイリンガル教育などが 1990 年代を中心に行われていたが、バイリンガル教育にともなうコスト高などからその継続的な実施が難しくなっていることなどが挙げられる。

(9) イタリア共和国、ベネチア市

【産業としてのムラーノガラスの技術の継承と誇り - 産業・伝統工芸】

- ・ ムラーノガラスはベネチアングラスの代名詞であり、世界のガラス工芸のメッカ「ムラーノ島」に由来する。ムラーノガラスの歴史は古く、12 世紀頃まで遡ることができ、当時、非常に高価なガラスの製造技術秘匿のため、ベネチア共和国がガラス職人をムラーノ島に隔離したため独自の発展を遂げる。ガラス職人達はとても優遇されたが、島抜けは厳罰に

処せられていたほど、ムラーノグラスだけでなく、その職人達が大切にされた。

- ・ 現在ではイタリア観光の一名所になり島内にはギャラリーやみやげ物店が散在し、イタリアの主要輸出産業であり、「水の都」の名称と共に住民の誇りとなっている。
- ・ 品質維持の法律も存在するとともに、職人自身がまちの人々から一目を置かれる存在であることが、伝統工芸をまちの誇りとして受け継いでいく大きな要因となっている。

第3章 モデル地域における歴史・文化を活かした地域づくりの現状に関する調査

3 - 1 モデル地域調査の目的とモデル地域の設定

(1) モデル地域調査の目的とモデル地域の設定

モデル調査の目的

第2章の全国調査では、地域の誇りとして考えられる歴史的資源の抽出と、これら歴史的資源を活用した地域づくりの取り組み実態、及び課題の抽出等を行った。また、地域プライドによる地域づくりを実践している市町村等の事例整理を行った。

第3章では、全国からモデル地域として3地域を抽出し、歴史的地域プライドによる地域づくりを実践している市町村及びNPO等の団体へのヒアリングを通じて、それぞれの地域における歴史的地域プライドの共有範囲や拡がり具合、歴史的地域プライドによる地域づくりのメカニズムの分析を行う。

モデル地域の選定と仮説設定

モデル地域として、「ア．東中国地域（岡山県及び鳥取県・島根県の一部）」、「イ．東九州地域（大分県東部、宮崎県のひむか神話街道沿い市町村及び鹿児島県霧島地方）」、「ウ．北上川流域地域（岩手県及び宮城県の北上川流域の市町村）」の3地域とする。

以下のように、各々の地域の歴史的地域プライドの仮説を設定し、これら地域のいくつかの市町村を対象に歴史的地域プライドの実態に関するヒアリング調査を実施する。

ア．東中国地域

仮説：「吉備地方」「出雲地方」各々の地域で、歴史的地域プライドによる地域づくりが実践されている。

岡山県を中心とする「吉備地方」は、吉備津彦命・温羅伝説に始まる古代吉備文化の発祥の地として栄え、また、九州・大和・四国など西日本の交通の要所として、各地域の様々な歴史・文化がこの地域を通じて往来し、現在に至るまで多様な産業、経済、文化の振興に大きく寄与してきた。一方で、鳥取県、島根県を中心とする「出雲地方」では、「国引き」、「八岐の大蛇」、「国譲り」など多くの神話が残り、また、出雲の鉄など、大和や吉備の勢力に匹敵するほどの先進地域でもあった。

これら地域固有の歴史・文化資源を地域住民が地域のプライドとして再認識し、地域プライドによる「自立した地域づくり」「自立した人づくり」を行っていることが考えられる。

仮説：「吉備地方」「出雲地方」を同一の文化圏とした地域間の連携による地域づくりが実践されている。

経済的、気象的、地形的な要因により、“吉備”と“出雲”といった別々の生活圏を形成してきながらも、古くは鉄を運んだ「出雲街道」を通じて、近世においては参勤交代や出雲大社への参拝の道として同一の文化圏といえるような緊密な地域性を養ってきた。

これら各々の地域に根付く歴史・文化資源の価値を学びながら、各々の地域がこれらの歴史・文化資源を「地域の誇り＝地域プライド」として受け止め、現在の地域の枠組

みを越えた文化的な視点による新たな地域連携・地域づくりを行っていることが考えられる。

イ．東九州地域

仮説：古代日本のルーツとしてのプライドを持っている。

日本の始まりは東九州地域であり、多くの神話が残る地でもある。一方で、東九州地域にとって、九州新幹線が開通したことにより、広域交通の主動線としては西九州に重点が置かれ、「裏九州化」してしまう危険性を秘めている。また、中山間地域という地形的な要因により地域間の連携が図られにくいという現状がある地域である。

そこで、日本のルーツであり、日本神話にまつわる歴史・文化資源が多数存在する東九州地域の特色を活かし、これら地域の歴史・文化資源を紐解くことで「地域のプライド」を発掘し、その地域プライドによる地域振興を図っていくことが考えられる。

仮説：宇佐・ひむか・霧島をつなげる神話を切り口とした情報発信と地域プライドの育成を行っている。

宮崎県においては、「ひむか神話街道」の広域観光ルートを設定しており、地域としての一体性を持った取り組みを行っている。宮崎県のみならず、大分県、鹿児島県においても日本神話にまつわる歴史・文化資源が存在するため、宮崎県で展開されている「ひむか神話街道」と連結した「宇佐・ひむか・霧島をつなげる神話を切り口とした情報発信と地域プライドとしての育成を図っていくことで、日本神話をテーマとした東九州プライド起こしが考えられる。

ウ．北上川流域地域

仮説：水陸万陸の地が生み出してきた歴史・文化は、北上人の精神の源である。

東北の歴史・文化を紐解くと、その多くは北から南へと流れる長さ約 250km に渡る水陸万陸の地である北上川流域で育まれてきた。そして、これら歴史・文化は、一時的に支配される時代があっても、一貫して地域固有の歴史・文化、政治、人々の生活を生み出してきた。つまり、北上川流域で育まれてきた歴史・文化をより深く紐解くことは、東北・北上人の精神の源を紐解く鍵となりうる。

仮説：アテルイから宮澤賢治、そして現代に受け継がれる歴史・文化の発掘と発信による北上人のプライド創発が期待できる。

岩手県盛岡付近から、宮城県石巻までつながる北上川の流域では、古くは縄文時代、アテルイ伝説、前九年の役・後三年の役における安倍一族、奥州藤原氏の平泉文化と義経伝説、そして西行や芭蕉といった歌人や宮澤賢治・石川啄木といった文人によりうたわれるなど、この地を中心に多くの歴史・文化が育まれており、これほど多くの歴史・文化を形成してきた所は、他に類をみないものである。

これら長い時間の中で育まれた歴史・文化を別々の要素としてではなく、1つの文化形成圏として捉え、再発見を行い、さらに地域内へ発信していくことは、北上川流域といった地理的なつながりだけでなく、北上人の精神のつながり、つまり北上人としてのプライド形成につながるものであると考えられる。

3 - 2 モデル地域ヒアリング調査結果

(1) ヒアリング調査の実施状況

モデル地域として設定した「東中国地域」「東九州地域」「北上川流域地域」について、以下の市町村及び民間団体等へヒアリング調査を実施した。

以下の市町村は、ヒアリング実施当時の合併前の市町村名を示しているものもある。

各市町村へのヒアリング結果概要は、資料編「モデル地域ヒアリング調査結果」を参照。

ア．東中国地域

- ・ 岡山県：笠岡市、総社市、高梁市
- ・ 島根県：雲南市、松江市、出雲市

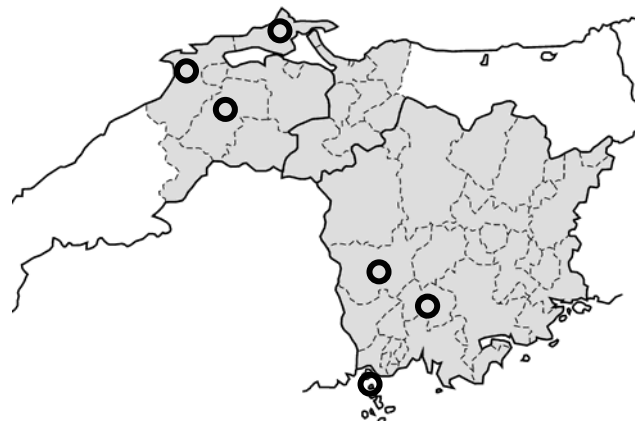
《ヒアリング実施日》

岡山県下

：12/12～12/14

島根県下

：12/1～12/3



イ．東九州地域

- ・ 大分県：杵築市、安岐町、中津市
- ・ 宮崎県：西都市、佐土原町、高城町
- ・ 鹿児島県：霧島市

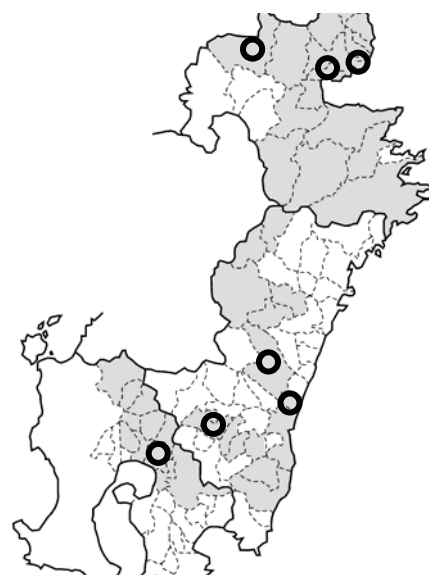
《ヒアリング実施日》

宮崎県及び鹿児島県下

：11/25 及び 12/5～12/7

大分県下

：11/28～11/29



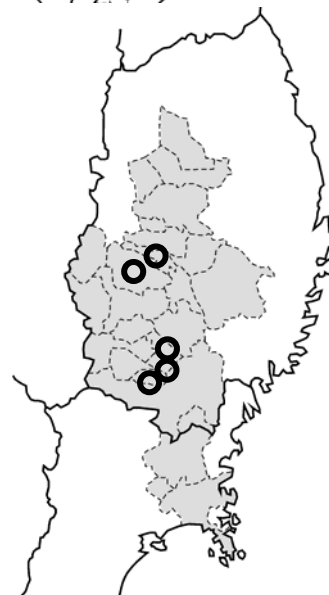
ウ．北上川流域地域

- ・ 岩手県：水沢市、前沢町、花巻市、石鳥谷町、平泉町

《ヒアリング実施日》

岩手県下

：11/30～12/1 及び 12/14～12/15



(2) 歴史的地域プライドによる地域づくりを展開していくための事例分析

モデル地域の各地域において、どのようなものが地域の誇りとして受け継がれてきており、どのような取り組みを行っているのか、また、それらが地域プライドとしてなりえているかの現状を把握し、歴史的地域プライドによる地域づくりを展開していくための視点を導き出すため、ヒアリングを実施した市町村等からいくつかの地域を抽出して、事例分析を行った。

ア - . 岡山県笠岡市白石島

歴史的地域プライド	白石踊りの継承	
人づくり・地域づくりへの取り組み	教育	・幼稚園、小学校、中学校の各段階における授業への取り入れ ・小さい頃から教え込むシステム
	保存	・ビデオやCDの発行 ・白石踊会による保存伝承活動 ・白石踊りの伝承者養成テキストの作成
	観光	・観光イベントとしての観光客への披露
行政の関わり	・観光振興（イベント支援、パンフレット作成、問い合わせ）支援 ・文化財保護・普及（補助金、文化財解説冊子）	

(白石踊りによる地域プライド)

- ・白石踊りは、笠岡市白石島に古くから伝わる盆踊りであり、先祖供養の年中行事として踊る以外に、干ばつの年に行う雨乞いや雨喜びの感謝踊りとしてとして踊られてきた。近年は、浜辺で観光客のために踊ったり、島外で公演したりする機会が増えている。
- ・かつては、島で唯一の娯楽であり、現在でも島民の暮らしと密接に結びついており、島民ならば、誰でも踊ることができるという共通認識がもたれている。
- ・なお、「白石踊り」は踊りだけでなく、白石島の美しい自然景観の中で踊ることといった踊りと景観がセットとなっている。つまり、どこでも踊るというものではなく、「舞台としての場所性」というものが重要となっている。

(地域の誇りとして受け継がれてきた背景)

- ・白石島は、かつては漁業で生計が立てられており、その島民により、受け継がれてきた踊りであったが、生活環境（生業）の変化により踊りを保存しようという動きが起こったといわれている。かつては盆踊りや青年会の活動を中心としていたが、組織として守っていくという考えから、約80年前から「白石踊会」を結成している。

(地域プライドとして受け継いでいく取り組み)

- ・教育：島民ならば、誰でも踊ることができるという共通認識のもと、島外の高等学校に行くまで（島内には高等学校がないため）に地域の子供達が身に着けるべきものとして、幼稚園、小学校、中学校の授業の中で取り組まれている。（幼稚園と小学校、小学校と中学校の連携の形での総合学習の一環として、白石踊会のメンバーが教えている）
また、伝承を行うことは難しいため、小さい頃から教え込むことが必要で、幼少の

頃から教えるシステムを構築している。なお、幼稚園、小学校、中学校という年が異なる子供達が一緒に踊りを学ぶことにより、年長のは後輩の手本になろうという気持ちなども大きく、生徒の向上心は強い。積極的に、踊りを覚えようという気持ちが見られており、踊りを通じて、上の世代を敬う気持ちを育てている。

- ・保存：「白石踊会」が中心に保存伝承を行っている。踊りに対する理解を得る取り組みとしては、踊りを体験してもらうことであり、そのため「踊り体験会」を実施している。この体験会には、小学生から高齢者まで参加しているとともに、専門家等も参加している。また、「白石踊会」を伝える展示施設というものはないが、踊りを映像や音源として伝えるべく、ビデオテープやCDの発行を行っている。また、白石踊りの伝承者養成テキストを作成している。
- ・観光：観光イベントとして、観光客へ踊りの披露や島外への公演などを通じて、他の地域の踊り会との交流などを島外への情報発信も行っている。

(行政としての取り組み)

- ・白石踊りは島民が中心に守り受け継がれているもののために、行政は「支援」という立場が中心となっている。
- ・取り組みとしては、観光振興の支援(イベント活動費支援、パンフレット作成、観光客等からの問い合わせ)及び無形文化財保護・普及支援(補助金支援、解説冊子の作成)

(地域プライドのキーワード)

- ・「踊り」を組織として守ってきている。
- ・「踊り」を受け継いでいくためのシステムとして、幼少時から学ぶシステムが構築されている。また、この幼少時からの教育システムが、年上を敬う気持ちや学ぶことに対する向上心を生み出す要因となっている。
- ・「踊り」という無形文化財だけではなく、踊る背景としての自然景観である「舞台」がセットで受け継がれている。したがって、「舞台」がない場所では、踊りの本質が失われることを島民が認識している。
- ・行政は、「支援」という立場を基本としている。

ア - . 岡山県総社市

歴史的地域プライド	古代吉備王国の中心地としての伝説の継承	
人づくり・地域づくりへの取り組み	保存	・伝説を裏付ける遺構(鬼ノ城)の発掘と遺構の保存整備
	活動	・市民劇団「温羅」 ・温羅太鼓
行政の関わり	・文化活動を行うやすいインフラ整備(市民ホールなど) ・鬼ノ城をはじめとする史跡、温羅伝説、市民活動を紹介するパンフレットの作成	

(古代吉備王国の中心地としての伝説)

- ・桃太郎伝説に始まる古代吉備文化の中心地であることを地域の人々が認知している。
- ・また、全国的に認知されている吉備津彦命の鬼(温羅)退治の話である桃太郎伝説と逆の

立場から見た伝説である「温羅伝説」を地域の人々が認知しており、身近な存在として、鬼（温羅）を捉えている。

（地域の誇りとして受け継がれてきた背景）

- ・古くからの地名が残っているなど、「伝説」として語り継がれてきたが、「伝説」を裏付ける鬼ノ城の遺構の発掘と調査による「伝説」の解明により、市民にとって身近なものとして感じられるようになっている。
- ・また、町おこしの一環として、市民グループが「鬼」をテーマとしたミュージカルなどのイベントを始めたことが、市民劇団「温羅」の結成につながり、「もう一つの温羅伝説」を始め、「温羅」を身近な存在として捉えることから地域の誇りとなってきた。

（地域プライドとして受け継いでいく取り組み）

- ・保存：伝説を裏付ける鬼ノ城を復元し、残すことで、地域の誇りとして受け継いでいく取り組みを行っている。
- ・活動：市民劇団「温羅」による「もう一つの温羅伝説」の公演など、市民自らが演じることで「温羅」を伝える取り組みを行っている。また、備中温羅太鼓など、市民活動の拠り所となっている。

（行政としての取り組み）

- ・鬼ノ城をはじめとする史跡整備を始め、「温羅伝説」を伝えるパンフレットの作成等により市民及び観光客への広報を行っている。
- ・また、行政が中心となった取り組みを行うのではなく、市民ホールの整備など、市民組織が活動しやすい環境（インフラ）整備を中心に行っている。

（地域プライドのキーワード）

- ・「伝説」として語り継がれてきたものが、その「伝説」を裏付ける遺構の発見により、身近なものとして感じられたことが地域プライドとなる要因となっている。
- ・鬼（温羅）は、全国的から見るとマイナーな視点であるが、そのことが逆に市民に浸透している。つまり、全国どこにでもあるものではなく、その地域独自のものである考え方が地域プライドにつながっている。
- ・地域プライドを伝える取り組みは市民が中心となっており、行政としては、これら活動を行いやすい環境（インフラ）を整備することに主眼がおかれている。

ア - . 岡山県高梁市

歴史的地域プライド	山田方谷の教えの継承	
人づくり・地域づくりへの取り組み	周知・顕彰	・山田方谷誕生 200 年記念事業 ・顕彰会
	教育	・副読本、マンガの作成
	地域間交流	・藩校サミット
行政の関わり	・記念事業等を通じた全国への情報発信（学習観光事業・フィルムコミッション事業・カレンダーの発行・藩校サミット、シンポジウム・記念碑・顕彰コーナーの設置・漫画の発行）メディアへの取り上げ	

(地域ゆかりの先人、山田方谷の教えの継承)

- ・江戸時代末期から明治時代の漢学者である山田方谷は、備中松山藩の財政改革を断行し、大きな成功を修めたことで地域に知られているが、現在の自治体の財政難が言われている時代に世間から注目をされている。また、山田方谷は、備中松山藩を支えた多くの人々を育て、他藩から来遊する者も多かったが、明治維新を境に教育に先進し、世に出ることを拒んだ。しかし、その思想や手法、人材は次世代の大きな財産として受け継がれている。
- ・市民の多くは、山田方谷の名は知っているが、どういう人物でどのような功績を残したかについて詳しくは浸透していないのが現状である。一方で、山田方谷については新聞記事などでも多数取り上げられており、報告の精神から地域再生のアイデアを探る座談会なども行われている。

(地域の誇りとして受け継がれてきた背景)

- ・山田方谷自身の著作など現代に残るものは非常に少ない中、弟子を中心に方谷の教えを広めてきた。
- ・大正15年に「高梁方谷会」が発足し、また県内でも別の研究会や顕彰の会などがあり、当時から根強く語り継がれてきている。

(地域プライドとして受け継いでいく取り組み)

- ・周知：山田方谷生誕200年にあたり、山田方谷の思想を掘り下げ、その思いと足跡を辿ることで現在が抱えている様々な社会問題を解決する糸口を見出し、人間の生き方や考え方を学ぶために記念事業を執り行う。
山田方谷印譜集やまんが「山田方谷伝記」、カレンダーの発行など、様々な周知・顕彰活動を実施した。
- ・教育：小中高の副読本で「郷土の人」として山田方谷を取り上げている。また、記念事業の一環として発行したまんが「山田方谷伝記」などは総合学習として教育で取り上げることで、その功績を教える取り組みを行う。
- ・交流：藩校サミットなど、ゆかりのある地域との交流活動を実施する。

(行政としての取り組み)

- ・記念事業として、山田報告を顕彰する各種の出版・印刷物の発行や様々なイベントを実施する。

(地域プライドのキーワード)

- ・地域の誇りとなるべき人物については、その名自体は市民に認知されて入るものの、その功績や思想などの詳細までは周知されていない。
- ・記念事業などにより周知・顕彰活動を行うといった「イベント」的に取り上げることで、地域プライドとして受け継ぐきっかけづくりを行っている。
- ・新聞などのメディアへの取り上げが、地域の人とその人物像なども触れるきっかけとなっている。

ア - 島根県雲南市

歴史的地域プライド	出雲神話（ヤマタノオロチ）伝承の地	
人づくり・地域づくりへの取り組み	史跡	・加茂岩倉遺跡における銅鐸など、出雲の古代文化を裏付ける文化財の発掘
	神楽	・ヤマタノオロチなどの出雲神話にちなんだ演目 ・神楽継承のため、親・祖父母世代が地域の学校へ入って指導
	生きがい・市民活動	・高齢者の生きがいづくりや子ども達との交流（市町村合併による交流範囲の広がり）
行政の関わり	・遺跡公園の整備、インターネットを活用した情報発信	

（古代出雲文化圏の歴史遺産の発掘と出雲神話の継承）

- ・ 出雲神話の一つ、ヤマタノオロチの舞台ともなっている斐伊川が流れ、出雲神話に関連する史跡も多く存在している。
- ・ 市内で大量の銅鐸が出土したほか、隣接する斐川町でも過去に銅剣が大量に出土しており、かつてこの地に一大勢力が存在したことを窺わせている。こうした発見が神話と結びつき、古代出雲文化の神秘性なども相まって地域のイメージを高め、地域プライドを創出している。

（地域の誇りとして受け継がれてきた背景）

- ・ 隣接する奥出雲町も含めた斐伊川の中流から上流にかけての一带は、ヤマタノオロチなど様々な神話・伝説の舞台となっており、同じ出雲地方の中でも出雲大社に代表される平野部とは異なる住民の意識がある。
- ・ 出雲神話をテーマにした神楽が各地で盛んに行われており、神話や地域の歴史を継承する上で重要な役割を果たしていると考えられる。

（地域プライドとして受け継いでいく取り組み）

- ・ 教育： 子供たちも地域内や学校において積極的に神楽に取り組んでおり、親や祖父母世代がそれを支援している。
- ・ 観光： 神楽は、かつては農業の合間の娯楽としての意味合いを持っていたが、現在では観光的側面も強くなっている。また、銅鐸など有形の文化遺産についても、地元での保存・公開展示に向けた動きがある。

（行政としての取り組み）

- ・ 加茂岩倉遺跡について遺跡公園の整備を行っている。また、同じ奥出雲の文化圏に属する近隣の自治体と連携し、ホームページ上での歴史・文化資源に関する情報発信を一元化するなどの取り組みも行われている。

ア - . 島根県松江市

歴史的地域プライド	現在でも市民の身近な生活文化として根付いている文化(お茶文化)	
人づくり・地域づくりへの取り組み	産業	・お茶や茶菓子の消費
	イベント	・松江城大茶会
	観光	・不昧公老舗会めぐりツアー：旅行代理店と和菓子店との協力によるバスツアーサービス提供
	教育	・小学校の総合学習としてのお茶の授業
	まちのPR	・和菓子モダンプロジェクト：ブランドづくり
行政の関わり	・観光都市としてのインフラ整備(景観整備、交通インフラの整備、駅前観光案内所への茶室設置)	

(市民の身近な生活文化として根付いているお茶文化の継承)

- ・松江藩七代藩主であった松平不昧公が一般庶民にも楽しめるようなお茶の文化を広め、現在でも市民生活の中でお茶が身近な生活文化として根付いている。また、お茶の流派も武家流の独特のものが受け継がれている。
- ・一般企業などでもお茶を出す際には抹茶を出すところもあり、三時のお茶がごく一般的なこととして定着している。
- ・お茶文化の発展とともに和菓子の技術も発達し、京都・金沢と並ぶ三大菓子どころとして知られている。市内には和菓子処が多く、街のいたるところでお茶とお菓子をいただくことができる。

(地域の誇りとして受け継がれてきた背景)

- ・作法や格式にこだわらず、庶民が楽しめるお茶のスタイルとして広まったことが、市民生活に浸透し、今まで受け継がれてきた背景と考えられる。
- ・城下町文化を基盤とする観光都市であるため、産業的な側面からお茶・お菓子の文化が発展してきた面もある。

(地域プライドとして受け継いでいく取り組み)

- ・教育：小学校の総合学習としてのお茶の授業を実施している。また、高校茶道部の活動場所として駅前の観光客向け茶室を開放している。
- ・観光：松江城での大茶会、市内の茶舗・和菓子処・寺など、民間が中心となってお茶やお菓子を楽しめる場を提供している。
- ・産業：政府の支援を受けて海外に和菓子を出品するなど、地域ブランドづくりが進められている。

(行政としての取り組み)

- ・駅前整備にあわせ、観光案内所に茶室を設置している。
- ・大都市圏から遠く、交通インフラも不十分であるなど、お茶文化を観光面で活かしていく上では課題も多い。

(地域プライドのキーワード)

- ・市民の生活文化としての側面と、観光的側面を持っている。
- ・お茶文化の振興に民間が積極的に関わっており、地域の産業振興の側面もある。
- ・海外への和菓子の出品など、地域ブランドづくりの一角を担っている面もある。

イ - . 大分県安岐町（現国東市安岐町）

歴史的地域プライド	三浦梅園の教えの継承	
人づくり・地域づくりへの取り組み	教育	・梅園先生を称える歌（小学校での教育） ・副読本（小学校の高学年で学習）
	顕彰	・梅園祭（法要の会）
	施設整備	・三浦梅園資料館の建設・運営
行政の関わり	・梅園祭の実施（かつては地域でやっていた行事を行政が引き継ぐ）	

（三浦梅園の精神の継承）

- ・江戸時代中期の学者で条理学と称する一大哲学体系を樹立した三浦梅園を町民の誇りとして称えるとともに、学校教育や社会教育の中でその精神を受け継いでいる。

（地域の誇りとして受け継がれてきた背景）

- ・当時の政治・経済・学問等の中心地（江戸や大阪、京都など）に出て、出世した人でなく、現在の安岐町の場所から離れることなく、全国に通用する人が出たことが地域の誇りとなっている。

（地域プライドとして受け継いでいく取り組み）

- ・教育：小学校高学年の歴史の時間に地域の人物として学んでいる。安岐町が位置する国東半島の子供達であれば、名前は誰でも知っている。
- ・顕彰：三浦梅園の法要を、梅園祭（今年で 217 回目）というかたちで執り行っている。当時は、地域の人々の手で行われてきていたが、子供が少ないことなどから、現在は町で行事を引き継いで行っている。また、三浦梅園を称える歌があり、小学校で教えたり、地域の詩吟の会が梅園祭で披露したりしている。
- ・施設：三浦梅園の旧宅の保存整備と、三浦梅園の遺品の保存・展示、また梅園の教えを分かりやすく映像で学べるコーナーの設置、梅園の精神の研究活動や冊子の作成・販売を行う三浦梅園記念館を整備（平成 12 年開館）する。

（行政としての取り組み）

- ・三浦梅園旧宅の保存整備と三浦梅園記念館の整備、梅園研究の実施。及びこれまでは地域住民の手で行われてきた梅園祭を実施している。

（地域プライドのキーワード）

- ・偉人ゆかりの地というのは全国に多々あるが、その偉人にゆかりがある（例えば、一時期住んでいた、教鞭をとっていた、終焉の地）ことが誇りとなっているのではなく、その地域で立身出世、大成されたこと。つまり、都会へ出て行かなくても、この地でも大成できるという証であることが地域のプライドとして受け継がれてきている要因となっている。

イ - . 大分県中津市

歴史的地域プライド	福沢諭吉の「独立自尊」の精神の継承	
人づくり・地域づくりへの取り組み	教育	・副読本、諭吉カルタ、ビデオ等の作成 ・市内小中学校での弁論大会の実施
	施設整備及び観光	・福沢諭吉資料館の建設・運営 ・旧居の保全と一般公開、周辺整備(レストハウス、駐車場整備)
	交流	・小学生を対象とした早慶戦(佐賀市と中津市)の開催 ・全国高等学校弁論コンクール(慶応義塾との連携)
	周知	・市内の小学生でも旧居にいったことがない人が多いため、まずは知ってもらうための活動として、冒険中津事業として福沢旧居をコースに定める。 ・成人式での福沢諭吉ストラップの配布
	顕彰活動	・福沢諭吉記念祭 ・郷土史を語る会などの民間の活動
行政の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・学問の里としてのまちづくりの中心として「福沢諭吉」を定め、弁論大会をはじめ、様々なイベント活動を実施。 ・福沢諭吉 = 中津出身としての認知度が低いために、認知度アップに向けた取り組み 	

(福沢諭吉の独立自尊の精神の継承)

- ・慶應義塾の創始者福沢諭吉は「学問のすゝめ」で西洋の科学に基づいた学問の大切さを説くとともに、「心身の独立を全うし、自らその身を尊重して、人としてその品位をはずかしめない」という「独立自尊」の精神を説いた。
- ・当時の中津藩は教育に力を注ぎ、福沢諭吉のみならず、多くの人材を輩出した地であり、学問の里づくりとしての取り組みを様々な形で実施している。

(地域の誇りとして受け継がれてきた背景)

- ・全国に知名度が高く、また顕彰する人々が多い福沢諭吉が青年時代に生活していた地であることが地域の誇りとなっているとともに、その精神を受け継ぐための様々な取り組みを長年地域で行ってきたことが地域プライドの形成につながっている。

(地域プライドとして受け継いでいく取り組み)

- ・教育：福沢諭吉の精神を伝えていくために、副読本や諭吉の年少時代の物語の作成や諭吉カルタ、ビデオ等を作成し、小中学校に配布している。また、市内小中学校を中心とした弁論大会を実施している。その他、学校教育のみではなく、郷土史を語る会や中津三田会などの民間団体を中心とした社会教育が市内各地で実施されている。
- ・観光：記念館を併設した福沢旧居は、一般公開するとともに、周辺整備(レストハウス、駐車場整備)により、観光客への対応を行っている。
- ・交流：他地域との交流事業として、小学生を対象とした早慶戦(佐賀市と中津市)の開催や慶応義塾との連携による全国高等学校弁論コンクールを開催している。

(行政としての主な取り組み)

- ・福沢諭吉を知ってもらうこと、身近に感じてもらうことを中心に、例えば、小学生におい

ては、旧家へ一度入ってもらうことを推奨する取り組み（冒険中津事業）や成人式での福沢諭吉ストラップのプレゼントなどの取り組みを実施している。

（地域プライドのキーワード）

- ・全国的に知名度が高い偉人ゆかりの地であるが、その人物が有名すぎることで、中津市＝福沢諭吉と地域と偉人とが一致して認知する人が多くはない。地域と偉人とが精神的につながることで地域プライドを形成する要因となりうる。

イ - . 宮崎県全域

歴史的地域プライド	日本神話（ひむか神話）創出の地	
人づくり・地域づくりへの取り組み	施設整備・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・ひむか神話街道の環境整備（道路整備、トンネル、標識、広域案内板、パンフレットなど） ・ふれあい案内人や観光者へのもてなし
	教育・体験	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子供や家族を対象として、“食”や“体験”を通じて地域の誇りとなる神話を親しみやすくする。
	地域間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県北協議会による取り組み
行政の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の点としての誇りと線でつなぐ取り組み（インフラ整備） ・地域間連携のコーディネート ・ひむか神話に関するパンフレット作成等の全国への情報発信 ・地域からの提案に対する支援（元気のいい地域総合支援事業） 	

（ひむか神話街道による日本神話発祥の地としてのプライド形成）

- ・宮崎県は、古来、日向の国と呼ばれ、日本神話発祥の地として、神話にまつわる歴史・文化資源が多く存在する地域である。日向の国に暮らす人々は、今も神々の物語を伝えながら、神楽を舞い、神々が慈しんだ自然を讃え暮らしている。
- ・県内の各地で神話にまつわる文化資源を大切に組みこんでいる点としてのプライドを一つの線として結びつけて、広域的な地域プライドの形成と交流人口の拡大を図る取り組みを実践している。

（地域の誇りとして受け継がれてきた背景）

- ・日本神話発祥の地として、神話にまつわる史跡や伝承の神楽などをそれぞれの地域で非常に長い年月の間、守り受け継いできていた。この長い年月守り受け継いできたことが地域プライド形成につながっている。

（地域プライドとして受け継いでいく取り組み）

- ・観光：ひむか神話街道の環境整備（道路整備、トンネル、標識、広域案内板、パンフレットなど）。また、高千穂の神楽など、通常は長い時間を掛けて実演されるものであるが、観光客用として短時間で実演するものを作成している。また、ふれあい案内人や観光者へのもてなしなどを地域の人々が行うことを通じて、神話が地域プライドとして、地域住民の心に形成されている。
- ・教育：神話に対して、年配者は興味があるが、子供には難しいため、教育・学習として神話を伝えていくだけではなく、家族や子供に対しては、そこに行かなければ食べら

れないなど、“食”や“体験”とセットで教育していくなどを実施している。

- ・交流：それぞれの地域での取り組みを結ぶために、宮崎県北協議会を形成し、情報交換や地域間の連携に努めている。

(行政としての取り組み)

- ・それぞれの地域の点としてのプライドを線としてつなぐ環境(インフラ)整備を中心に実施している。
- ・また、地域間の連携を図るために、コーディネートとしての役割を担っている。

(地域プライドのキーワード)

- ・それぞれの地域で形成されてきたプライドが小さくても、それらがつながったり、連携したりすることで大きなプライドとして形成される可能性がある。
- ・地域プライドを形成するのは地域の役割であり、県としての役割は旗振り役ではなく、これら取り組みを支援する環境(インフラ)整備、地域間連携のコーディネートが中心となっている。

イ - . 宮崎県高城町(現都城市高城町)

歴史的地域プライド	地域の発展	
精神文化が表出した形	旧後藤家商家交流資料館	
人づくり・地域づくりへの取り組み	施設整備	・旧後藤家商家交流資料館の整備 ・醤油の販売等による運営資金の供出
	交流	・旧後藤家商家交流資料館で行われる様々な取り組み(コンサート、落語等の演芸、「なんこ」大会)
	顕彰活動	・有志による先人の取り組みを書籍にまとめる
行政の関わり	・旧後藤家商家交流資料館運営の支援	

(地域の発展の象徴である旧後藤家商家の保存と活用)

- ・幕末に薩摩藩の御用船で財を成した後藤五市の三男伊助とその息子の五兵衛が明治33年に建てたもので、当時は醤油屋や養蚕業が営まれていた由緒ある建造物である。平成13年に道路拡幅工事に伴って撤去されるところだったが、これを契機に、町民が中心となって保存・運営を検討した結果、NPO法人が設立され、移転・修復が行われた。現在は、歴史を偲ばせる貴重品が展示されるとともに、この施設をまちの中心的な施設とすべき様々なイベントが催されている。

(地域の誇りとして受け継がれてきた背景)

- ・かつての町の発展の象徴というべき建物が取り壊されるという危機を契機に、これを守っていくことが必要であるという町民の意識がはたらき、保存・運営に関する様々な取り組みを実施していることが地域プライドとして醸成してきている。

(地域プライドとして受け継いでいく取り組み)

- ・施設：資料館の保存が主の取り組みとなっていることから、運営するための資金繰りが大きな課題となっている。そのため、資料館の観覧料に加え、醤油の販売等により運営を行っている。

- ・交流：施設を保存するだけでなく、様々な取り組みを実施することで、町民の交流の場としての機能を担っている。
- ・顕彰：資料館の保存・運営は、NPO高城歴史文化のまちづくりフォーラムにより、行われている。本NPOの会員によるボランティア活動が地域プライドを受け継ぐ大きな基盤となっている。また、有志による先人の取り組みを書籍にまとめるなどの顕彰活動を行っている。

（行政としての取り組み）

- ・資料館の保存等に関する財政支援を実施しているが、これら文化資源の保存等に関する予算は本町だけでなく、全国的に削られていく傾向にある。また、市町村合併により、その傾向は加速していくことも考えられる。

（地域プライドのキーワード）

- ・全国のほとんどの市町村で財政状況が厳しい中、施設の保存等に関しての財政支援が少なくなってくる傾向があり、NPO等を含め地域住民の手で守っていくための様々な工夫が求められる。

ウ - . 岩手県石鳥谷町（現花巻市石鳥谷町）

歴史的地域プライド	南部杜氏の里としての地域プライドの醸成	
人づくり・地域づくりへの取り組み	施設整備	・ 民俗資料博物館 ・ 道の駅 ・ 南部杜氏伝承館
	教育	・ 副読本、小学校等の社会科見学
	観光	・ 酒祭り
	顕彰活動	・ 南部杜氏の育成
行政の関わり	・ 無形民俗文化財への登録をきっかけに当時の町長が町民への意識改革をうったえる（出稼ぎというマイナスイメージから）	

（マイナスイメージからの脱却と南部杜氏の里としての地域プライドの醸成）

- ・ 越後杜氏、丹波杜氏と並び、日本三大杜氏の一つとして称されている南部杜氏の里として、藩政時代より南部の酒造り 350 年余りの歴史を担い続けてきた。杜氏は、洗練された酒造りの技を受け継ぐ職人のことであるが、酒造りの技術だけではなく、人格的にも尊敬される存在となっている。
- ・ 明治前にはにごり酒をつくる技術しかなかったが、近江商人により透明な酒をつくる技術が伝えられた。特に大吟醸などの高度な酒をつくる技術を伝え、杜氏がかかわると味が変わると言われている。最近では通年で杜氏を抱える酒蔵も出てきており、経営に関わることもある。

（地域の誇りとして受け継がれてきた背景）

- ・ 杜氏は冬の「出稼ぎ」であったため、暗いイメージがあったが、「期間就労の集団」として地域の誇りにしよう意識改革をはじめ、昭和 56 年に歴史民俗資料館の整備、酒造用具が国の重要有形民俗文化財に指定され、「南部杜氏」に対する町民の意識が大きく変化した。
- ・ また、昭和期までは、町として誇れるもの、町民が共有できるイメージというものがあったが、歴史を検証・見直しをすることで、行政も町民も「酒造り」を誇り共有できるイメージとして掲げることができた。

（地域プライドとして受け継いでいく取り組み）

- ・ 施設整備：酒蔵をイメージした道の駅が開所し、「南部杜氏の里」の情報発信基地としての整備を行う。また、国の重要有形民俗文化財に指定された酒造用具の保存・展示や酒造りの伝承・人材育成の場として、歴史民俗資料館、南部杜氏伝承館を整備する。
- ・ 教育：副読本、小学校等の社会科見学により、地域の子供たちへ酒造りの方法を伝える。
- ・ 観光：酒まつりを開催しており、吟醸酒を振舞ったり、合わせて農産物の直売などを行ったりするなど、「酒造り」を観光施策につなげている。
- ・ 顕彰：南部杜氏協会が杜氏の育成に取り組んでいるが、杜氏は製法や税制など幅広い知識と技術が必要であり、なかなか後継者が育たない状況に

（行政としての取り組み）

- ・ 無形民俗文化財への登録をきっかけに当時の町長が町民への意識改革をうったえる（出稼ぎというマイナスイメージから）

(地域プライドのキーワード)

- ・地域のマイナスのイメージを誇りとなるイメージに変えるきっかけづくりといった、町民意識の大きな変化が地域プライドの醸成につながっていた事例である。
- ・しかし、そのためには、歴史を検証・見直しするという作業を実施しており、今ある資源を活用するだけでなく、これまでの地域の歴史を検証し、見直しを行う作業というものが地域プライド醸成に必要である。

ウ - . 岩手県平泉町

歴史的地域プライド	奥州藤原文化の保存と世界遺産登録をきっかけとして地域づくり	
人づくり・地域づくりへの取り組み	施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・公園整備 ・寺院等の保存 ・世界遺産登録 ・景観法
	観光	<ul style="list-style-type: none"> ・藤原祭り ・回遊マップ ・観光ボランティア
	交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ときめき世界遺産塾ジュニアシンポジウム
	教育	<ul style="list-style-type: none"> ・副読本、社会科見学、写生大会 ・ふれあい世界遺産塾
行政の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・町民とともに行政が一丸となって遺跡を守ろうと取り組む ・世界遺産登録をきっかけにさらなる意識統一を図る ・景観行政団体として景観形成に取り組む ・ジュニアリーダーや観光ボランティアの育成に努める 	

(町民の生活と身近な奥州藤原文化の遺跡群とこれら遺跡を守っていく意識の継承)

- ・町内には、特別史跡3箇所、特別名勝1箇所、このほか史跡・名勝が4箇所あり、現在の市街地は藤原時代の町の上に存在するため、どこを掘っても遺跡が出るといっても過言ではない。そのため、住居の建て替えの際には発掘調査が行われるなど、史跡とともにある生活をこれまで送ってきているとともに、これら史跡を守ろうとする意識は、ごく普通のこととして住民の中で継承されてきている。

(地域の誇りとして受け継がれてきた背景)

- ・奥州藤原文化発祥の地であることを誇りとするとともに、これら文化を現す埋蔵文化財が現在においても生活と密着な関係であること、常に触れることができることが地域プライドとしてなりえた要因となっている。
- ・また、生活に溶け込んでいる埋蔵文化財の保全・活用に関して、「世界遺産登録」という求心力あるきっかけ作りが行えたことも要因といえる。

(地域プライドとして受け継いでいく取り組み)

- ・教育：奥州藤原文化の歴史や多くの埋蔵文化財のことを地域の子供達に周知してもらう為に、社会化副読本にて45ページにわたり、これら歴史や文化財の紹介を行っている。また、町内だけでなく、周辺の一関や水沢、千厩地域における小・中・高校生を対象に、「ときめき世界遺産塾」を開催し、地域プライドを受け継いでいく人材育成を

進めている。

- ・観光：1年中を通しての様々な祭りを実施や、回遊マップの作成や駐車場の整備、観光ボランティアの育成等により、観光客の誘客や平泉文化ファン・ネットワークづくりを進めている。
- ・開発保全：道路整備などにおいて、地域の景観を損なわないようなルート変更を実施したり、景観法に基づく取り組みを実施したりしている。

(地域プライドのキーワード)

- ・町内の史跡が、現在の町民の生活に身近であること。そして、これら史跡を町民一人一人が守ってきているという自負があることが、地域プライドとなっている要因であるといえる。
- ・また、世界遺産登録や景観法に基づく取り組みなど、町民の地域プライドの方向性と一致するような求心力あるきっかけづくりが地域プライドを増大させる要因となっている。

ウ - . 岩手県水沢市 (現奥州市)

歴史的地域プライド	アテルイや三偉人などを輩出してきた地としての誇り	
人づくり・地域づくりへの取り組み	施設整備	・アテルイの里広場 ・道の駅 (Zプラザアテルイ) ・アテルイの里 (有志で石碑を建立) ・高野長英記念館、後藤新平記念館、後藤寿庵廟、斉藤實記念館他多数
	観光	・アテルイ没後 1200 年祭、高野長英生誕 200 年祭、後藤新平生誕 200 年祭 ・吉小路偉人通り顕彰祭 ・観光ボランティア
	周知	・ミュージカル ・アニメ制作 ・電子紙芝居 (HP)
	教育	・副読本
行政の関わり	・アテルイや三偉人に関してそれぞれ概ね 1 年間に渡り生誕祭等を実施し各種イベントを展開。	

(エミシの平和を守るために中央政権を長年戦い抜いたアテルイ精神の伝承)

- ・アテルイはエミシのリーダーとして、支配下におさめようとする朝廷の大軍と長年戦いを続けていた。しかし、エミシにとっても戦がこれ以上長引くと犠牲も大きいため、4 度目の戦で坂上田村麻呂が率いる朝廷軍に降伏した。坂上田村麻呂はエミシたちを従わせるためにアテルイが必要だと朝廷に訴えたが、アテルイたちは都 (京都) に連れて行かれた処刑された。
- ・このアテルイの地域を愛する気持ちや平和を望む精神を伝承するため、没後 1200 年祭を開催し、その後も有志による顕彰が続けられている。

(三偉人を輩出して来た地としての誇り)

- ・高野長英は、長崎で西洋医学や蘭学を学び、日本最初の体系的生理学書「医原樞要」など

多くの著述を残し、精力的な活動を続けた。

- ・後藤新平は、台湾総督府民政局長(のち民政長官)として民政統治の確立に努める。さらに満鉄の初代総裁や第2次桂内閣の逋信相、東京市長などを歴任する。都市改造案や関東大震災の復旧処理に尽力。
- ・斎藤實は、西園寺内閣海相以後、歴代5内閣にわたって8年間海相を勤める。のちジュネーブ軍縮会議全権大使、犬養内閣の後をうけた首相、内大臣などに就いたが、2・26事件の凶弾に倒れる。
- ・これら中央で活躍する偉人が同年代で水沢から輩出されていることを、顕彰活動を通じて市民に周知している。

(地域プライドのキーワード)

- ・多くの偉人が輩出されてきているということを誇りに捉えており、大きなイベントの開催や施設整備を実施してきた。しかし、多くの人物がいること、活躍したのがご当地ではないことなどから、市民の意識が定着せず、継続的な取り組みが展開できない状況にある。
- ・一部の有志においては、地域プライドとして顕彰活動等を進めているが、市民全体への周知や地域プライドとしての取り組み展開など、行政の継続的な参画が今後期待される。

3 - 3 市民アンケート調査

(1) モデル地域市民アンケート調査概要

モデル地域に住む住民を対象に、地域プライドの実態把握や地域プライドによる地域づくりのあり方等に関する意向を把握するため、以下の4地域の居住者へインターネットによるアンケートを実施した。

地域名（対象者）	回答数
A：北上川流域（北上川流域の市町村に居住する方）	515
B：岡山地域（岡山県下全ての市町村に居住する方）	1,030
C：出雲地域（島根県及び鳥取県の出雲地域に居住する方）	516
D：宮崎・霧島地域（宮崎県内のひむか街道沿道の市町村及び鹿児島県北東部（霧島地域）に居住する方）	507

(2) アンケート調査結果

あなたのお住まいの地域について、歴史・文化に対する「誇り」を持っていますか？

- ・ 「誇りと持っている」及び「やや誇りを持っている」との回答は全体で45%、どちらでもないが約40%、「あまり誇りを持っていない」及び「誇りを持っていない」との回答は約15%となっている。
- ・ 地区別に見ると、“C：出雲地域”で「誇り」を持っている回答者の割合が最も高い。
- ・ 居住年数別に見ると、居住年数が長いほど、「誇りを持っている」との回答者の割合が高くなっている。
- ・ また、「生まれてからずっと現在の居住地(地域)に住んでいる。」「一度他所の地域に出た(就学や就職などで)が、現在の居住地(地域)に戻ってきた。」との回答者が、地域に対して誇りを持っている割合が、「他所の地域から現在のところに引っ越してきた。」回答者よりも高くなっている。

【地域別】

	全体	北上川流域	岡山地域	出雲地域	宮崎・霧島地域
地域の歴史・文化に対して「誇り」を持っている。	370 (14.4%)	81 (15.7%)	115 (11.2%)	113 (21.9%)	61 (12.0%)
地域の歴史・文化に対して、やや「誇り」を持っている。	787 (30.6%)	169 (32.8%)	304 (29.5%)	175 (33.9%)	139 (27.4%)
どちらでもない。	994 (38.7%)	200 (38.8%)	418 (40.6%)	160 (31.0%)	216 (42.6%)
地域の歴史・文化に対してあまり「誇り」を持っていない。	305 (11.9%)	55 (10.7%)	138 (13.4%)	47 (9.1%)	65 (12.8%)
地域の歴史・文化に対する「誇り」を持っていない。	112 (4.4%)	10 (1.9%)	55 (5.3%)	21 (4.1%)	26 (5.1%)

【居住年数別】

	全体	5年未満	5～9年	10～19年	20～29年	30～39年	40年以上
地域の歴史・文化に対して「誇り」を持っている。	370 (14.4%)	58 (9.5%)	47 (12.1%)	48 (9.7%)	80 (16.8%)	73 (20.9%)	64 (26.1%)
地域の歴史・文化に対して、やや「誇り」を持っている。	787 (30.6%)	163 (26.6%)	114 (29.2%)	157 (31.8%)	165 (34.6%)	112 (32.1%)	76 (31.0%)
どちらでもない。	994 (38.7%)	240 (39.2%)	165 (42.3%)	210 (42.5%)	172 (36.1%)	121 (34.7%)	86 (35.1%)
地域の歴史・文化に対してあまり「誇り」を持っていない。	305 (11.9%)	107 (17.5%)	41 (10.5%)	59 (11.9%)	49 (10.3%)	36 (10.3%)	13 (5.3%)
地域の歴史・文化に対する「誇り」を持っていない。	112 (4.4%)	45 (7.3%)	23 (5.9%)	20 (4.0%)	11 (2.3%)	7 (2.0%)	6 (2.4%)

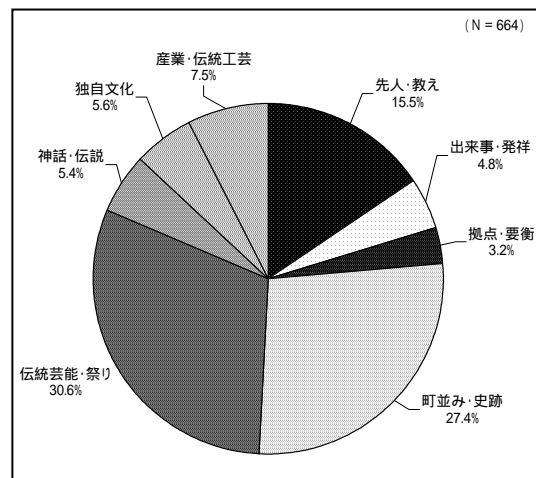
【これまでの居住別】

	全体	A	B	C	D
地域の歴史・文化に対して「誇り」を持っている。	370 (14.4%)	100 (18.4%)	152 (19.2%)	116 (9.6%)	2 (7.1%)
地域の歴史・文化に対して、やや「誇り」を持っている。	787 (30.6%)	185 (34.0%)	261 (32.9%)	333 (27.7%)	8 (28.6%)
どちらでもない。	994 (38.7%)	198 (36.4%)	271 (34.2%)	514 (42.7%)	11 (39.3%)
地域の歴史・文化に対してあまり「誇り」を持っていない。	305 (11.9%)	48 (8.8%)	86 (10.8%)	167 (13.9%)	4 (14.3%)
地域の歴史・文化に対する「誇り」を持っていない。	112 (4.4%)	13 (2.4%)	23 (2.9%)	73 (6.1%)	3 (10.7%)

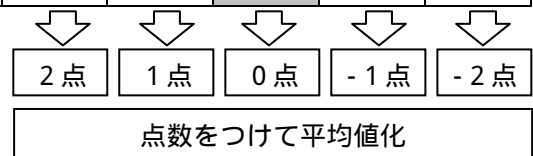
「A. 生まれてからずっと現在の居住地(地域)に住んでいる。」 「B. 一度他所の地域に出ている(就学や就職などで)が、現在の居住地(地域)に戻ってきた。」 「C. 他所の地域から現在のところに引っ越してきた。」 「D. その他(具体的に記述)」

テーマ別にみた歴史・文化に対する「誇り」について

- ・ テーマ別にみた歴史・文化に対する「誇り」として、「社寺・史跡等歴史的なものが残っていること」次いで「神話や伝説の地であること」「古い町並みや建造物があること」を誇りと思っている人が多い。
- ・ これら状況は、都道府県アンケートで、地域の誇りとして考えられるテーマと大きな違いはない。(モデル地域については、神話の舞台である出雲地域及び日向地域を含んでいるため、「神話や伝説の地であること」を誇りとして上げる回答者が多いことが想定される。)
- ・ 地区別に見ると、北上川流域地域では、「地域ゆかりの人、地域出身の偉人がいること」を地域の誇りとして考えている回答者が最も多く、出雲地域及び宮崎・霧島地域では、「神話や伝説の地であること」を地域の誇りとして考えている回答者が最も多い。



誇りと考えられるテーマ	1 誇りに 思う	2 やや思 う	3 分から ない	4 あまり 思わな い	5 思わな い
地域ゆかりの人、地域出身の偉人がいること (例：地域出身の偉人の考え方や生き様に対する誇り / 西郷隆盛など)	352 (30.4%)	450 (38.9%)	218 (18.8%)	107 (9.2%)	30 (2.6%)
歴史的な出来事が起こった地であること (例：歴史を変える出来事に関する誇り / 関が原の戦い、源平合戦など)	211 (18.2%)	353 (30.5%)	434 (37.5%)	130 (11.2%)	29 (2.5%)
文化や産業の発祥の地であること (例：歴史に残る文化や産業への誇り / 和歌発祥の地、杜氏発祥の郷など)	275 (23.8%)	439 (37.9%)	319 (27.6%)	102 (8.8%)	22 (1.9%)
古い町並みや建造物があること (例：古い町並みや建造物に関する誇り / 伝統的建造物群保全地区など)	360 (31.1%)	465 (40.2%)	204 (17.6%)	103 (8.9%)	25 (2.2%)
社寺・史跡等歴史的なものが残っていること (例：社寺・史跡等物的歴史に対する誇り / 歴史上の社寺、城跡など)	426 (36.8%)	468 (40.4%)	178 (15.4%)	75 (6.5%)	10 (0.9%)
神話や伝説の地であること (例：神話や伝説の里としての誇り / 天孫降臨の神話、義経伝説など)	462 (39.9%)	324 (28.0%)	273 (23.6%)	75 (6.5%)	23 (2.0%)
古来から伝承している踊りや民俗芸能があること (例：古来の民俗芸能を継承している誇り / 神楽や舞い、民俗儀礼など)	329 (28.4%)	436 (37.7%)	286 (24.7%)	85 (7.3%)	21 (1.8%)
地域の誇りとなる祭りがあること (例：地域独自の祭りに対する誇り / 裸祭り、だんじり祭りなど)	310 (26.8%)	408 (35.3%)	304 (26.3%)	107 (9.2%)	28 (2.4%)
古代に文化や経済の中心地、交通の要衝であったこと (例：歴史上の中心地としての誇り / 古代吉備王国、平泉文化、京など)	231 (20.0%)	345 (29.8%)	424 (36.6%)	125 (10.8%)	32 (2.8%)
地域独自の生活スタイル(風習・方言など)があること (例：地域独自の生活習慣に関する誇り / 藩(藩校)における教え、茶の湯文化など)	241 (20.8%)	428 (37.0%)	339 (29.3%)	120 (10.4%)	29 (2.5%)
日本を代表するような産業(伝統工芸)があること (例：日本を代表する産業への誇り / 焼物、漆器、鋳物など)	236 (20.4%)	350 (30.3%)	411 (35.5%)	117 (10.1%)	43 (3.7%)



【地域別の誇りに思う上位5テーマ】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	社寺・史跡 1.059	神話・伝説 0.974	町並み 0.892	ゆかりの人・偉人 0.853	踊り・民芸 0.836
A：北上川流域	ゆかりの人・偉人 1.208	祭り 0.980	社寺・史跡 0.932	踊り・民芸 0.896	町並み 0.736
B：岡山地域	社寺・史跡 1.074	町並み 1.055	ゆかりの人・偉人 0.802	文化発祥地 0.702	神話・伝説 0.685
C：出雲地域	神話・伝説 1.465	社寺・史跡 1.247	町並み 1.014	踊り・民芸 0.938	文化発祥地 0.910
D：宮崎・霧島地域	神話・伝説 1.255	踊り・民芸 1.145	社寺・史跡 0.915	祭り 0.820	ゆかりの人・偉人 0.700

A：北上川流域

誇りと考えられるテーマ	1 誇りに 思う	2 やや思 う	3 分から ない	4 あまり 思わな い	5 思わな い
地域ゆかりの人、地域出身の偉人がいること (例：地域出身の偉人の考え方や生き様に対する誇り / 西郷隆盛など)	114 (45.6%)	93 (37.2%)	27 (10.8%)	13 (5.2%)	3 (1.2%)
歴史的な出来事が起こった地であること (例：歴史を変える出来事に関する誇り / 関が原の戦い、源平合戦など)	48 (19.2%)	77 (30.8%)	98 (39.2%)	20 (8.0%)	7 (2.8%)
文化や産業の発祥の地であること (例：歴史に残る文化や産業への誇り / 和歌発祥の地、杜氏発祥の郷など)	56 (22.4%)	96 (38.4%)	67 (26.8%)	26 (10.4%)	5 (2.0%)
古い町並みや建造物があること (例：古い町並みや建造物に関する誇り / 伝統的建造物群保全地区など)	58 (23.2%)	104 (41.6%)	58 (23.2%)	24 (9.6%)	6 (2.4%)
社寺・史跡等歴史的なものが残っていること (例：社寺・史跡等物的歴史に対する誇り / 歴史上の社寺、城跡など)	76 (30.4%)	108 (43.2%)	43 (17.2%)	19 (7.6%)	4 (1.6%)
神話や伝説の地であること (例：神話や伝説の里としての誇り / 天孫降臨の神話、義経伝説など)	58 (23.2%)	82 (32.8%)	83 (33.2%)	23 (9.2%)	4 (1.6%)
古来から伝承している踊りや民俗芸能があること (例：古来の民俗芸能を継承している誇り / 神楽や舞い、民俗儀礼など)	75 (30.0%)	101 (40.4%)	50 (20.0%)	21 (8.4%)	3 (1.2%)
地域の誇りとなる祭りがあること (例：地域独自の祭りに対する誇り / 裸祭り、だんじり祭りなど)	85 (34.0%)	97 (38.8%)	50 (20.0%)	14 (5.6%)	4 (1.6%)
古代に文化や経済の中心地、交通の要衝であったこと (例：歴史上の中心地としての誇り / 古代吉備王国、平泉文化、京など)	53 (21.2%)	71 (28.4%)	96 (38.4%)	22 (8.8%)	8 (3.2%)
地域独自の生活スタイル(風習・方言など)があること (例：地域独自の生活習慣に関する誇り / 藩(藩校)における教え、茶の湯文化など)	55 (22.0%)	84 (33.6%)	79 (31.6%)	27 (10.8%)	5 (2.0%)
日本を代表するような産業(伝統工芸)があること (例：日本を代表する産業への誇り / 焼物、漆器、鋳物など)	65 (26.0%)	86 (34.4%)	69 (27.6%)	24 (9.6%)	6 (2.4%)

B：岡山地域

誇りと考えられるテーマ	1 誇りに 思う	2 やや思 う	3 分から ない	4 あまり 思わな い	5 思わな い
地域ゆかりの人、地域出身の偉人がいること (例：地域出身の偉人の考え方や生き様に対する誇り / 西郷隆盛など)	116 (27.7%)	165 (39.4%)	88 (21.0%)	39 (9.3%)	11 (2.6%)
歴史的な出来事が起こった地であること (例：歴史を変える出来事に関する誇り / 関が原の戦い、源平合戦など)	67 (16.0%)	133 (31.7%)	156 (37.2%)	50 (11.9%)	13 (3.1%)
文化や産業の発祥の地であること (例：歴史に残る文化や産業への誇り / 和歌発祥の地、杜氏発祥の郷など)	93 (22.2%)	167 (39.9%)	112 (26.7%)	35 (8.4%)	12 (2.9%)
古い町並みや建造物があること (例：古い町並みや建造物に関する誇り / 伝統的建造物群保全地区など)	154 (36.8%)	180 (43.0%)	46 (11.0%)	32 (7.6%)	7 (1.7%)
社寺・史跡等歴史的なものが残っていること (例：社寺・史跡等物的歴史に対する誇り / 歴史上の社寺、城跡など)	153 (36.5%)	180 (43.0%)	53 (12.6%)	30 (7.2%)	3 (0.7%)
神話や伝説の地であること (例：神話や伝説の里としての誇り / 天孫降臨の神話、義経伝説など)	109 (26.0%)	133 (31.7%)	129 (30.8%)	32 (7.6%)	16 (3.8%)
古来から伝承している踊りや民俗芸能があること (例：古来の民俗芸能を継承している誇り / 神楽や舞い、民俗儀礼など)	81 (19.3%)	152 (36.3%)	130 (31.0%)	42 (10.0%)	14 (3.3%)
地域の誇りとなる祭りがあること (例：地域独自の祭りに対する誇り / 裸祭り、だんじり祭りなど)	95 (22.7%)	136 (32.5%)	128 (30.5%)	48 (11.5%)	12 (2.9%)
古代に文化や経済の中心地、交通の要衝であったこと (例：歴史上の中心地としての誇り / 古代吉備王国、平泉文化、京など)	81 (19.3%)	142 (33.9%)	138 (32.9%)	46 (11.0%)	12 (2.9%)
地域独自の生活スタイル(風習・方言など)があること (例：地域独自の生活習慣に関する誇り / 藩(藩校)における教え、茶の湯文化など)	63 (15.0%)	144 (34.4%)	150 (35.8%)	47 (11.2%)	15 (3.6%)
日本を代表するような産業(伝統工芸)があること (例：日本を代表する産業への誇り / 焼物、漆器、鋳物など)	98 (23.4%)	121 (28.9%)	140 (33.4%)	40 (9.5%)	20 (4.8%)

C：出雲地域

誇りと考えられるテーマ	1 誇りに 思う	2 やや思 う	3 分から ない	4 あまり 思わな い	5 思わな い
地域ゆかりの人、地域出身の偉人がいること (例：地域出身の偉人の考え方や生き様に対する誇り / 西郷隆盛など)	71 (24.7%)	119 (41.3%)	56 (19.4%)	32 (11.1%)	10 (3.5%)
歴史的な出来事が起こった地であること (例：歴史を変える出来事に関する誇り / 関が原の戦い、源平合戦など)	66 (22.9%)	86 (29.9%)	100 (34.7%)	31 (10.8%)	5 (1.7%)
文化や産業の発祥の地であること (例：歴史に残る文化や産業への誇り / 和歌発祥の地、杜氏発祥の郷など)	85 (29.5%)	117 (40.6%)	65 (22.6%)	17 (5.9%)	4 (1.4%)
古い町並みや建造物があること (例：古い町並みや建造物に関する誇り / 伝統的建造物群保全地区など)	104 (36.1%)	113 (39.2%)	45 (15.6%)	23 (8.0%)	3 (1.0%)
社寺・史跡等歴史的なものが残っていること (例：社寺・史跡等物的歴史に対する誇り / 歴史上の社寺、城跡など)	136 (47.2%)	100 (34.7%)	40 (13.9%)	11 (3.8%)	1 (0.3%)
神話や伝説の地であること (例：神話や伝説の里としての誇り / 天孫降臨の神話、義経伝説など)	186 (64.6%)	60 (20.8%)	32 (11.1%)	10 (3.5%)	0 (0.0%)
古来から伝承している踊りや民俗芸能があること (例：古来の民俗芸能を継承している誇り / 神楽や舞い、民俗儀礼など)	92 (31.9%)	104 (36.1%)	75 (26.0%)	16 (5.6%)	1 (0.3%)
地域の誇りとなる祭りがあること (例：地域独自の祭りに対する誇り / 裸祭り、だんじり祭りなど)	73 (25.3%)	102 (35.4%)	76 (26.4%)	28 (9.7%)	9 (3.1%)
古代に文化や経済の中心地、交通の要衝であったこと (例：歴史上の中心地としての誇り / 古代吉備王国、平泉文化、京など)	70 (24.3%)	82 (28.5%)	104 (36.1%)	27 (9.4%)	5 (1.7%)
地域独自の生活スタイル(風習・方言など)があること (例：地域独自の生活習慣に関する誇り / 藩(藩校)における教え、茶の湯文化など)	81 (28.1%)	119 (41.3%)	56 (19.4%)	28 (9.7%)	4 (1.4%)
日本を代表するような産業(伝統工芸)があること (例：日本を代表する産業への誇り / 焼物、漆器、鋳物など)	41 (14.2%)	85 (29.5%)	119 (41.3%)	32 (11.1%)	11 (3.8%)

D：宮崎・霧島地域

誇りと考えられるテーマ	1 誇りに 思う	2 やや思 う	3 分から ない	4 あまり 思わな い	5 思わな い
地域ゆかりの人、地域出身の偉人がいること (例：地域出身の偉人の考え方や生き様に対する誇り / 西郷隆盛など)	51 (25.5%)	73 (36.5%)	47 (23.5%)	23 (11.5%)	6 (3.0%)
歴史的な出来事が起こった地であること (例：歴史を変える出来事に関する誇り / 関が原の戦い、源平合戦など)	30 (15.0%)	57 (28.5%)	80 (40.0%)	29 (14.5%)	4 (2.0%)
文化や産業の発祥の地であること (例：歴史に残る文化や産業への誇り / 和歌発祥の地、杜氏発祥の郷など)	41 (20.5%)	59 (29.5%)	75 (37.5%)	24 (12.0%)	1 (0.5%)
古い町並みや建造物があること (例：古い町並みや建造物に関する誇り / 伝統的建造物群保全地区など)	44 (22.0%)	68 (34.0%)	55 (37.5%)	24 (12.0%)	9 (4.5%)
社寺・史跡等歴史的なものが残っていること (例：社寺・史跡等物的歴史に対する誇り / 歴史上の社寺、城跡など)	61 (30.5%)	80 (40.0%)	42 (21.0%)	15 (7.5%)	2 (1.0%)
神話や伝説の地であること (例：神話や伝説の里としての誇り / 天孫降臨の神話、義経伝説など)	109 (54.5%)	49 (24.5%)	29 (14.5%)	10 (5.0%)	3 (1.5%)
古来から伝承している踊りや民俗芸能があること (例：古来の民俗芸能を継承している誇り / 神楽や舞い、民俗儀礼など)	81 (40.5%)	79 (39.5%)	31 (15.5%)	6 (3.0%)	3 (1.5%)
地域の誇りとなる祭りがあること (例：地域独自の祭りに対する誇り / 裸祭り、だんじり祭りなど)	57 (28.5%)	73 (36.5%)	50 (25.0%)	17 (8.5%)	3 (1.5%)
古代に文化や経済の中心地、交通の要衝であったこと (例：歴史上の中心地としての誇り / 古代吉備王国、平泉文化、京など)	27 (13.5%)	50 (25.0%)	86 (43.0%)	30 (15.0%)	7 (3.5%)
地域独自の生活スタイル(風習・方言など)があること (例：地域独自の生活習慣に関する誇り / 藩(藩校)における教え、茶の湯文化など)	42 (21.0%)	81 (40.5%)	54 (27.0%)	18 (9.0%)	5 (2.5%)
日本を代表するような産業(伝統工芸)があること (例：日本を代表する産業への誇り / 焼物、漆器、鋳物など)	32 (16.0%)	58 (29.0%)	83 (41.5%)	21 (10.5%)	6 (3.0%)

- ・ 上記の他に、お住まいの地域の歴史・文化に対する「誇り」という内容について、自由記述を行っている。その一覧を示す。

	市町村	「誇り」という内容 ()内は回答数
A 北上川 流域	盛岡市	人の良さや思いやりがあるなどの人柄(13), 宮沢賢治や石川啄木など多くの文人がいる(9), 自然風景の豊かさや気候(8), わんこそばや盛岡冷麺などの食(7), 南部鉄器(6), 盛岡城や古い町並み(5), ちゃぐちゃぐ馬っこやさんさ踊り(4)
	一関市	平泉文化(5), 古い建物などの遺跡が多い(4)
	遠野市	四季折々の伝統行事(1)
	花巻市(旧花巻市)	宮沢賢治や高村光太郎(4), 「洗沢」や「御祝」(1)
	花巻市(旧石鳥谷町)	宮沢賢治や新渡戸稲造(1)
	北上市	古墳や神社などの史跡(3), 鬼剣舞などの伝統芸能(2), 義理人情(1)
	江刺市	藤原一族(1), 義経伝説(1), 神楽・剣舞(1)
	水沢市	後藤新平(1), 斎藤実(1), 高野長英の三偉人(1), 日高火防祭(1), 南部鉄器(1)
	胆沢町	人柄(1)
	紫波町	方言(1), 鋳物(1), キリストの墓(1), 太鼓祭り・さんさ踊り(1)
	平泉町	藤原氏(1), 有名な寺院(1)
	矢巾町	文化財や古墳(1)
	玉山村	啄木の里(1)
	滝沢村	チャグチャグ馬っ子(6), さんさ踊り(1), 岩手山(1)
	石巻市	祭りがある(2), 協力的・繋がりが濃いなどの人柄(2), 硯(1), 造船技術(1), 逆さ和尚(1), 石森章太郎(1), 地域紙が多い(1)
登米市	三代目横綱(1), 伝統を重んじる(1), 上棟式や正月(1)	
B 岡山 地域	岡山市	備前焼(7), 岡山城や歴史的な建物など(6), 桃太郎伝説(4), 後楽園(3), 裸祭り(3), 自然環境(3), ちくわ笛名人(1), 大原聡一郎(1), 宇喜田秀家(1)
	倉敷市	美観地区の町並み(12), 大原美術館(8), 吉備王国(3), 桃太郎(3), 織維の町(2), すいきょん祭り(1), 乙島祭り(1)
	津山市	桜の名所である鶴山公園(4), 独自の祭りや馴染みのお国言葉(1), 蘭学等の発祥地(1)
	玉野市	自然や気候(3), 備前焼(1), 造船業(1)
	笠岡市	カプトガニ(3), ひったか・おしぐらんご(1)
	井原市	著名な人(1)
	総社市	鬼ノ城(5), 吉備王国(4), 雪舟(4), 国分寺や古墳・遺跡(4), 良寛(1)
	高梁市	日本一高い山城(2), 木野山神社のおおかみさま(1)
	新見市	日本一の親子孫水車(1), 大名行列(1)
	備前市	備前焼(6), 閑谷学校(4), 文化祭(1), 水産加工品(1)
	瀬戸内市	竹下夢二(2), 備前長船の名刀(1), 吉井川(1)
	赤磐市	古墳群(2), つちのこ(1), 白桃(1)
	真庭市	町並み(2), 牛市(1), だんじり喧嘩(1)
	美作市	宮本武蔵(2), 温厚な雰囲気(1)
	建部町	祭り(1)
	瀬戸町	岡山弁(1)
	鴨方町	国立天文台(1), そうめん作り(1)
	寄島町	厚岸草(1)
	里庄町	仁科博士(1)
	矢掛町	大名行列(1)
	鏡野町	地域のつながりが強い(1)
勝央町	金太郎(1), 坂田の金時(1)	
奈義町	横仙歌舞伎(1)	

	市町村	「誇り」と思う内容 ()内は回答数
C 出雲地域	松江市	出雲大社や出雲神話(11),城下町・武家屋敷の町並み(8),城下町・武家屋敷の町並み(8),茶の湯(7),小泉八雲(6),松平不昧公(3),
	出雲市	出雲大社や出雲神話(22),神在月(3),方言(3)
	安来市	安来節発祥の地(2),製鉄(1),神話(1)
	雲南市	円通寺(1),須賀神社(1),加茂遺跡(1)
	奥出雲町	神在月(1)
	東出雲町	干し柿(1),かまぼこ(1)
	斐川町	遺跡・史跡(1)
	境港市	ゲゲゲの鬼太郎(4),日本一の漁港(4),水木しげる(1),宮川大介(1),名和長年(1)
	米子市	商都として栄えた(5),妻木晩田遺跡などの史跡(3),民話や神話(3),大山など(2)
	大山町	後醍醐天皇(2),祭り(1)
	日南町	製鉄の産地(1)
伯耆町	小野小町(1)	
D 宮崎・霧島地域	宮崎市(旧宮崎市)	神話や伝説が多い(10),鬼の洗濯岩や海などの自然(8),宮崎神宮や古墳群などの史跡(5),高千穂の神楽など伝統芸能(4),地鶏や焼酎などの食(4),独自の県民性など(4)
	宮崎市(旧田野町)	雨太鼓(1)
	宮崎市(旧佐土原町)	くじら羊羹(2),城下町の風情(1),佐土原人形(1),曽我兄弟(1)
	西都市	古墳群(1),自然(1)
	都城市(旧都城市)	弓(5),焼酎(3),島津家発祥の地(2)
	都城市(旧高城町)	古来の遊び(1)
	日南市	飫肥城(1),小京都(1)
	高原町	天孫降臨の地である「高天原」(1)
	高千穂町	天孫降臨の地などの神話(2),神楽(2),高千穂峡(1)
霧島市	浜下り(大名行列)(1)	

誇りを持ってないと考えられる理由について

- ・ 地域に誇りをもてない理由については、「地域のことを良く知らないため」、「地域の誇りとなるような歴史・文化等の資源がないため」、「地域のことにに関して興味が無いため」がそれぞれ同程度挙げられている。
- ・ 地域別に大きな違いは見られないが、居住年数別に見ると、居住年数が短い回答者は、「地域のことを良く知らないため」を、居住年数が長い回答者は、「地域の誇りとなるような歴史・文化等の資源がないため」を、誇りを持ってないと考えられる理由として挙げる人が多い。

【地域別】

	全体	北上川 流域	岡山 地域	出雲 地域	宮崎・霧島 地域
地域のことをよく知らないため。	134 (32.1%)	18 (27.7%)	58 (30.1%)	22 (32.4%)	36 (39.6%)
地域の誇りとなるような歴史・文化等の資源がないため。	130 (31.2%)	20 (30.8%)	60 (31.1%)	20 (29.4%)	30 (33.0%)
地域のことにに関して興味が無いため。	131 (31.4%)	24 (36.9%)	66 (34.2%)	19 (27.9%)	22 (24.2%)
その他（自由記述）	22 (5.3%)	3 (4.6%)	9 (4.7%)	7 (10.3%)	3 (3.3%)

【居住年数別】

	全体	5年 未満	5～ 9年	10～ 19年	20～ 29年	30～ 39年	40年 以上
地域のことをよく知らないため。	134 (32.1%)	77 (50.7%)	26 (40.6%)	18 (22.8%)	8 (13.3%)	4 (9.3%)	1 (5.3%)
地域の誇りとなるような歴史・文化等の資源がないため。	130 (31.2%)	28 (18.4%)	18 (28.1%)	27 (34.2%)	22 (36.7%)	23 (53.5%)	12 (63.2%)
地域のことにに関して興味が無いため。	131 (31.4%)	38 (25.0%)	17 (26.6%)	32 (40.5%)	25 (41.7%)	13 (30.2%)	6 (31.6%)
その他（自由記述）	22 (5.3%)	9 (5.9%)	3 (4.7%)	2 (2.5%)	5 (8.3%)	3 (7.0%)	0 (0.0%)

【これまでの居住地別】

	全体	A	B	C	D
地域のことをよく知らないため。	134 (32.1%)	9 (14.8%)	12 (11.0%)	112 (46.7%)	1 (14.3%)
地域の誇りとなるような歴史・文化等の資源がないため。	130 (31.2%)	23 (37.7%)	58 (53.2%)	46 (19.2%)	3 (42.9%)
地域のことにに関して興味が無いため。	131 (31.4%)	25 (41.0%)	34 (31.2%)	71 (29.6%)	1 (14.3%)
その他（自由記述）	22 (5.3%)	4 (6.6%)	5 (4.6%)	11 (4.6%)	2 (28.6%)

「A．生まれてからずっと現在の居住地(地域)に住んでいる。」「B．一度他所の地域に出ていた(就学や就職などで)が、現在の居住地(地域)に戻ってきた。」「C．他所の地域から現在のところに引っ越してきた。」「D．その他(具体的に記述)」

テーマ別にみた誇りが他の人と共有できると考えられる範囲について

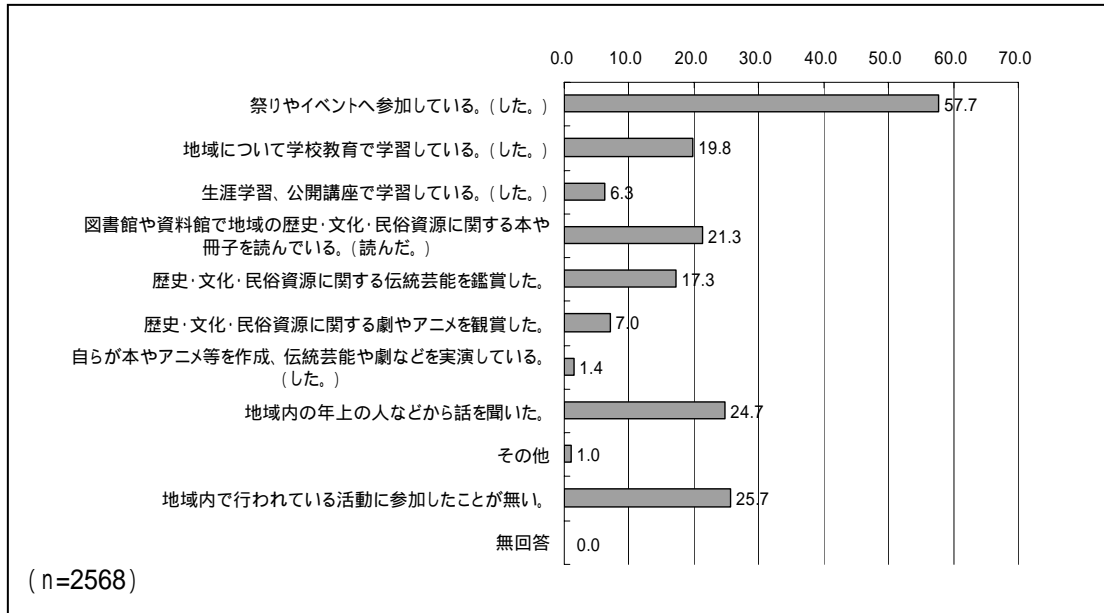
- ・ テーマ別に挙げた誇りの内容について、他の人と共有できると考えられる範囲については、ほとんどのテーマで、「住んでいる都道府県の範囲」を共有できる範囲として考えられている。
- ・ 「地域ゆかりの人、地域出身の偉人がいること」及び「古い町並みや建造物があること」、「社寺・史跡等歴史的なものが残っていること」、「地域の誇りとなる祭りがあること」については、「住んでいる市町村程度の範囲」を共有できる範囲として考えている人も多い
- ・ 「神話や伝説の地であること」については、「全国規模」とらえている人も約20%と共有できる範囲が広いことが分かる。

- (あ) 住んでいる小学校区程度の範囲
 (い) 住んでいる市町村程度の範囲
 (う) 住んでいる市町村及び周辺市町村程度の範囲
 (え) 住んでいる都道府県の範囲
 (お) 住んでいる地域ブロック(東北、中国、九州)程度の範囲
 (か) 全国規模
 (き) 古来の藩や国の範囲
 (く) わからない

誇りと考えられるテーマ	(あ)	(い)	(う)	(え)	(お)	(か)	(き)	(く)
地域ゆかりの人、地域出身の偉人がいること	27 (3.4%)	188 (23.4%)	174 (21.7%)	240 (29.9%)	13 (1.6%)	122 (15.2%)	7 (0.9%)	31 (3.9%)
歴史的な出来事が起こった地であること	17 (3.0%)	103 (18.3%)	147 (26.1%)	158 (28.0%)	31 (5.5%)	57 (10.1%)	9 (1.6%)	42 (7.4%)
文化や産業の発祥の地であること	17 (2.4%)	132 (18.5%)	163 (22.8%)	221 (31.0%)	32 (4.5%)	87 (12.2%)	4 (1.0%)	55 (7.7%)
古い町並みや建造物があること	42 (5.1%)	207 (25.1%)	188 (22.8%)	201 (24.4%)	56 (6.8%)	94 (11.4%)	7 (0.5%)	33 (4.0%)
社寺・史跡等歴史的なものが残っていること	41 (4.6%)	201 (22.5%)	175 (19.6%)	256 (28.6%)	61 (6.8%)	120 (13.4%)	11 (1.2%)	29 (3.2%)
神話や伝説の地であること	31 (3.9%)	104 (13.2%)	138 (17.6%)	276 (35.1%)	31 (3.9%)	165 (21.0%)	14 (1.8%)	27 (3.4%)
古来の伝承している踊りや民俗芸能があること	39 (5.1%)	151 (19.7%)	165 (21.6%)	255 (33.3%)	43 (5.6%)	68 (8.9%)	5 (0.7%)	39 (5.1%)
地域の誇りとなる祭りがあること	46 (6.4%)	196 (27.3%)	149 (20.8%)	219 (30.5%)	36 (5.0%)	50 (7.0%)	2 (0.3%)	20 (2.8%)
古代に文化や経済の中心地、交通の要衝であったこと	21 (3.6%)	115 (20.0%)	130 (22.6%)	175 (30.4%)	41 (7.1%)	56 (9.7%)	10 (1.7%)	28 (4.9%)
地域独自の生活スタイル(風習・方言など)があること	31 (4.6%)	118 (17.6%)	173 (25.9%)	222 (33.2%)	45 (6.7%)	49 (7.3%)	5 (0.7%)	26 (3.9%)
日本を代表するような産業(伝統工芸)があること	16 (2.7%)	92 (15.7%)	112 (19.1%)	210 (35.8%)	37 (6.3%)	90 (15.4%)	2 (0.3%)	27 (4.6%)

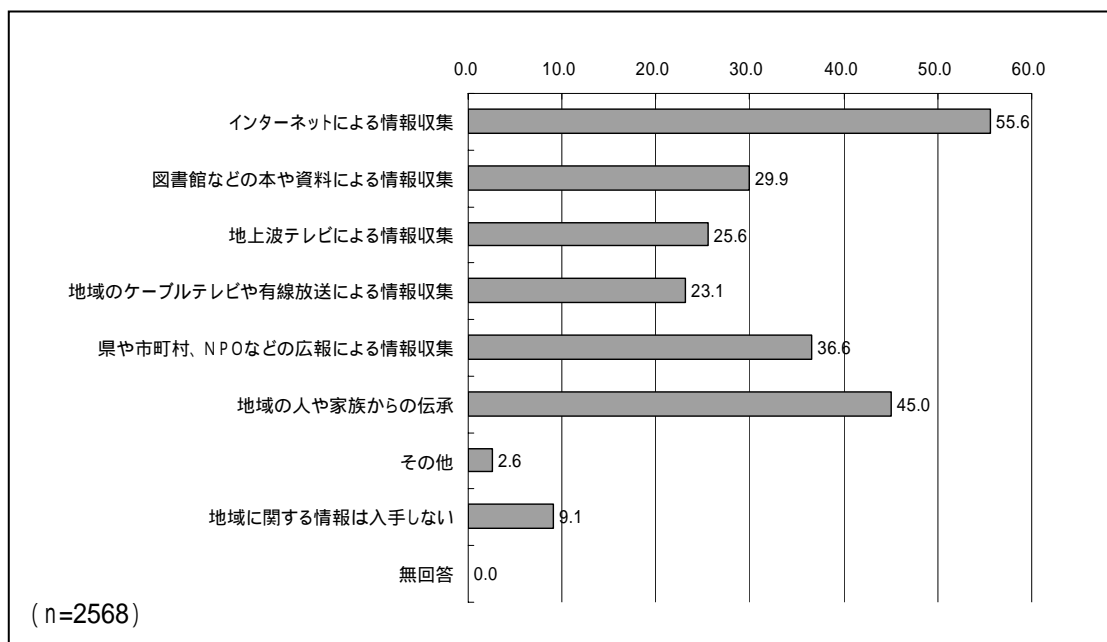
地域内で行われている様々な活動への参加状況

- ・ 地域内で行われている活動への参加状況を見ると、「祭りやイベントへ参加している（した）」人が最も多く、次いで、「地域内の年上の人などから話を聞いた。」「図書館や資料館で地域の歴史・文化・民俗資源に関する本や冊子を読んでいる（読んだ）」となっている。
- ・ 一方で、「地域内で行われている活動に参加したことがない」回答者も全体の25%を占めている。



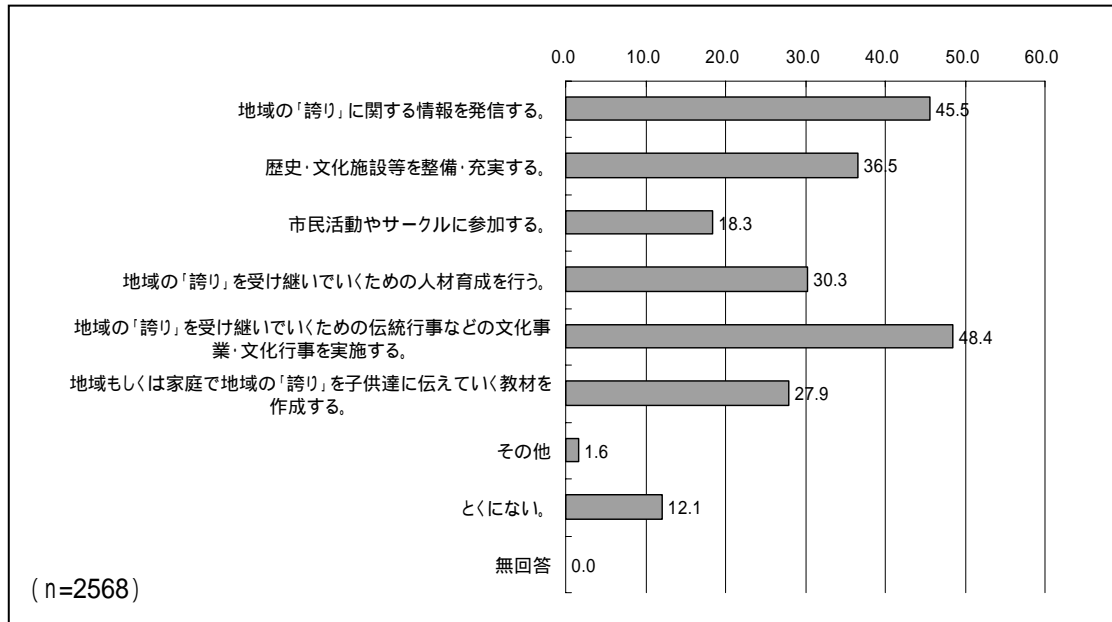
地域内の情報を入手する方法

- ・ 地域内の情報を入手する方法として最も多いのは、「インターネットによる情報収集」である。次いで、「地域の人や家族からの伝承」であり、「県や市町村、NPOなどの広報による情報収集」、「図書館などの本や資料による情報収集」と続く。
- ・ 一方で、「地域に関する情報を入手しない」回答者も全体の1割弱を占めている。



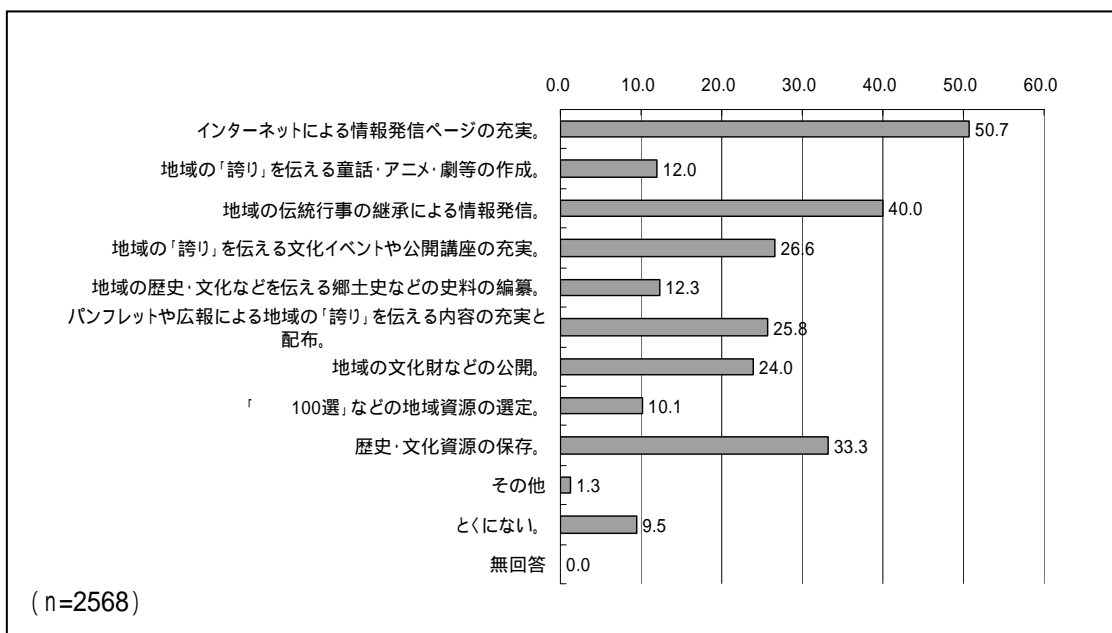
地域に伝わる歴史・文化に「誇り」を持つために必要なこと

- ・ 地域に伝わる歴史・文化に「誇り」を持つために必要なこととして、「地域の「誇り」を受け継いでいくための伝統行事などの文化事業・文化行事を実施する」、「地域の「誇り」に関する情報を発信する」が多く、次いで「歴史・文化施設等を整備・充実する」となっている。
- ・ 第2章で実施した都道府県アンケート調査での取り組み内容と比較すると、現在実施されている内容と市民が求めている内容とに大きな差異は見られない。



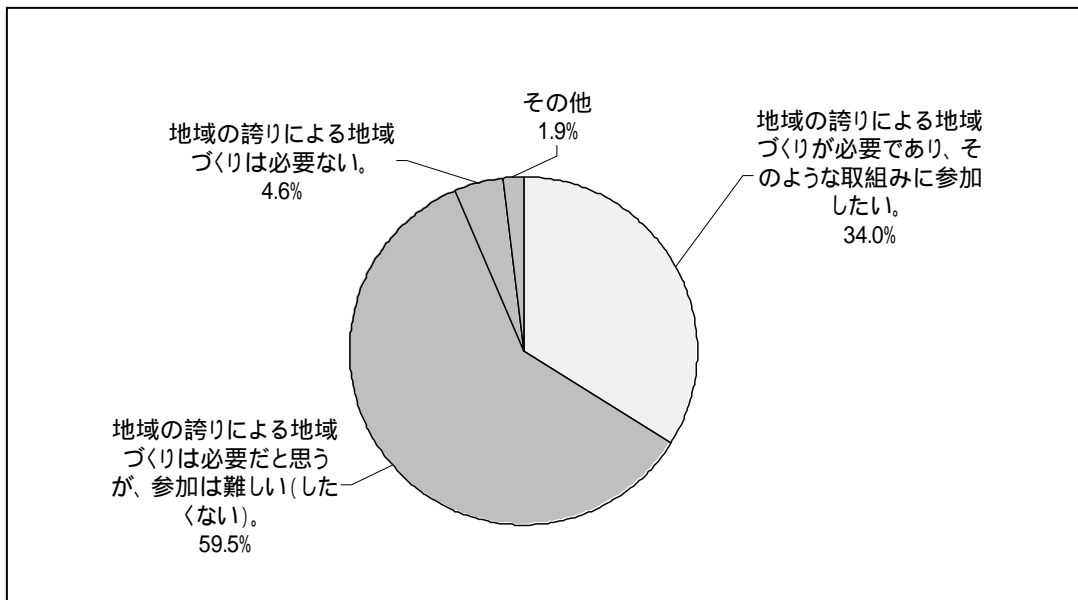
地域の誇りを情報発信していく上で必要なこと

- ・ 地域の誇りを情報発信していく上で必要なこととして、「インターネットによる情報発信ページの充実」が最も多く回答者は約半数となっている。
- ・ 次いで、「地域の伝統行事の継承による情報発信」、「歴史・文化資源の保存」を行うことが、重要な情報発信手段となることもアンケート結果から得られている。



地域の誇りによる地域活動への参加意向

- ・ 地域の誇りによる地域づくりへの参加意向について、これら地域づくりが必要であるとの回答者は全体の9割超となっている。
- ・ 一方で、「地域の誇りによる地域づくりは必要だと思うが、参加は難しい(したくない)」との回答が全体の約6割を占めるなど、地域づくりの必要性と地域づくりへの参加意向とが必ずしも一致しない状況にある。



3 - 4 モデル調査における歴史的地域プライドによる地域づくりの実態

(1) モデル地域における地域づくりの実態

東中国地域

ヒアリング調査結果から、東中国地域においては、岡山地域と出雲地域でそれぞれの地域が地域固有の歴史的地域プライドをもって、地域内での取り組みを実践している。これは、瀬戸内海側を中心とした岡山地域、日本海側を中心とした出雲地域といった風土や気候が異なることも大きな要因であることも考えられ、歴史的な地域プライドを考える際に、その地域の風土や気質と切り離して考えることができないことがいえる。

また、岡山地域を見ると、共通するテーマ（例えば、山田方谷など人物にゆかりのある地域における地域づくりの連携・交流）での連携が図られている。

出雲地域については、古代出雲、神話を背景とした精神文化が、出雲地域の歴史的地域プライドとして共有できている。地域づくりへの取り組みをみると、同じ出雲神話であっても、斐伊川を中心としたヤマタノオロチ伝説、須佐神社などを中心としたスサオノ伝説、出雲大社と大国主命を中心とした伝説など、それぞれの固有の神話を中心に地域の誇りとして地域づくりへ展開している。

東九州地域

東九州地域における歴史的地域プライドは、地形や地勢、気候等の風土と人類が築き上げた歴史から、大分県圏域、宮崎県北部圏域、宮崎県中部から鹿児島にかけた圏域の3つに区分される。

大分県圏域では、各地域で先人、郷土芸能、地場産業などがさまざま存在している。特に、県東部の国東半島などの地域では、東九州としての圏域に加え、瀬戸内海をも圏域として考えられ、九州全域や東九州地域としての歴史的地域プライドの共有よりも、瀬戸内海域としての歴史的地域プライドの共有の方が考えられる。これは、国東半島を中心とした四国との地域の結びつきなど、地域間の交流の歴史から伺うことができる。

宮崎県北部圏域は、宮崎県北協議会が立ち上がり、神話をテーマにひむか神話街道の広域的展開が具現化している。

宮崎県中部から鹿児島にかけた圏域は、神話をテーマとしたプライドと、人類が築き上げた歴史・文化（島津氏、伊東氏）によるプライドが共存しており、各プライドの共有範囲も市内や市内の地区単位と狭くなっている。

北上川流域地域

北上川流域地域では、北上川を軸として、その水資源や水運、東西を山々に囲われた風土などを礎にして、歴史・文化が形成されてきていることは事実であり、流域地域の共通認識といえる。

歴史的地域プライドとしては、各地域で先人、郷土芸能、地場産業などが様々であるが、北上川を軸として各地域の歴史的地域プライドを発信することにより、各先人等の精神の源を発掘し、北上川流域人としてのプライド形成を図るとともに、北上川流域地域の一連となる地域づくりの可能性が考えられる。

(2) モデル地域の市町村における歴史的地域プライドの現状と歴史的地域プライドによる地域づくりへの展開の実態

歴史的地域プライドの実態

各々の地域の歴史・文化資源のうち、現在においても生活と密着な関係があるもの（偉人の教えや神楽などの民俗芸能）でないと衰退しているものが多い。また、1つの歴史的プライドに、別の時代の歴史的プライドが重なっていることで、地域として精神的な統一感を共有しにくい状況となっている。

歴史的地域プライドは、地域の住民にとっては身近で当たり前のことであるため、その大切さなどが分かりにくい。外部からの評価や自らが外に行くことによって気がつくことができる。また、神話・伝説などは遺跡の発見など史実と結びつくことが地域プライドとなるきっかけとなる。

歴史的地域プライドに対する継続的な体験や学習が必要であり、小中学生や高齢者は学校教育や生涯学習活動の中でこれらプライドに触れることができるが、高校、大学の段階で地域から外に出て行くことが多く、年齢的なつながりが途切れてしまう。

なお、地域の誇りとするものが、全国的に知名度の低いものであっても、地域独自の考え方といった「独自性」が地域住民の意識に共有できているものであれば、歴史的地域プライドとして形成されている。また、偉人など、地域にゆかりがあるだけでは歴史的地域プライドとして醸成されにくく、地域と偉人との密接な関係が地域住民に感じられて初めて、歴史的地域プライドとして認知されてものとなる。

歴史的地域プライドによる地域づくりを進めていく場合の視点

歴史的地域プライドが形成されている地域では、地域住民や顕彰団体・保存団体等、市民が中心となった取り組みが行われており、行政はその支援（財政、コーディネート、環境インフラ整備）が中心となった取り組みを行っている。

また、地域プライドによる地域づくりの潮流づくりには、求心力あるきっかけづくり（世界遺産登録運動、重要文化財への指定など）が大きな要因となりうる。

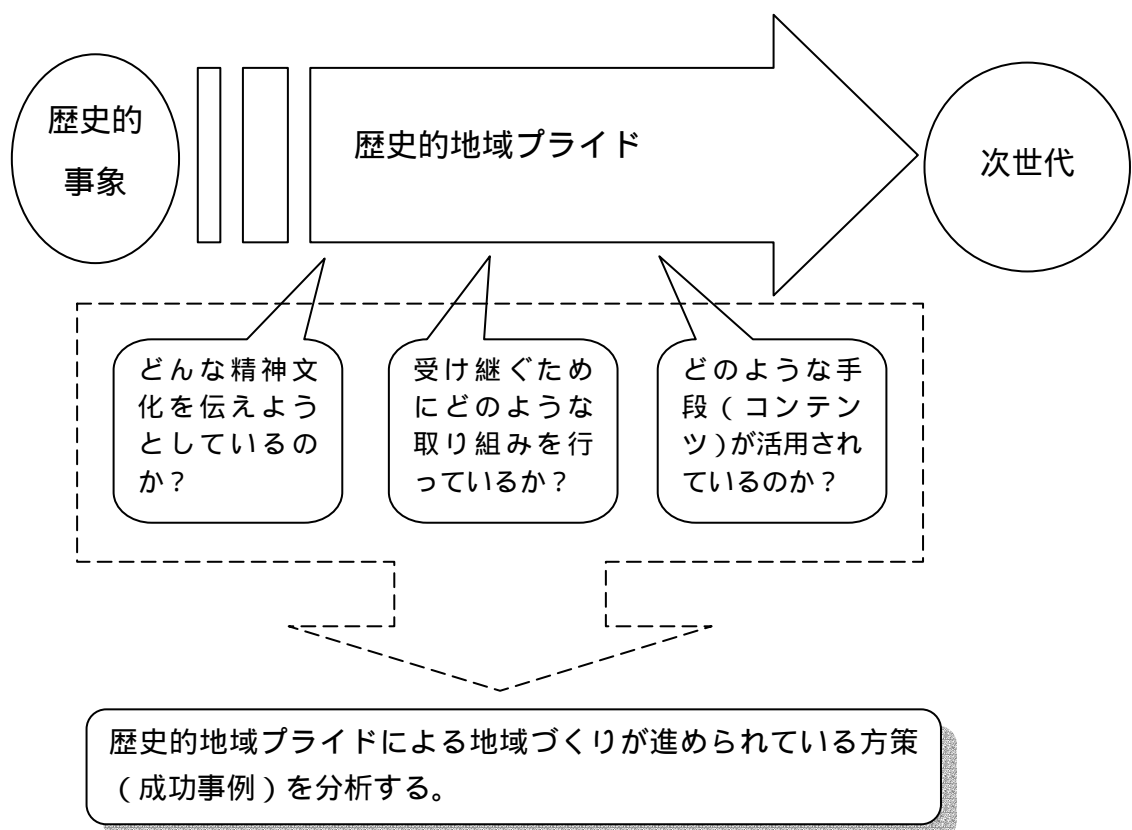
第4章 歴史的地域プライドによる地域づくりの推進方策

4 - 1 歴史的地域プライド事例分析

(1) 歴史的地域プライドの内容

第2章の全国調査及び第3章のモデル調査を通じて、日本全国のどの地域を見ても、数限りない歴史的、文化的な資源が蓄積されていることが分かる。その中でも、これら資源が単に残っているだけではなく、その背景には歴史的、文化的な出来事等が存在し、地域の人々の誇りや地域独自の精神文化となり、受け継がれ、これらを核に地域づくりに結びついている地域が存在する。

本章では、このような地域プライドによる地域づくりを展開している事例に着目し、地域の誇るべき精神がどのようなもので、その精神を受け継いでいくためにどのような取り組みを行っているのか、それが人づくり、まちづくりにいかに係っているのかを整理する。



どのようなことが歴史的地域プライド（精神文化）となっているか？

実態調査等で整理した歴史的地域プライドについて、地域の住民が共通の認識を有している理由や、守り育て受け継ぐ行為の背景を分類すると、次の6通りに分類できる。

分類	内容
1. 偉人に対する尊敬	<p>地域のために多大な貢献をした偉人の思想や教えなどを誇りとして、そのゆかりの偉人に対する感謝や尊敬を現在まで受け継いでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二宮尊徳（栃木県二宮町） ・ 中江藤樹（滋賀県高島市（旧安曇川町）） ・ 山田方谷（岡山県高梁市） ・ 福沢諭吉（大分県中津市） ・ 三浦梅園（大分県国東市（旧安岐町））
2. 先人の行為に対する感動	<p>主に土木事業など、地域の発展に多大な貢献を果たした先人を顕彰し、その先人達によって作られたものを守り受け継いでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 五庄屋伝説（福岡県うきは市） ・ わらじ村長（宮城県高崎市（旧鹿島台町）） ・ 千田左馬（岩手県奥州市（旧前沢町））
3. 地域の思想として共感	<p>乱世の時代での平和社会への思いや、江戸時代の藩の教育理念などを誇りとして、現代の生活のなかで受け継いでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 凌霜の精神（岐阜県郡上市） ・ 日新館の教え（福島県会津若松市） ・ 火伏の虎舞（宮城県加美町） ・ 稲村の火（和歌山県広川町） ・ 島津日新公のいろは歌（鹿児島県南さつま市（旧加世田市））
4. 生活風習・礼儀作法	<p>地域独自の生活風習や礼儀が現在においても生活の一部として定着している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お茶文化（島根県松江市） ・ 白石踊り（岡山県笠岡市） ・ 恩納ナビ（沖縄県恩納村）
5. 歴史的な中心地としての誇り	<p>かつての政治・経済・産業の中心地として、その地域が輩出・創出した先人の形跡や産品を誇りとして守り受け継いでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南部杜氏（岩手県花巻市（旧石鳥谷町）） ・ 奥州藤原文化の保存（岩手県平泉町） ・ 旧後藤家商家交流資料館（宮崎県都城市（旧高城町））
6. 神話や伝説の地としての誇り	<p>神話や伝説を地域の誇りとして語り受け継いでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひむか神話（宮崎県全域） ・ 国造り神話（島根県出雲地方） ・ 温羅伝説（岡山県総社市）

コンテンツの内容

歴史的地域プライドを守り育て、受け継ぐために活用されているコンテンツを以下に整理する。

	分類	コンテンツ
教育システム	1. 就学前教育 <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びの中での学習 ・ 歌として学習 ・ 映像コンテンツによる学習 	絵カルタ <ul style="list-style-type: none"> ・ 石見銀山遺跡を伝える絵カルタ（島根県大田市） ・ いろは歌カルタ（鹿児島県南さつま市） ・ 諭吉カルタ（大分県中津市） アニメ <ul style="list-style-type: none"> ・ 長編アニメ「アテルイ」（岩手県、シネマとうほく） ・ 堂之上遺跡紹介アニメ（岐阜県高山市） 童謡、歌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新民謡「チャグチャグ馬コ」（岩手県滝沢村） ・ 「梅園先生をたたえる歌」（大分県国東市（旧安岐町）） 絵本 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「稲むらの火 濱口梧陵の話」（和歌山県広川町、わかやま絵本の会） ・ 「黄泉比良坂」（島根県東出雲町）
	2. 学校教育 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的学習としての教材 ・ 社会見学 	教科書副読本、小学生用読本 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「田んぼをつくった水の道～北海幹線用水路物語」（北海道空知地域） ・ ふるさと読本「いずも神話」（島根県） ・ 「少年少女のための梅園先生」小冊子（大分県国東市（旧安岐町）） ・ 玉湯なんでも大事典（島根県松江市（旧玉湯町）） 紙芝居 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道仏神楽の由来を伝える紙芝居（青森県階上町） ・ 「後藤新平絵物語」（岩手県水沢市） ・ 「野国總管物語」（沖縄県嘉手納町） 漫画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「まんが小村寿太郎 日本が生んだ世紀の外交官」（宮崎県日南市） ・ 「斉藤憲三ものがたり」（秋田県にかほ市） ・ 「酒田に本間光丘あり」（山形県酒田市） ・ まんが「山田方谷伝記」（岡山県高梁市）
	3. 地域教育・活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習としての展開 ・ 保存会、研究会による保存・継承活動 ・ NPO活動による展開 	映画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「近江聖人中江藤樹」（滋賀県高島市（旧安曇川町）） ・ 「バルトの楽園」（徳島県鳴門市） テキスト、地域事典 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「白石踊り伝承者養成テキスト」（岡山県笠岡市） ・ 「大社まちかど百花」（島根県出雲市（旧大社町）） 公開講座、市民講座 体験型ワークショップ 機関誌発行

分類	コンテンツ
<p>4. 芸能、祭り・イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神楽や祭りの継承、顕彰活動 ・ 民俗芸能の実演(観光イベントや他地域イベントへの参加) ・ 地域の歴史を創作オペラや創作劇で展開 	<p>ビデオ、DVDへの記録、HPによる公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 祭りや伝統芸能、伝統技術(たたら製鉄)等のビデオ等への保存 ・ 祭りや伝統芸能、伝統技術等の記録動画をHPにより公開 <p>神楽イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリジナル宇治田楽(京都府宇治市) ・ スサノオスピリット(島根県出雲市(旧佐田町)) <p>創作オペラ、ミュージカル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オペラ支倉常長「遠い帆」(宮城県石巻市) ・ 「細川ガラシャ物語」(京都府長岡京市) ・ ミュージカル「銀河鉄道の夜」(岩手県花巻市) <p>市民創作劇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町民劇場「千田左馬物語 いのちの水」(岩手県奥州市(岩手県奥州市(旧前沢町)) ・ 演劇「華岡青洲の妻」(和歌山県紀ノ川市) ・ 市民劇団「温羅」(岡山県総社市)
<p>5. 研究・調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源、観光資源としての広報 	<p>パンフレット、広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「もう一つの温羅伝説」(岡山県総社市他) ・ ひむか神話街道50の物語集、100の伝承地マップ(宮崎県) ・ ガイドブック「どこにしようよ、そこがドイツだ」(徳島県鳴門市) <p>HPによる公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みやざきひむか学ネット(宮崎県教育研修センター) ・ デジタル岡山大百科(岡山県立図書館) ・ あいち地域資源デジタルアーカイブ(愛知県) <p>調査報告書、市町村誌</p>
<p>6. 産業・観光化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地場産業、伝統工芸とのマッチング ・ キャラクター化 ・ 商品開発 	<p>観光パンフレット、広報、HP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村、各種施設のパンフレット ・ 大和路アーカイブ(奈良県観光情報) <p>商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「伊能歌舞伎米」(千葉県成田市(旧大栄町)) ・ 神楽グッズ(大分県由布市(旧庄内町)) <p>キャラクター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 硯のけんちゃん(宮城県石巻市) ・ 町のイメージキャラクター「スサノオ」(島根県出雲市(旧佐田町))

歴史的地域プライドとして受け継がれてきている理由

実態調査等から歴史的地域プライドが受け継がれてきている仕組みについて分類すると、次の6通りに分類できる。

分類	内容
1. 一貫した地域教育システムがつけられている	<p>歴史的地域プライドを受け継いでいく人材を育てるため、歴史的地域プライド自体を学校教育や生涯学習のプログラムに組み込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中江藤樹（滋賀県高島市（旧安曇川町）） <p>…副読本に藤樹先生の教えを盛り込むとともに、小学3年生を対象とした「立志祭」や「新春書き初め奉納」を実施。また市民対象に「中江藤樹フォーラム」や「藤樹先生書道展」の開催、映画「近江聖人中江藤樹」の製作などを行い、教えを受け継ぐ</p> ・ 平成遣欧少年使節海外派遣事業（宮崎県西都市） <p>…天正遣欧少年使節団として13歳にしてローマに赴き、法王に謁見した偉業を成し遂げた伊東満所の功績を受け継ぐため、毎年、市内中学生2名をヨーロッパに派遣し、伊東満所の精神を体験させる取り組みを実施。</p> <p>行政方針や教育方針に掲げている。</p> ・ 凌霜の精神（岐阜県郡上市） <p>…「凌霜の精神（厳しさ、我慢を乗り越える精神）」を合併新市の教育方針の柱として掲げる。</p>
2. 人材や組織が存在し積極的に活動している	<p>守り育てていこうとする人材や組織が存在し、活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NPO高城歴史文化のまちづくりフォーラム（宮崎県都城市（旧高城町）） <p>…地域の象徴として旧後藤家商家保存を保存するとともに、クラシックコンサート、落語会、なんこ（酒の席のゲーム）大会、雛人形展等、楽しみながら文化の伝承に取り組む。</p> ・ 町民劇場（岩手県奥州市（旧前沢町）） <p>…先人の功績を守り受け継ぐため、町民自らが自作自演する演劇に取り組む。</p> ・ 火伏の虎舞（宮城県加美町） <p>…毎年4月末の祭りに向け消防団員が小学校高学年生に指導しながらお囃子や舞とともに、防火の精神を守り受け継ぐ。</p>
3. 対外的評価が与えられ住民の意識が高揚している	<p>歴史的地域プライドの象徴であるものが対外的に評価されることにより、地域の住民にも一層認識されるようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 白石踊り（岡山県笠岡市） <p>…島民ならば誰でも踊れるという共有意識や外部機関からの評価、無形重要文化財指定が誇りの要因ともなる。</p> ・ 平泉遺跡（岩手県平泉町） <p>…保存状態が優れていることに対する対外的評価が加わり、これまでに増して歴史的資源を守るという町民意識が高揚している</p>

分類	内容
4 . 現代人の生活スタイルに合わせて様式・様態の変化させている	<p>若者も興味を持てるよう変容させている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいづっこ宣言（福島県会津若松市） ...「日新館の教え」を現代版にアレンジするとともに、副読本もテーマごとにビジュアルに作成するなど、幼少の頃から生活と密着したものとなる ・ いろは歌カルタ（鹿児島県南さつま市（旧加世田市）） ...薩摩の郷中教育の基本書としての「日新公いろは歌」を小中学生にも受け入れやすくするため、カルタを作成している。年に一度はカルタ大会を実施している
5 . 他地域との情報共有により価値を明確に示している	<p>関連する他の地域との連携し、一体となり歴史的地域プライドを守り育てている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報徳サミット（小田原市、二宮町他） ...財政再建や農村振興に大きな功績を残した二宮尊徳の「報徳精神」を顕彰するため、報徳サミットを開催し、交流を深めている。
6 . 継続的な取り組みを可能とする経済基盤が整っている	<p>地場産業との連携や観光資源として展開することにより、経済的基盤を整えながら受け継がれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南部杜氏（岩手県花巻市（旧石鳥谷町）） ...酒造りの道具が重要民俗文化財に指定されるとともに、「冬の出稼ぎ」イメージから全国に誇れる人材輩出の地として町民の意識高揚を図る。

4 - 2 歴史的地域プライドによる地域づくりの視点整理

(1) 歴史的地域プライドが表出した形（祭りや芸能、町並みなど）を、その地域に正しく残すことの重要性：場所性

歴史的地域プライドは、“精神”文化であるため、プライド自体は目には見えないものの、祭りや伝統芸能、町並みといった、目に見える形（精神文化が表出した形）で受け継がれている場合が多い。一方で、“精神”文化そのものは、その地域に住む人が、その地域で生活する上で心の拠り所になるものであり、場所や位置関係、気候などの自然環境とも密接に関係している場合が多く、まさに、地域固有の“精神”文化であるといえる。したがって、これら“精神”文化が表出した形はその地域でないと歴史的地域プライドとしての意味を成さないものである。

これまでの地域づくりにおいては、ある地区での成功事例を参考にして、良く似た形のもので創作したり、模して実施したりしてきた。しかし、これら似せて創作したり、模したりしたものは、精神文化が表出した“形”のみであり、その根底にある精神文化を別の場所で受け継ぐことはできないと言える。つまり、地域固有の“精神”文化はその地域で守り受け継ぐことに意味があり、守り受け継ぐという行為は、その地域に住む人の義務であるとも言えることができる。

また、その地域で守り受け継ぐためには、歴史的地域プライドに関する情報・資料を集約して整理することも重要である。あらゆる方向からのあらゆる情報が氾濫する時代において、真に守り受け継ぐべき情報が整理されていないと、地域の次世代へ伝えることが難しく、まずは、情報収集・情報整理に取り掛かることが重要なポイントである。

(2) 歴史的地域プライドの醸成には時間がかかるものであり、時間をかけて受け継いでいくことで価値が高まり、地域づくりへの成果が表れる：時間軸

歴史的地域プライドによる地域づくりを進める上で、その地域に住む人がその精神文化を理解し、納得することが不可欠であり、精神文化を強要するものではない。さらに、歴史的地域プライドを守り受け継ぐ“人”を育てることが重要なことであり、じっくりと地道な取り組みを進めていくことが、その地域の精神文化に基づく個性ある“人”づくりにつながり、これにより地域が一丸となった人間力、地域力を発揮できるようになると考えられる。

また、歴史的地域プライドは地域の「文化資本」として捉えることができる。「文化資本」とは、使えば使うほど価値がなくなる（減価償却する）一般的な投資資本と異なり、使えば使うほど、続ければ続けるほどその価値が上昇する可能性を秘めたものである。歴史的地域プライドを「文化資本」として守り受け継ぐ取り組みを続けることにより、その価値が向上し、地域の自治への一助ともなる。

様々な取り組みを行う上で、近年の国及び地方の財政事情等から、費用対効果など成果が見える取り組みを行うことが求められているが、歴史的地域プライドによる地域づくりを進めることに関しては、短期的な成果や効果を期待するのではなく、時間をかけて取り組んでいくことが重要なポイントである。

(3) 地域づくりへ継続・発展させるための4つの要素

歴史的な地域プライドを守り受け継ぎながら地域づくりを行うためには、上述した「場所性」と「時間軸」の視点に加え、次の4つの要素が互いに関連し、機能することが必要である。

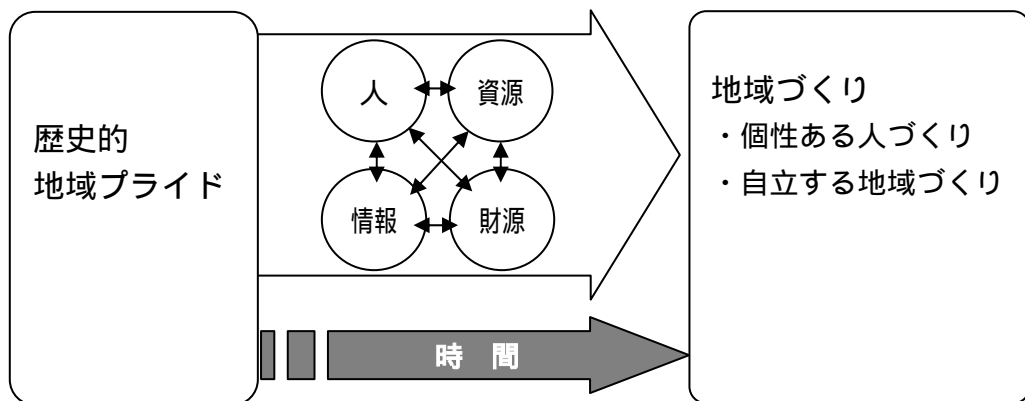
人：歴史的な地域プライドを受け継いでいくのは、“地域住民”が中心であることから、歴史的な地域プライドに共感をもつ人材をいかに確保していくのかという視点が必要である。

さらに、歴史的な地域プライドを守り受け継いでいくための様々な取り組みを進めるリーダー的人材の存在や、地域の取り組みに関して総合的に判断できるプロデューサーの存在が重要である。

資源：精神文化である歴史的な地域プライドを守り受け継ぐためには、プライドを象徴するもの＝目に見えるもの（祭りや芸能、史跡、町並みなど）を守り受け継ぐことが重要である。また、その象徴を再評価したり、現在生活と乖離しないよう変容させたりしていくことも必要である。

情報：歴史的な地域プライド（及びその象徴）を人（次世代）に伝えていくことが不可欠である。そのためには、断片的に事象や象徴をとらえるのではなく、情報の集約とともにストーリーとして情報発信することが重要である。また、多くの手法や媒体を駆使し、幼児からお年寄りまで多くの人に発信することが必要である。その他、他地域の事例研究や、同じ歴史的な地域プライドを有する他地域と共有・相関することにより、より強固な歴史的な地域プライドの維持、地域づくりの展開が期待できる。

財源：歴史的な地域プライドは、地域の経済成長を図るためにあるものではないが、守り受け継ぐための取り組みを継続させるためには、財源が必要とされることも多い。そのため、補助金制度等の活用や、歴史的な地域プライドと伝統産業の連携や観光資源化、新産業への展開など財源の調達方法を確立することが重要となる。



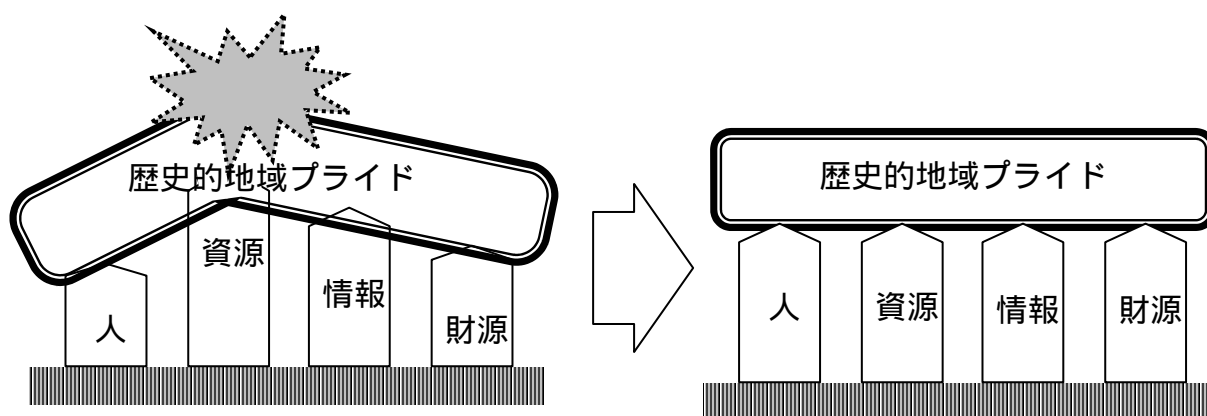
4 - 3 歴史的地域プライドによる地域づくりの推進方策

(1) 基本的な考え方

歴史的地域プライドによる地域づくりのポイントとして、「人」・「資源」・「情報」・「財源」の4つの要素がバランスよく機能することが重要である。言い換えれば、4つの要素のどこかが衰退するとバランスが崩れ、歴史的地域プライドも受け継いでいくことが困難となってくる。

例えば、歴史的な資源が多く存在している地域で、その資源を活かした地域づくりを実施しても、その資源の根底にある精神文化が理解されていない、または、共有されていないと、単発的なイベントとなったり、歴史性に関連のない、いわゆる金太郎飴的な取り組みになってしまったり、強いては継続した取り組みに至らない場合が多い。

したがって、歴史的地域プライドによる地域づくりを推進するためには、4つの要素が健全に機能しているかを的確に調査・検証することが重要となる。その上で、不足している要素を補完・充実する方法を検討し、実践することが必要である。



(2) 基本的な進め方

歴史的地域プライドによる地域づくりの基本的な進め方は、次の2段階で整理される。

Step 1 : 歴史的地域プライドの現状分析

歴史的地域プライドによる地域づくりを進めるためには、歴史的地域プライドの現状を調査し、把握することが必要である。

どのような精神文化があり、どのように受け継がれてきているのか、これまで取り組んできた主体の意向と住民意識との差異はないかなどを調査するとともに、前述した4つの要素のバランスがどうであるかを分析することが必要である。

Step 2 : 今後の展開・充実すべき方策の検討 (次項参照)

現状分析をふまえた今後の展開方策を検討する。歴史的地域プライドそのものは他地区のものを引用することができないが、4つの要素で不足しているものや充実すべき要素については、他地区の事例を参考にしながらその要素を補完・充実するための方策を検討することが可能である。

例えば、人づくり 地域教育、リーダー育成、プロデューサーの育成
資源活用 資源の再評価(時代の変化に対応)、きっかけづくり
情報発信 情報発信能力の向上、情報ネットワークの構築
財源確保 資金調達能力の向上、新たな支援策の検討 など

(3) 推進方策の整理

前項で整理した4つの要素ごとに、今後の展開・充実するための具体的な方策を整理する。また、実態調査等で把握した取り組み事例をあわせて紹介する。

人材確保

- ・ 歴史的地域プライドは、その地域に住む人々が生活するにあたっての精神的な土台となっていることが必要であり、地域の誰もが知っていることが最低限必要である。そのためには、幼少の頃から家庭や地域とのかかわりの中で教育、もしくは学習していくことが望ましいが、就学や就業といった生活の変化の中で、歴史的地域プライドを忘れてたり、もしくは、新しく生活の場となった地域においては、歴史的地域プライドを知る機会がないといった状況に陥る可能性がある。したがって、あらゆる世代に対応した地域教育の充実や歴史的地域プライドを受け継ぐための学習プログラムを構築することが重要である。
- ・ 歴史的地域プライドによる地域づくりを進めていくにあたっては、その歴史的地域プライドを意思的に受け継ごうとする人材や組織の存在が重要なポイントとなる。これら人材や組織には、自らの地域を発展させようとする強い意思と、地域づくりのリーダーシップを発揮できる資質を兼ね備えていることが望まれる。そのためには、人材や情報など多方面のネットワークを構築しながらリーダー的存在を育成することが重要となる
- ・ 地域づくりを実践するにあたっては、多様な障壁を乗り越える必要があるとともに、中長期的なビジョンを持った行動を行うことが必要となる。そのため、専門的な視点だけではなく、総合的・経営的な視点をもつプロデューサーの育成が必要となる。リーダーは当該地域の中から生まれ育つことが期待されるが、プロデューサーは経営的な視点持ち、プロデュース機能やコーディネート機能を総合的に発揮できるものを当該地域外から招集することも十分考えられる。

目 標		具体的な方策
地域教育の 充実	地域プライドを受け継ぐ学習プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育・社会教育を通じた一貫した学習プログラムの展開と、その中で担い手を育成するシステムの構築（プログラム上の工夫） （ 取り組み事例 ） ・「地域学」等の調査研究と成果の反映 （ 取り組み事例 ） ・親子参加型や体験型による参加者の拡大 ・地域づくりインターンシップ等による青少年の参加の促進 （ 取り組み事例 ） ・「地域学」検定による評価 など
リーダーの 育成	ネットワークの構築によるリーダー育成	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体のネットワークの構築とネットワークによるリーダー育成の展開 ・共通の地域プライドをテーマとする広域のネットワークの構築とリーダー育成の拡大 など
	大学等の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や研究機関、企業等との連携による人材育成 （ 取り組み事例 ）
プロデューサーの育成	経営的視点を持つプロデューサーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・プロデュース機能やコーディネート機能を総合的に発揮できる人材の育成 ・地域内外から経営的視点を持つ人材の招集

取り組み事例 -1：滋賀県高島市（旧安曇川町）

- ・小学生を対象に、学校行事「立志祭」や「藤樹かるた大会」、小学校副読本「藤樹先生」、そのほか「新春書き初め奉納」などを実施し、中江藤樹の教えを教えている。
- ・市民向けには、伝統行事として「藤樹書院の講書初め」、「常省祭」、「藤樹祭」、「中江藤樹フォーラム」などを実施し、中江藤樹の教えを受け継いでいる。



立志祭



小学校副読本『藤樹先生』

地域プライドフォーラム資料より

取り組み事例 -2：白石踊り（岡山県笠岡市）

- ・ 島民ならば誰でも踊ることができ、島外の高校進学までに身につけるべきものとして認識されている。白石島内で授業として取り入れている。
- ・ 幼稚園 小学校、小学校 中学校の連携の形で、総合学習の一環として行われており、会のメンバー6～7人が教えている。



取り組み事例：いわて地元学（岩手県）

- ・ 地域が今までやっていたこと、地域のありようを再発見することを、地元に住んでいる人が主体的に行っている。
- ・ 地域における持続的で地道な取り組みで、地域の人々のつながりを取り戻す取り組みを進めている。

地元学の取り組み方

地元学は、単なる「地域の宝探し」で終わらせることなく、地域の皆さん自らによる主体的な地域づくりに発展させていくことが重要です。地元学の取り組みでは概ね次のような流れが考えられます。

- ・ 地域住民が何らかのきっかけで、「地域資源調査」、「集落点検」、「あるもの探し」など地元学的な取り組みを始めること。
- ・ 地元学の取り組みが市町村などの行政や企業との協働、さらには、地域のNPOの結成などに結びつき、パートナーシップが形成されていくこと。
- ・ それらの過程で、地域住民を巻き込みながら、地域づくりが多方面の分野に広がり、自立した、個性豊かな地域の構築に向けた取り組みが継続的に行われていくこと。
- ・ これらの取り組みが継続して行われていくこと。

地元学の流れ

取り組み事例：ふれあい世界遺産塾（岩手県平泉町）

- ・ 一関・水沢・千厩地域における小・中・高校生を対象に実施している。
- ・ 地域プライドを受け継ぐ人材育成(ジュニアリーダーの育成)を進めている。



ときめき世界遺産塾 ジュニアシンポジウム

どなたでも参加できます

オンラインで100名同時参加！
お申込みが完了した平泉文化の魅力を紹介

- ◎会場 平泉郷土館
- ◎日時 平成18年1月7日(土)
1000~1130(入場無料)
- ◎講師・コメンター
千葉純子氏(平泉町出身)

内 容 1 講演「私のふるさと ひらいずみ」
2 シンポジウム

- ◎登壇者 【ときめき 平泉の文化遺産】
- ◎発言 【世界遺産登録へ向けて】

主催
ときめき世界遺産塾実行委員会
事務局 一般社団法人 平泉文化のまちづくりセンター
〒020-0191 平泉町 1-1-1
TEL 0191-25-1419

岩手県平泉町HP等より

取り組み事例 -1：いなみ野ため池学（兵庫県、兵庫大学）

- 東播磨地域の特徴的な景観をかたちづくる「ため池群や水路網」は、先人たちが営々として築きあげてきた、かけがえのない財産である。
- それらが持つ歴史的・文化的価値や現在の意義を見つめ直し、これからの地域づくりへ活用していく道を探るため、現役の大学生とともに地域住民が学習する講座『いなみ野ため池学』を開講している。

講座スケジュール		
<p>10月11日(金) 16:00~17:50</p> <p>『ため池学総論 ～いま、なぜため池か?』</p> <p>池本慶典(いけもと ひろき) [兵庫大学教授]</p>	<p>10月18日(金) 16:00~17:50</p> <p>『ため池群と用水 ～先人の知恵から現代への教訓を探ろう』</p> <p>森本真一(もりもと しんいち) [兵庫大学教授]</p>	<p>10月15日(金) 16:00~17:50</p> <p>『水を巡る遺産と伝統技術 ～歴史学・民俗学の観点からため池再生を考えよう』</p> <p>金子 節(かねの せつ) [兵庫大学助教授]</p>
<p>10月22日(金) 16:00~17:50</p> <p>『風景とため池景観 ～ため池景観の“美”を観察しよう』</p> <p>上原定和(うへはら まさかず) [兵庫大学教授]</p>	<p>10月29日(金) 16:00~17:50</p> <p>『ため池群・水路網の地理学的考察 ～いなみ野台地のため池分布を解明しよう』</p> <p>高 笠 健(たかかさの たけし) [兵庫県立大学の教授]</p>	<p>11月5日(金) 16:00~17:50</p> <p>『ため池管理の現状と将来展望 ～ため池多世代にいかに関与していくか?』</p> <p>森本真一(もりもと しんいち) [兵庫県立大学教育学部附属中学校校長(非常勤)] 水戸剛合代表 数名</p>
<p>11月19日(金) 16:00~17:50</p> <p>『水と生態系 ～ため池の環境の仕組みを学ぼう』</p> <p>木下一哉(きのした かずなり) [神戸一橋大学助教授]</p>	<p>11月26日(金) 16:00~17:50</p> <p>『いなみ野・ため池の生物多様性 ～水辺に暮らす生き物と、その生育環境の実態を知ろう』</p> <p>磯井俊夫(いそい しゅんお) [兵庫・水辺ネットワーク]</p>	<p>11月23日(金) 16:00~17:50</p> <p>『水と歴史 ～ため池の歴史をたどろう』</p> <p>大嶋節行(おおしまの のりゆき) [兵庫・水辺ネットワーク]</p>
<p>★ フィールドワーク 11月28日(日) 10:00~17:00</p> <p>いなみ野バードウォッチングツアー ～水辺に暮らす生き物を観察しよう</p> <p>フィールドワーク [日本野鳥の会兵庫県支部]</p>		
<p>12月3日(金) 16:00~17:50</p> <p>『検証-いなみ野ため池学 (第1期生レポート) ～学びを実践活動へ』</p> <p>池本慶典(いけもと ひろき) [兵庫大学教授(非常勤)] 青年の講師有志 数名</p>	<p>12月10日(金) 16:00~17:50</p> <p>『水辺空間と地域経済 ～地域経済の発展において水辺空間が果たす役割を検証しよう』</p> <p>田嶋和彦(たばた かずひこ) [兵庫大学助教授]</p>	<p>12月17日(金) 16:00~17:50</p> <p>『ため池と地域政策 ～水辺空間をいかに活かした新たな地域づくり (いなみ野ため池ミュージアム)』</p> <p>根本健行(もともと としゆき) [静岡県立富山大学教授]</p>

いなみ野ため池ミュージアム推進実行委員会HPより

取り組み事例 -2：ふるさと学習会（熊本県美里町（旧中央町）、熊本大学）

- 熊本大学では、地域貢献への取組みとして「地域貢献特別支援事業」を実施しており、事業を通じて大学がもつ「知・人・物」的資源を地域との間で循環させ、ともに支えあう環境構築を目指している。
- 当該事業の個別事業として、「熊本文化発掘事業」を実施し、熊本県美里町（旧中央町）に数多く存在する中世から近現代に及ぶ長期間に建造された石造遺物を歴史資料としての調査・記録する調査を実施した。
- この調査結果については、「ふるさと学習会」（町内の自然・歴史資料を中学生たちが歩きながら学んでいく企画）において、調査に参加した学生・院生たちが講師として参加しており、調査の成果を「人づくり」に活かしている。

「ふるさと学習会」の様子



熊本大学総務部総務課地域共生戦略室HPより

資源活用

- ・ 歴史的地域プライドは歴史的な地域固有の精神文化であるため、目には見えないものである。つまり、その精神文化を地域住民が共有するためには、人材確保における推進方策として挙げた「教育」、「学習」という手段の他に、その“精神文化が表出したもの＝資源”を守り受け継ぐことが重要となる。これら“精神文化が表出したもの＝資源”を将来にわたっても守り受け継いでいくためには、その資源を再度見つめ直し、評価を与えることにより、地域住民にその重要性を再認識させることが有効である。これら資源は地域住民にとっては、ごく身近なもので重要視されていない場合が多く、外部からの評価を受けることや同じようなプライドを持っている地域との交流により、その重要性を再認識し、意思を持って守り受け継いでいくことが必要である。
- ・ また、前述のように地域住民にとっては、日常的な振る舞いそのものが歴史的地域プライドになっている場合が少なくなく、これらを地域づくりの核として据えるためには、意識づけのためのきっかけづくりが重要となる。しかも、時代が移り変わって、住民の生活スタイルや価値観等が多様化している現在そして未来においても、守り受け継いでいくためには、時代に応じて変容させながら取り組むことも必要である。

目 標		具体的な方策
資源の再評価	外部からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源の調査・研究 ・ 重要文化財指定、世界遺産登録 (取り組み事例) ・ 地域プライドの取り組みに関する表彰 ・ 観光客による評価 など
	広域型の地域プライドの発掘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接地域の共通テーマの掘り起こしと広域型地域プライドの展開(合併地域の共通テーマとしても有効)
きっかけづくり	象徴となるものの継承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡・町並みの保存と付加価値の創出 ・ 足跡、研究資料等を集約した記念館等の整備 (取り組み事例)
	変化する生活スタイルへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代人の志向に合わせた変化への誘導(舞踊 ダンス、神楽 オペラなど) (取り組み事例)
	住民が改めて認知するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代人が興味を持つ取り組みへ展開(体験型・参加型、景観、環境、食、イベント等) ・ 政策的な取り組み(行政計画への反映、景観法にもとづく取り組み、商業・観光施策との連携など) (取り組み事例)

取り組み事例：南部杜氏(岩手県花巻市(旧石鳥谷町))

- ・ 杜氏は冬の「出稼ぎ」であったため、暗いイメージがあったが、「期間就労の集団」として地域の誇りにしようとして意識改革をはじめ、昭和56年に酒造用具が国の重要有形民俗文化財に指定され、歴史民俗資料館の整備を行うなど、「南部杜氏」に対する町民の意識が大きく変化した。



取り組み事例：旧後藤家商家(宮崎県都城市(旧高城町) NPO高城歴史文化のまちづくりフォーラム)

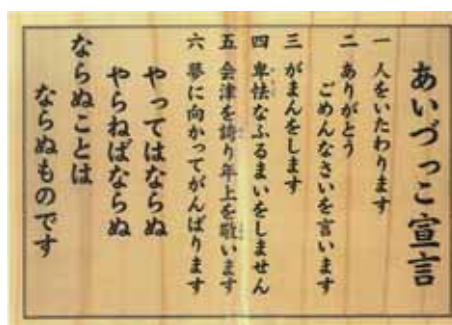
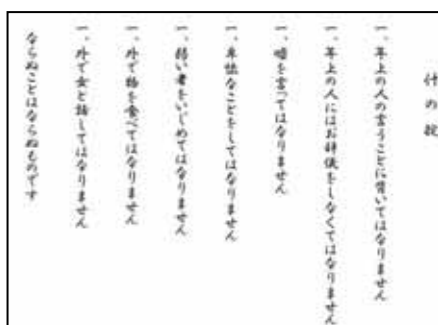
- ・ 旧家後藤家に生まれた後藤伊左エ門は、私財を投資し、高城の産業(造林事業、養蚕業、綿花事業)を発展させた人物である。
- ・ 後藤伊左エ門が残した地域の歴史、町民の誇りがつまっている旧後藤家商家を保存し、薩摩藩の精神を守り伝えている。また、商家に残るピアノの修復をきっかけとしたクラシックコンサートや、商家に残る昔の教科書展、高城昔の写真展、なんこ(南九州に古くから伝わる酒の席のゲーム)大会や雛人形展等により、楽しみながら文化の伝承に取り組んでいる。



地域プライドフォーラム資料より

取り組み事例：あいづっこ宣言(福島県会津若松市)

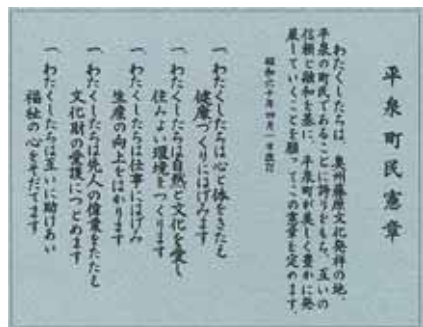
- ・ 侍の男の子は6歳になると必ず「侍」という自分の住む地域のグループに加わり、年少者は年長者への礼儀と尊敬、同年者との友情を自然に身につける。武士としての日新館教育の前に、自然の遊びのうちに人の道、社会人としての基本を学ぶ。
- ・ 現代版侍の掟「あいづっこ宣言」の策定し、日新館教育を各学校や家庭に配り、子どもの集まりなどで唱和し、理解と実行を深める。



地域プライドフォーラム資料より

取り組み事例 -1：世界遺産登録や景観条例施行（岩手県平泉町）

- ・ 奥州藤原文化発祥の地であることを誇りに持つことを憲章に盛り込み、まちづくりの理念に掲げている。
- ・ 町並みを保存するため、世界遺産登録を目指している。また、平成 17 年 1 月景観条例施行し、コアゾーン・バッファゾーンについては建築等を事前協議、許可制としている。さらに、看板等についても規制や既存のものの撤去を実施している。



整備前



整備後



地域プライドフォーラム資料より

取り組み事例 -2：ひむか神話街道(宮城県)

- ・ 古事記や日本書紀に記されている日向神話をはじめ、歴史ロマンを彷彿とさせる数多くの伝説や史跡にあふれ、歴史資源の宝庫となっている。
- ・ ひむか神話街道は 14 市町村 300 km であり、点としてそれぞれ取り組みを線としてつなぐことで大きな誇りを作り出し、交流人口の拡大を目的としている。特に県北部の 5 町村では宮城県北協議会が設立され、ふれあい案内人やもてなしを通じて地域の歴史・文化に触れるなど、すそ野は広がっている。



宮城県HPより

情報発信

- ・ 歴史的地域プライドによる地域づくりを進めるには、まず、地域住民に歴史的地域プライドを周知し、共通認識として確立することが必要である。住民の行動範囲が拡大し自らが情報収集できる時代にあつて、インターネットなど多様な情報媒体による多種多様な情報が錯綜している中、住民の関心・興味を引き出すような情報発信能力を向上することが重要である。また、歴史的地域プライドは、幼少の頃から、お年寄りまで多くの世代で共有することが重要であるため、その世代に応じたコンテンツも用意することが望まれる。
- ・ 歴史的地域プライドによる地域づくりを実践するためには、取り組み主体から情報を発信するだけでなく、今後の展開を検討する上では地域住民の意見や他地域の情報を収集することが不可欠である。地域プライドに関しては、既に文化庁や国土交通省、都道府県レベルで県内情報の収集、及びホームページなどで情報発信している例が見られるが、これらとの連携を図るなど、他地域の取り組み事例の研究や交流を図る土台として全国の情報ネットワークを構築することが有効である。

目 標		具体的な方策
情報発信能力の向上	コンテンツの工夫	・ 多様なコンテンツづくり（アニメ、映画、音楽、演劇など） （ 取り組み事例 ）
	情報の集約	・ 全国及び各地域におけるプライドライブラリーの構築
情報ネットワークの構築	情報共有	・ 既存HPの活用・連携 （ 取り組み事例 ） ・ 地域プライドデータベースの構築
	交流できる場づくり	・ 活動拠点の設置 ・ 同種の地域プライドを有する地域との交流 （ 取り組み事例 ） ・ 地域プライドフォーラムの開催 （ 取り組み事例 ）

取り組み事例 : 多様なコンテンツの紹介

長編アニメ :

命をかけて祖国を守ろうとしたアテルイ・モレと坂上田村麻呂との戦い。アテルイの思い、坂上田村麻呂との友情を伝えるため、県民の寄付等で製作。(岩手県)



シネマとうほくHPより

映画 :

中江藤樹に関する映画を製作。映画にはエキストラとして市民も多数参加。(滋賀県高島市(旧安曇川町))



地域プライドフォーラム資料より

町民劇場 :

水利が悪かった胆沢平野に後藤寿庵の後を引き継ぎ、胆沢川からの用水路を開鑿した千田左馬の功労が称えて町民の自作自演の演劇を実施した。(岩手県奥州市(旧前沢市))



前沢町HPより

HP紙芝居 :

先人の功績をたたえて、記念館を整備するとともに、HPに紙芝居を製作し、彼らの紹介をしている。(岩手県奥州市(旧水沢市))



水沢市HPより

取り組み事例 : いわての文化情報大辞典(岩手県)

- ・ 県民の多様な文化とのふれあいの確保と自主的な文化活動の展開のため、文化に関する情報をデータベースとして蓄積するとともに、行政機関や文化施設等を結ぶネットワークづくりを目的とした「文化情報提供システム」を構築している。
- ・ 平成 11 年度に実施した文化に関する県民意識調査結果や有識者の意見をもとに、県民ニーズの高い情報や、本県独自の貴重な文化情報をデータベース化する。



岩手県HPより

取り組み事例 : 報徳サミット(栃木県二宮町他)

- ・ 二宮尊徳の「報徳思想」を通じて、まちづくりやひとづくりを考える場として、毎年二宮尊徳ゆかりの市町村で開催。
- ・ 全国報徳研究市町村協議会(全国28市町村)により開催し、平成17年で11回目を迎える。



取り組み事例 : 地域プライドフォーラム

- ・ 歴史的な地域プライドによる地域づくりの重要性を啓発するとともに、具体的な取り組みの紹介を行う。



財源確保

- ・ 地域づくりを行うためには、資金が必要となる。特に、歴史的な地域プライドによる地域づくりについては、短期間で効果が上がるものではなく、中長期で取り組んでいくべきことであるため、資金調達能力の向上、経済的な基盤を整えておくことが重要なポイントとなる。地域住民の発意による資金調達や地場産業などとの連携による収益構造の構築が今後の展開として考えられる。また、補助事業等に関しては、昨今、費用対効果が求められ、短期間で効果が表れる事業の重点化が謳われているが、その一方では、地域からの提案で柔軟性の高い資金投入が可能となってきた。その活用を十分に検討することが有効である。

目 標		具体的な方策
資金調達能力 の向上	収益構造の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付・基金・トラストなど ・地場産業とのマッチング、観光資源としての活用など (取り組み事例)
	支援制度の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・既存支援制度の周知及び活用アイデアの発信など ・地域提案型・市民提案型事業への提案の促進 (取り組み事例)

取り組み事例 -1：宮沢賢治記念館（岩手県花巻市）

- ・ 童話や農業技術研究などで知られる宮沢賢治を紹介する記念館では、賢治の生い立ち紹介や手書きの原稿などの展示のほか、ビデオや図書資料などで賢治の作品を紹介するなど賢治の思想が紹介されている。近接してイーハトーブ館や童話村などもあり、リピーターが多い。
- ・ また、宮沢賢治の命日である9月21日には、毎年賢治祭が行われ、賢治の詩の朗読や野外劇などが行なわれる。



花巻市 HP より

取り組み事例 -2：かぐらグッズ（大分県由布市（旧庄内町））

- ・ 庄内神楽が盛んに行われている庄内町では、神楽をモチーフにした土鈴や壁掛けなどのグッズを製品化している。また、出前神楽（神楽の出張講演）や携帯神楽（神楽を携帯電話着信音に）などを行っている。

庄内神楽のキャラクター「みことちゃん」



旧庄内町 HP より

取り組み事例 -3：醬（ひしお）の郷（香川県小豆島町（旧内海町））

- ・ 古来の製法でつくる醤油を核として、油蔵を使った記念館、醤油造りの方法や歴史の体験学習、醤油ソフトクリーム、黒く色づいた醤油蔵のまち歩きを実現している。



小豆島観光協会 HP より

取り組み事例 -1：都道府県での支援策の紹介

都道府県	地域づくりへの支援策(例)
北海道	伝統芸能等推進事業
青森県	地域伝統芸能情報発信事業
宮城県	伝統芸能等推進事業、観光行事等協力費
秋田県	県芸術文化振興基金、現地密着型観光振興事業、魅力ある地域の観光地づくり推進事業
山形県	生涯学習支援事業、置賜文化活動支援事業
茨城県	伝統芸能等推進事業、郷土民俗芸能のつどい、文化財普及促進事業、ご近所の底力再生事業
栃木県	スクールアート推進事業
群馬県	世界遺産登録の推進
埼玉県	彩の国の偉人を生かしたふるさとづくり事業、ふるさと創造資金(観光資源魅力アップ事業)
千葉県	文化財の保存と普及活用への支援、伝統芸能等推進事業
神奈川県	生涯学習放送事業(『神奈川再発見』の放映)、ふるさとの民俗芸能情報提供事業
新潟県	史跡整備事業、伝統芸能担い手育成事業
富山県	元気に富山推進費、芸術文化活動推進費
石川県	ふるさと教育推進事業
福井県	地域ブランド創造活動推進事業、観光開発事業
山梨県	地域活性化促進事業費補助金
岐阜県	世界文化遺産白川郷合掌集落整備事業費補助金、伝統芸能等推進事業、無形民俗文化財伝承事業費補助金、文化財保存事業費補助金、文化財標柱設置事業
静岡県	子どもをはぐくむ地域推進事業、伝統文化子ども教室推進事業
愛知県	生涯学習情報システム「学びネットあいち」、観光施設費等補助金、あいち観光ボランティアガイド交流推進事業
三重県	祭り・伝統芸能等地域の文化継承・交流事業
滋賀県	近江歴史回廊推進協議会運営補助、多言語表記による観光案内板整備事業、近江のまつり補助事業
京都府	イベント補助、福知山踊り講師派遣委託、静の杜整備事業
大阪府	新進芸術家育成・市町村文化施設活性化事業、大阪楽座事業、文化サロン事業、大阪伝統芸能達人表彰
奈良県	観光振興に関する事業全般、奈良県立万葉文化館、万葉古代学研究所、万葉図書室、万葉ミュージアムの運営、奈良県立民俗博物館の運営、映画・映像芸術活性化事業
和歌山県	世界遺産地域支援事業
鳥取県	中山間地域活性化交付金、自立支援交付金
岡山県	地域づくり団体交流事業、ふるさと文化再興事業
広島県	広報宣伝活動
山口県	国・県指定文化財等保存活用事業
愛媛県	重要文化財等保存修理費補助事業、南予観光まちづくり推進事業
福岡県	個性ある地域づくり推進事業
大分県	重要伝統的建造物群保存地区日田市豆田町伝統的建造物群保存地区保存修理事業
鹿児島県	黎明館情報提供システム整備事業

取り組み事例 -2：既存の地域づくりへの支援策（文部科学省・文化庁）の紹介

事業名	事業概要
1 地域教育力の再生	
地域教育力再生プラン	<p>社会の構造や環境の変化に伴う住民の地域社会への帰属意識や近隣住民間の連帯感の希薄化、青少年の問題行動の深刻化などが進む中で、子どもたちの安全・安心な遊び場の不足、青少年の奉仕・体験活動の不足、スポーツに親しむ機会の減少、多様な文化体験活動に触れる機会の減少等が指摘されており、地域の教育力の再生を測る多様な機会を提供することが国としての喫緊の課題となっている。</p> <p>このようなことから地域に根ざした多様な活動の機会を提供するため、安全・安心して活動できる子どもの活動拠点（居場所）づくりの支援、地域におけるボランティア活動や、スポーツ及び特色ある様々な文化の体験活動などの促進を通じて、地域の教育力の再生を図る。</p>
地域子ども教室推進事業	<p>地域の大人の協力を得て、学校の校庭や教室等に安全・安心して活動できる子どもの活動拠点（居場所）を設け、放課後や週末における様々な体験活動や地域住民との交流活動等を実施する。また、このような取組が地域独自の活動として定着するよう、新たに、活動の中心的役割を担っている人材の相互情報交換とネットワークづくりを支援するため、研修やシンポジウムを実施する。</p>
地域ボランティア活動推進事業	<p>地域教育力の再生を図るため、地域におけるボランティア活動促進のための多彩なプログラム開発を行う事業を実施し、ボランティア活動の全国的な展開を推進する。</p>
総合型地域スポーツクラブ育成推進事業	<p>子どもから高齢者まで、地域住民の誰もが身近にスポーツに親しむことができる場となる総合型地域スポーツクラブの全国展開を一層推進するため、全国的な組織基盤を有する民間スポーツ団体を活用して、効率的な総合型地域スポーツクラブの育成を推進する。</p>
文化体験プログラム支援事業	<p>子どもたちが日常の生活圏の中で、年間を通じて様々な文化に触れ、体験できるプログラムを作成し、実施する。（モデル事業）</p>
2 生涯学習の推進	
地域子ども教室推進事業(再掲)	<p>地域の大人の協力を得て、学校の校庭や教室等に安全・安心して活動できる子どもの活動拠点（居場所）を設け、放課後や週末における様々な体験活動や地域住民との交流活動等を実施する。また、このような取組が地域独自の活動として定着するよう、新たに、活動の中心的役割を担っている人材の相互情報交換とネットワークづくりを支援するため、研修やシンポジウムを実施する。</p>
子ども待機スペース交流活動推進事業	<p>下校時間の早い低学年の子どもたちを、高学年の子どもたちと一緒に集団下校させるとともに、下校時間までの放課後における子どもの交流活動等を促進する。</p>
人づくりを通じた地域づくり推進事業	<p>人づくりを通じた地域づくりを推進するため、マネジメント能力の育成に関する先進的な諸外国の調査研究、データベースの構築、地域づくり推進のための研究協議会の開催、地域づくり支援アドバイザーの委嘱による国のアドバイザー機能の向上など地域づくりを推進するための施策を総合的に実施する。</p>
生涯学習フェスティバル	<p>生涯学習の一層の振興に資するため、全国各地の市町村や団体等が参加する「生涯学習見本市」や、人づくり、地域づくりをテーマとした公民館活動の取組の紹介等の生涯学習に関する多彩な催事を行う。</p>
省庁連携子ども体験型環境学習推進事業	<p>子どもたちの豊かな人間性をはぐくむため、関係省庁と連携して、地域の身近な環境をテーマに、子どもたちが自ら企画し、継続的な体験学習を行う事業の実施を通して、体験型環境学習を推進する。</p>
青少年の自立支援事業	<p>青少年が自立した人間として成長することを支援するため、都市と農山漁村等の青少年が相互に行き交い農林水産業体験等を通して交流する「青少年相互交流推進事業」など、青少年の主体性・社会性を育む社会実験や自然体験等の体験活動を推進する。</p>
全国子ども読書推進キャンペーン	<p>広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるため、ポスターの作成・配布、フェスティバルの実施、実態調査・情報提供等全国的なキャンペーンを実施し、国民に子どもの読書の重要性和必要性をアピールする。</p>
ボランティア活動広報啓発・普及事業	<p>国民一人一人が、日常的にボランティア活動を行い、相互に支え合える地域社会を実現するため、ボランティア活動推進フォーラムの開催や広報啓発・普及活動事業を実施し、地域社会全体でボランティア活動を推進していく気運の醸成を図る。</p>
家庭教育支援総合推進事業	<p>行政と子育て支援団体等との連携による家庭教育支援の充実を図るため、子育てサポーターの資質向上を図るリーダーの養成や、親等に対する様々な機会を活用した家庭教育に関する学習機会の提供等を行い、家庭教育支援のための総合的な取組を推進する。</p>

事業名	事業概要
子どもの生活リズム向上プロジェクト	早寝早起きや朝食をとるなど、子どもの望ましい基本的な生活習慣を育成し、生活リズムを向上させるため、全国的な普及啓発活動を行うとともに、地域ぐるみで子どもの望ましい基本的な生活習慣を育成し、生活リズム向上のための先進的な実践活動等の調査研究を実施する。
女性のキャリア形成支援プラン	男女共同参画社会の形成の促進に資するため、女性が様々な学習や活動の成果を活かして社会で活躍するための支援策の在り方についての実践的な調査研究や地域社会の方針決定の場へ参画するための資質能力の向上を図るモデル事業、女子生徒の科学技術分野への進路選択を図るため、教育関係者に対する協議会の開催等を実施する。
高齢者の社会参加促進に関する特別調査研究	21世紀を迎えて我が国の高齢社会における高齢者の生涯学習と社会参加について調査研究するとともに、高齢者の社会参加活動を促進する上での様々な課題について研究協議を行う高齢者社会参加フォーラムを開催する。
社会教育活性化21世紀プラン	社会教育施設を中核とした地域の課題解決のための事業を実施するとともに、モデルプログラムの開発等を行い、社会教育の全国的な活性化を図る。
民間教育事業者等との連携による生涯学習の推進（「生涯学習分野におけるNPO支援事業」より名称変更）	多様化・高度化する地域住民の学習ニーズを的確に把握し、これに即応した学習機会を提供するために、行政と民間教育事業者等との連携促進に資することを目的とする。
eラーニングによる人材育成支援モデル事業	フリーター等の若年人材が、いつでも、どこでも、誰でも手軽に学び直しや、職業能力の向上ができるeラーニングを活用した学習支援システム（仕組み）の構築を目指し、各省が連携・協力し、実証的なモデル事業を行う。
地域における教育情報発信・活用促進事業	地域における教育用情報の発信を支援するため、地方公共団体、大学、民間団体等が制作した学習コンテンツの収集や社会的要請に対応した学習コンテンツの制作等を行い、各地域のエル・ネットV S A T局から全国へ配信することにより、学びを通じた地域再生・まちづくりのための生涯学習機会の拡大を図る。
地域の図書館サービス充実支援事業	地域における図書館サービスの充実を一層推進するため、図書館未設置市町村や遠隔空域の住民、障害者、高齢者等への貸出、開館時間の延長や祝日開館、他機関との連携によるレファレンスの充実などを図る。
3 学校の機能の活用	
地域・学校連携施設整備事業	学校施設と他の公共施設との複合化に必要な施設整備を交付金の対象とすることを通じて、地域コミュニティの拠点としての学校施設の利用を図る。
幼稚園の子育て支援活動の推進	幼稚園が行う各種の子育て支援活動についての補助。
4 高等教育機関の機能の活用	
公開講座・施設等の開放	私立大学等において実施される公開講座や大学等の施設等の開放にかかる経費に対して日本私立学校振興・共済事業団を通じて補助をする。
社会連携研究推進事業	私立大学において、地域社会との連携の下、地域社会のニーズを的確に把握した効果的・効率的な共同研究を推進するために必要な研究施設・装置・研究設備及び研究費に対し、総合的・重点的に支援する。
大学等開放推進事業	大学等公開講座の様々な課題を解決するために、有効な方策について調査・研究を行うとともに、大学等の機能を開放し、子どもたちに科学技術等に関する体験活動の機会を提供するなど、今後の大学開放の推進を図る。
5 スポーツの振興	
総合型地域スポーツクラブ育成推進事業（再掲）	子どもから高齢者まで、地域住民の誰もが身近にスポーツに親しむことができる場となる総合型地域スポーツクラブの全国展開を一層推進するため、全国的な組織基盤を有する民間スポーツ団体を活用して、効率的な総合型地域スポーツクラブの育成を推進する。
全国スポーツ・レクリエーション祭	広く国民にスポーツ・レクリエーション活動を全国的な規模で実践する場を提供し、国民一人ひとりのスポーツ・レクリエーション活動への参加意欲を喚起し、もって国民の生涯を通じたスポーツ・レクリエーション活動への振興に資する多彩な催事を行う。
6 地域文化の振興	
芸術拠点形成事業（展覧会事業等支援）	地域の文化芸術拠点の形成を図るため、美術館・歴史博物館が行う「地域連携事業」、「先進的な展示・教育普及手法の開発事業」、「諸外国との交流事業」に対する支援を実施する。
地域において企画・製作される作品の製作支援	地域の活性化に資するため、地域において企画された映画、地域を題材に制作された映画等を支援する。

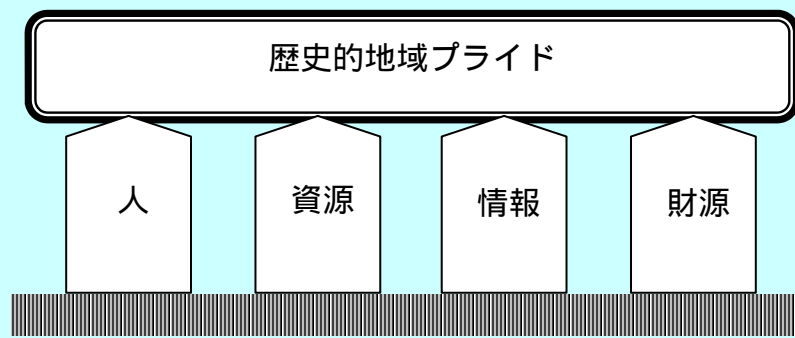
事業名	事業概要
本物の舞台芸術に触れる機会の確保	子どもたちが、学校や公立文化施設において優れた舞台芸術を鑑賞するとともに、芸術団体等による実技指導・ワークショップに参加し、公演の本番で共演するなど、舞台芸術に身近に触れる機会を提供する。
伝統文化こども教室事業	次世代を担う子どもたちに対し、土・日曜日などにおいて学校、文化施設等を拠点とし、茶道、華道、日本舞踊、伝統音楽、郷土芸能などの伝統文化に関する活動を、計画的、継続的に体験・修得できる機会を提供する。
学校の文化活動の推進	著名な芸術家や伝統芸能の保持者等を出身地域の学校等に派遣する「芸術家等派遣事業」や文化活動の成果発表の場として「全国高等学校総合文化祭」を行う。
「文化芸術による創造のまち」支援事業	地域における文化芸術の創造、発信及び交流を通じた文化芸術活動の活性化を図ることにより、我が国の文化水準の向上を図る。
公立文化施設の活性化による地域文化力の発信・交流の推進	公立文化施設の自主的かつ主体的な文化活動が行われる環境を醸成するため、地域連携型自主企画・制作事業に対する支援や地域相互の情報提供等を一体的に行う。
国民文化祭	アマチュアを中心とした国民一般の各種の文化活動を全国的な規模で発表する場として、開催都道府県等と共催して開催する。
文化ボランティア推進モデル事業	各地域における文化ボランティア活動の一層の環境整備を図り、文化ボランティアを推進する。(モデル事業)
ふるさと文化再興事業	地域において守り伝えられてきた伝統文化の継承・発展を図り、保存・活用を推進する。
芸術文化振興基金による支援(地域の文化の振興を目的として行う活動への支援)	芸術文化振興基金は、政府出資金と民間からの出せん金を原資として、安定的・継続的に多様な芸術文化活動に幅広く助成を行うため、平成2年3月に設けられた。その中で、地域の文化の振興を目的として行う活動も支援している。 なお、当基金は独立行政法人日本芸術文化振興会が運用し、助成対象活動の募集・決定・助成金の交付を行っている。
文化体験プログラム支援事業(再掲)	子どもたちが日常の生活圏の中で、年間を通じて様々な文化に触れ、体験できるプログラムを作成し、実施する。(モデル事業)
史跡等保存整備活用等事業	貴重な国民の財産である史跡等を将来にわたって大切に保存し、活用を図っていくため、計画的に公有化、保存修理、環境整備等に関する経費の一部を地方公共団体に対して補助する。
文化財建造物保存修理等事業	文化財建造物の保存と活用を推進し、広く国民が地域の歴史と文化を享受できるように、重要文化財や登録有形文化財の保存修理等に要する経費の一部を文化財所有者等に対して補助する。
伝統的建造物群保存修理等事業	伝統的な集落や町並みを周囲の環境と一体的に保存し、国民が地域の歴史と文化を享受することができるよう、重要伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物等の保存修理等に要する経費の一部について当該事業を行う市町村に対して補助する。
重要文化財等保存活用整備事業	我が国の国宝・重要文化財等を火災、盗難等から守るための保存機能と、広く国民に展覧する機会を提供するなど、地域の特性に応じた活用機能を備えた整備事業を実施する。
民俗文化財伝承・活用等事業	重要有形民俗文化財及び無形民俗文化財について、伝承者養成事業、記録作成や資料整理、施設の修理・防災事業、用具の新調・修理事業等に対して補助を実施する。
7 地域の科学技術振興	
地域科学技術振興事業費補助金及び地域科学技術振興事業委託費	
知的クラスター創成事業	地方自治体の主体性を重視し、知的創造の拠点たる大学、公的研究機関等を核とし、関連研究機関、研究開発型企業等による国際的な競争力のある技術革新のための集積(知的クラスター)の創成を目指す。
都市エリア産官学連携促進事業	地域の個性発揮を重視して大学等の「知恵」を活用し、新技術シーズを生み出し、新規事業等の創出、研究開発型の地域産業の育成等を目指すもので、都市エリアにおける産官学連携事業の促進を図る。(平成18年度新規採択からマッチングファンド方式(委託費)に移行)
地域イノベーション創出総合支援事業(独立行政法人科学技術振興機構事業)	全国に展開している研究成果活用プラザやJST サテライトを拠点として、自治体、経済産業局、JSTの基礎研究や技術移転事業等の連携を図りつつ、シーズの発掘から実用化までの研究開発を切れ目なく行うことにより、地域におけるイノベーション創出を総合的に支援する。
地域結集型研究開発プログラム	地域として企業化の必要性の高い個別的研究開発課題を集中的に取扱い、産官共同研究事業である。大学等で創出された技術シーズを基にした試作物やプロトタイプの開発等、新技術、新産業の創出に資する企業化に向けた研究開発を実施する。

事業名	事業概要
重点地域研究開発推進プログラム	研究成果活用プラザ JST サテライトにおいて、産学官の交流及び地域の独創的な研究成果を活用する産学官による研究成果の育成を推進し、技術革新による新規事業創出を目指す。
【新規】 地域研究開発資源活用促進プログラム	研究成果活用プラザにおける育成研究等の実験室レベルの研究成果を基に、地域の中小企業等への円滑かつ効果的な技術移転を実現して、地域におけるイノベーションの創出に資することを目的として、事業化・製品化に向けたプロトタイプ開発等の産学官共同研究を行う。
地域結集型共同研究開発事業（独立行政法人科学技術振興機構事業）	地域が目指す特定の研究開発目標に向け、研究ポテンシャルを有する地域の大学、国立試験研究機関、研究開発企業等が結集して新技術・新産業の創出に資する共同研究を行う。（新規採択修了）

取り組み事例 -3：既存の地域づくりへの支援策（国土交通省地方整備課）の紹介

事業名	事業概要
1. 地域づくりの取り組み支援	
都市地方連携推進事業	本事業は、都市と農山漁村等の間の交流促進により、都市住民の生活の充実を図りつつ、地方の活性化を推進するものであり、都市と地方の農山漁村等の市町村や住民・NPO等の連携により行われる先導的な交流事業を一体的に支援します。
地域振興アドバイザー派遣制度	地域の活性化・交流を促進するために、様々な課題を抱えている市町村へ各分野の専門家を派遣して、その専門家から助言をしてもらうことにより、自主的な地域づくり活動等を側面から支援し、もって地域の活性化に資することを目的としております。
地域資源活用構想策定等支援調査	本調査は、具体的な地域活性化手法の検討とその情報発信等を通じた施策展開を図るために、地域資源を活用した活力と誇りの持てる自立的な地域づくりを促進するモデル的な支援調査です。
地域活力再生推進調査	当調査は、地方における各地域の個性的で魅力的な地域づくり等の活性化を推進するため、地域の自主的かつ自立的な取組による地域活性化を側面から支援し、地域が活動を行う際の「きっかけ」となる課題ごとに、従前の当課の事業を複合的に活用し、社会実験の実施、専門家による適切な助言、国内外の情報交流の推進等の環境整備を総合的かつ効果的に実施する調査です。
2. UJIターンの推進	
地域づくりインターン（若者の地方体験交流支援事業）	地域づくりに熱心な取り組みを行っている地域に、国土交通省が大学生や大学院生を中心とした20歳から35歳までの三大都市圏に居住する若者を体験調査員として派遣して、地域で進められている地域づくり活動や、地域産業の体験、地域住民との交流などに参加してもらい地域の魅力を理解してもらいます。
3. 地域づくりの情報交流	
地域づくり表彰	地域づくり表彰制度は、創意と工夫を活かした広域的な地域づくりを通して、地域の活性化に顕著な功績があった優良事例を表彰することにより、地域間の連携と交流によって地域の個性ある自立を広範囲にわたり促進し、地域づくり活動の奨励を図ることを目的としています。
地域づくり交流会議	地域づくり交流会議は、様々な地域づくり活動に取り組んでいる実践家・地域住民、行政担当者等が、その共通する課題や特色ある地域づくり活動等についての情報交換等を行うことによって、地域活性化の推進の一助とすることを目的としています。
地域づくり活動出合いの広場	地域づくり活動に取り組む各主体が、互いの情報を交換したり、自らの活動の中で築いたノウハウ等を他の地域にも紹介するなどの相互の交流・連携を支援することを目的にこのウェブサイトを開設しています。
世界地方都市十字路口会議	地方都市の取り組んでいるまちづくりに即したテーマを選定のうえ、当該テーマに関連した個性的かつ魅力的なまちづくりを行っている国内外の地方都市を招待します。会議では、これらの地方都市が地域づくりについてビデオ等を用いて事例紹介・パネルディスカッションを行うなど、地域の活性化を目指した活発な意見交換等を行っています。
地域づくり交流会議及び地域づくり実践カレッジ	地域づくり交流会議は、様々な地域づくり活動に取り組んでいる実践家・地域住民、行政担当者等が、その共通する課題や特色ある地域づくり活動等についての情報交換等を行うことによって、地域活性化の推進の一助とすることを目的としています。

地域固有の歴史的精神文化を地域プライドとして守り育み、受け継ぐ方策の考え方



- ・歴史的な地域プライドが表出した形を残すこと
- ・時間をかけて受け継いでいくこと

人・資源・情報・財源がバランスよく機能することによって歴史的な地域プライドが継承され、個性ある人づくりや、自立する地域づくりが可能となる

歴史的な地域プライドによる地域づくりの推進方策

- Step 1 : 歴史的な地域プライドの現状分析 (不足要因の探求)
歴史的な地域プライドが受け継がれていない原因 (不足要因) を探る
- Step 2 : 不足要因を補完する方策の検討
- 人づくり 地域教育、リーダー育成
 - 資源活用 資源の再評価 (時代の変化に対応) きっかけづくり
 - 情報発信 情報発信能力の向上、情報ネットワークの構築
 - 財源確保 資金調達能力の向上、新たな支援策の検討

推進方策

地域プライドによる地域づくりのポイント

現状・課題

目標と具体的な方策

推進方策	地域プライドによる地域づくりのポイント	現状・課題	目標と具体的な方策									
人材確保	地域の誰もが知っている家庭や地域とのかかわりの中で受け継がれている地域づくりをプロデュースできる人材がいる 多方面との人的ネットワークを持つリーダーがいる	<ul style="list-style-type: none"> ・生活スタイルや価値観の変化とともに忘れられる ・人口流出や高齢化により伝承者や地域行事等の担い手不足 ・専門的な能力を有するリーダーが少なく、後継者も育っていない ・各主体がばらばらに取り組んでいる 	<table border="1"> <tr> <td>地域教育の充実</td> <td>地域プライドを受け継ぐ学習プログラム</td> <td>学校教育・社会教育を通じた一貫した学習プログラムの展開と、その中で担い手を育成するシステムの構築 (プログラム上の工夫) / 「地域学」等の調査研究と成果の反映 / 親子参加型や体験型による参加者の拡大 / 地域づくりインターンシップ等による青少年の参加の促進 / 「地域学」検定による評価 など</td> </tr> <tr> <td>リーダーの育成</td> <td>ネットワークの構築によるリーダー育成</td> <td>関係団体のネットワークの構築とネットワークによるリーダー育成の展開 / 共通の地域プライドをテーマとする広域のネットワークの構築とリーダー育成の拡大 など</td> </tr> <tr> <td>プロデューサーの育成</td> <td>大学等の活用 経営的視点を持つプロデューサーの育成</td> <td>大学や研究機関、企業等との連携による人材育成 プロデュース機能やコーディネート機能を総合的に発揮できる人材の育成 / 地域内外から経営的視点を持つ人材の招集</td> </tr> </table>	地域教育の充実	地域プライドを受け継ぐ学習プログラム	学校教育・社会教育を通じた一貫した学習プログラムの展開と、その中で担い手を育成するシステムの構築 (プログラム上の工夫) / 「地域学」等の調査研究と成果の反映 / 親子参加型や体験型による参加者の拡大 / 地域づくりインターンシップ等による青少年の参加の促進 / 「地域学」検定による評価 など	リーダーの育成	ネットワークの構築によるリーダー育成	関係団体のネットワークの構築とネットワークによるリーダー育成の展開 / 共通の地域プライドをテーマとする広域のネットワークの構築とリーダー育成の拡大 など	プロデューサーの育成	大学等の活用 経営的視点を持つプロデューサーの育成	大学や研究機関、企業等との連携による人材育成 プロデュース機能やコーディネート機能を総合的に発揮できる人材の育成 / 地域内外から経営的視点を持つ人材の招集
			地域教育の充実	地域プライドを受け継ぐ学習プログラム	学校教育・社会教育を通じた一貫した学習プログラムの展開と、その中で担い手を育成するシステムの構築 (プログラム上の工夫) / 「地域学」等の調査研究と成果の反映 / 親子参加型や体験型による参加者の拡大 / 地域づくりインターンシップ等による青少年の参加の促進 / 「地域学」検定による評価 など							
			リーダーの育成	ネットワークの構築によるリーダー育成	関係団体のネットワークの構築とネットワークによるリーダー育成の展開 / 共通の地域プライドをテーマとする広域のネットワークの構築とリーダー育成の拡大 など							
プロデューサーの育成	大学等の活用 経営的視点を持つプロデューサーの育成	大学や研究機関、企業等との連携による人材育成 プロデュース機能やコーディネート機能を総合的に発揮できる人材の育成 / 地域内外から経営的視点を持つ人材の招集										
資源活用	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内住民にとって価値が分かりにくい ・実生活との関連性が希薄 ・宗教的な取り組みは意識共有しにくい ・一過性のイベントになりがちである 	<table border="1"> <tr> <td>資源の再評価</td> <td>外部からの評価 広域型の地域プライドの発掘</td> <td>資源の調査・研究/重要文化財登録、世界遺産登録/地域プライドの取り組みに関する表彰/観光客による評価など 隣接地域の共通テーマの掘り起こしと広域型地域プライドの展開 (合併地域の共通テーマとしても有効)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">きっかけづくり</td> <td>象徴となるものの継承 変化する生活スタイルへの対応</td> <td>史跡・街並みの保存と付加価値の創出 現代人の志向に合わせた変化への誘導 (舞踊 ダンス、神楽 オペラなど)</td> </tr> <tr> <td>住民が改めて認知するための取り組み</td> <td>現代人が興味を持つ取り組みへ展開 (景観、環境、食、イベント等) / 政策的な取り組み (行政計画への反映、景観法にもとづく取り組み、商業・観光施策との連携など)</td> </tr> </table>	資源の再評価	外部からの評価 広域型の地域プライドの発掘	資源の調査・研究/重要文化財登録、世界遺産登録/地域プライドの取り組みに関する表彰/観光客による評価など 隣接地域の共通テーマの掘り起こしと広域型地域プライドの展開 (合併地域の共通テーマとしても有効)	きっかけづくり	象徴となるものの継承 変化する生活スタイルへの対応	史跡・街並みの保存と付加価値の創出 現代人の志向に合わせた変化への誘導 (舞踊 ダンス、神楽 オペラなど)	住民が改めて認知するための取り組み	現代人が興味を持つ取り組みへ展開 (景観、環境、食、イベント等) / 政策的な取り組み (行政計画への反映、景観法にもとづく取り組み、商業・観光施策との連携など)		
資源の再評価	外部からの評価 広域型の地域プライドの発掘	資源の調査・研究/重要文化財登録、世界遺産登録/地域プライドの取り組みに関する表彰/観光客による評価など 隣接地域の共通テーマの掘り起こしと広域型地域プライドの展開 (合併地域の共通テーマとしても有効)										
きっかけづくり	象徴となるものの継承 変化する生活スタイルへの対応	史跡・街並みの保存と付加価値の創出 現代人の志向に合わせた変化への誘導 (舞踊 ダンス、神楽 オペラなど)										
	住民が改めて認知するための取り組み	現代人が興味を持つ取り組みへ展開 (景観、環境、食、イベント等) / 政策的な取り組み (行政計画への反映、景観法にもとづく取り組み、商業・観光施策との連携など)										
情報発信	多様な情報発信ツールを用意している 他地域の情報等を入手している	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える方法が限定的である ・地域内の取り組みにとどまっている ・他地域の情報を知る手段が少ない ・他地域の情報の活用方策がわからない 	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">情報発信能力の向上</td> <td>コンテンツの工夫 情報の集約</td> <td>多様なコンテンツづくり (アニメ、映画、音楽、演劇など) 全国及び各地域におけるプライドライブラリーの構築</td> </tr> <tr> <td>情報ネットワークの構築</td> <td>既存HPの活用・連携 / 地域プライドデータベースの構築 活動拠点の設置 / 同種の地域プライドを有する地域との交流 / 地域プライドフォーラムの開催</td> </tr> </table>	情報発信能力の向上	コンテンツの工夫 情報の集約	多様なコンテンツづくり (アニメ、映画、音楽、演劇など) 全国及び各地域におけるプライドライブラリーの構築	情報ネットワークの構築	既存HPの活用・連携 / 地域プライドデータベースの構築 活動拠点の設置 / 同種の地域プライドを有する地域との交流 / 地域プライドフォーラムの開催				
情報発信能力の向上	コンテンツの工夫 情報の集約	多様なコンテンツづくり (アニメ、映画、音楽、演劇など) 全国及び各地域におけるプライドライブラリーの構築										
	情報ネットワークの構築	既存HPの活用・連携 / 地域プライドデータベースの構築 活動拠点の設置 / 同種の地域プライドを有する地域との交流 / 地域プライドフォーラムの開催										
財源確保	継続できる経済的な基盤が整っている 地域の活動を支援できるシステムがある	<ul style="list-style-type: none"> ・財政難による補助金削減 ・資金調達能力の不足 ・既存支援策の活用不足 	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">情報発信能力の向上</td> <td>収益構造の検討 支援制度の活用</td> <td>寄付・基金・トラスト等 / 観光・商品販売など 既存支援制度の周知及び活用アイデアの発信など 地域提案型・市民提案型事業への提案の促進</td> </tr> </table>	情報発信能力の向上	収益構造の検討 支援制度の活用	寄付・基金・トラスト等 / 観光・商品販売など 既存支援制度の周知及び活用アイデアの発信など 地域提案型・市民提案型事業への提案の促進						
情報発信能力の向上	収益構造の検討 支援制度の活用	寄付・基金・トラスト等 / 観光・商品販売など 既存支援制度の周知及び活用アイデアの発信など 地域提案型・市民提案型事業への提案の促進										

個性ある人づくり・自立する地域づくり

(4) 提言

- ・ 「地域」とは、地理的な条件や気候的条件、いわゆる風土とそこに住む人々の資質や活動により成り立っているものである。しかし、近年、人の移動の高速化、広範化が進むとともに、情報交換手段の高度化が進み、「地域」という枠がなくなり、地域の空洞化が深刻化してきている。そのため、これまで地域で育まれてきた地域の誇りやコミュニティが希薄となり、さらなる空洞化が進むという悪循環に陥っている。
- ・ その打開策として、地域の独自性や創意工夫による地域づくりが進められているが、その際、重要なポイントとなるのは、地域がこれまでに守り受け継いできた歴史的な地域プライドである。歴史的な地域プライドを守り受け継ぐことにより、いわゆる地域に根ざした「文化資本」としての付加価値を生み出し、地域活力の再生へ活用することで、地域住民が住みよいわが町を誇りに思い、地域外からの交流人口を呼び込むことができる有効な手段であると言える。
- ・ 本節では、検討委員会や地域プライドフォーラムにおける意見をもとに、今後さらなる地域づくりに向けた提言を整理する。

歴史的な地域プライドによる地域づくりは、地域住民の「アクション」から始まる

- ・ 歴史的な地域プライドは、あまりにも身近にあるためその重要性を認識していない場合も少なくないため、外部の人から発掘、再評価されることもある。ただし、その後については自分たちの地域は自分たちの手でつくるという意識が重要である。つまり、他人任せではなく、自分でできることは自分でやるといった内発的な地域づくりを進めることが最も重要である。行政としては、やる気のある人が力を発揮できる仕組みをつくることが求められている。

歴史的な地域プライドに配慮した市町村合併後の地域づくりへの支援

- ・ 地方分権の推進や効率的な行政サービスの提供に向け市町村合併が進められている。市町村合併することとなる旧市町村（または地域）においては、それぞれの風土、歴史・文化が育まれており、それぞれの歴史的な地域プライドが存在してきていることが想定できる。
- ・ 市町村合併により複数の地域を1つに束ねた新市の建設方針等を策定することとなる。その際、新市建設の理念や将来像までも1つに束ねようとする、各地域の住民が共感・共有できないものになる可能性がある。一方、各地域のプライド等を尊重しすぎると新市としてのまとまりがないものとなる可能性もある。新市建設の理念や将来像を作成する際には各地域の歴史的な地域プライドを再認識し、各地域の住民と十分な話し合いを行うことが必要である。
- ・ 合併により行政区域は変わるものの、住民意識にある歴史的な地域プライド（地域固有の精神文化）は普遍のものであり、新市に移行してもこれまでと同様に歴史的な地域プライドによる地域づくりを続けていくことが地域独自の個性ある人づくり・自立する地域づくりに不可欠である。新市において地域独自の取り組みが継続できるよう支援体制を構築することが求められている。

地域づくりの人材育成支援（若者の育成）

- ・ 歴史的地域プライドによる地域づくりには、地元住民の「アクション」が大事であり、さらにはそれを継続することが必要である。
- ・ フリーターやニートと呼ばれる若者が増加しているが、若者は自分の居場所、地域における存在意義を模索しているとも考えられる。
- ・ そこで、若者が興味を持つよう社会の仕組み、取り組み支援を行うことが求められる。個人個人は対等な立場で、オープンな空間の下、自由な話し合いで民主的に物事を決め、さらには誰もが主役・リーダーになれるというシステムを構築することが重要である。これにより、若者にも上からの押し付けではなく、自分たちが自ら行動でき、達成感も得られる仕組みができる。

地域づくりの人材育成支援（団塊の世代を動員）

- ・ 日本の高度成長を支えてきた団塊の世代が定年退職を向かえる時期に来ている。いわゆる「2007年問題」であるが、これらの人材を地域づくりに動員することができれば、地域住民による地域づくりが促進できる。
- ・ ただし、高度成長期を生き抜いてきたため、短期間に成果を挙げるといふ成果志向が強いと考えられる。歴史的地域プライドによる地域づくりは前述のように時間をかけながら進めることが有効であるため、あせらずゆっくりと時間を使うことに慣れることが必要である。

自律的な観光行動への対応

- ・ 歴史的地域プライドにより自立できる地域づくりを進めるに当たって、その1つの方策として観光資源としての活用である。これまでは国内外の旅行という団体パッケージ、名勝見学、周遊型といった観光がほとんどであったが、これからは個人・家族等の小単位、体験・自己実現、滞在型の、いわば自律的な観光が主流を占めてくるといわれている。
- ・ 祭りや芸能などの歴史的地域プライドについては、単なる見学だけではなく、体験できる仕掛けづくりを行うことにより観光客の需要を獲得することが有効である。それでこそ単なる観光から、訪れる人々が地域プライドに触れ、同時に幸せを感じられる「感幸」となり、人々がリピーターとして地域を訪れるようになることが期待できる。

歴史的地域プライドによる地域づくりを促進するインフラ整備

- ・ 歴史的地域プライドによる地域づくりを継続するためには、そのプライドの情報や資料を集約し保存する施設や、活動の拠点となる場が必要となる。また、祭りやイベントなどの開催にあたっては、人々を呼び込むための情報発信力や、実際の人の動きを支える交通手段が必要である。さらに、住民が地域活動に参加しやすい地域づくりのシステムの構築を行うことが求められる。
- ・ 行政は、地域住民と協働して地域づくりを進めると同時に、上記のような地域づくりを促進するための環境整備、インフラ整備を進めることが求められる。